

『遊林会』を対象とした  
里山保全団体における組織マネジメント

浅井 千穂

環境計画学科環境社会計画専攻において学士（環境科学）の学位授与の資格の  
一部として滋賀県立大学環境科学部に提出した研究報告書

2009 年度

承認

---

指導

# 『遊林会』を対象とした 里山保全団体における組織マネジメント

近藤研究室 0612001 浅井千穂

## 1. 研究の背景

### (1) 里山の現状

里地里山とは、人為による適度な攪乱により特有の環境が形成及び維持された、生物多様性保全上重要な地域である。さらに、身近な自然とのふれあいの場としても欠かせない地域となっている。しかし近年里地里山の消失や質の低下が顕在化している<sup>1)</sup>。

今後の里山は地域住民とよそ者で里山を共有し、管理されることにより将来に渡って引き継がれ、「グローバル」なコモンズともなりうる可能性を持っており、「共的」な仕組みが求められている<sup>2)</sup>。

### (2) 研究対象『遊林会』について

里山を管理する組織として里山保全団体がある。里山保全団体の問題として参加者確保がある<sup>3)</sup>。しかし、滋賀県東近江市で活動している『遊林会』は「楽しくなければ続かない」を合言葉に12年間活動を続け、参加者を50人程確保している。そこで本研究では、多くの里山保全団体の問題である「参加者確保」に成功している『遊林会』に焦点を当て調査を行う。

### (3) 「場のマネジメント」について

大勢の人間が集う空間には情報が満ちており、空間を共有している人間達は、観察や情報発信を半ば知らず知らずにしている。そうした人間の能力と空間の特性を、組織の経営に取り入れるのが「場のマネジメント」である。「仕事の現場で、仕事をするプロセス自体の中で、人々の間で情報が自然に交換・共有され、人々が相互に心理的な刺激を与え合うように、どのようにしたらできるか」を考え、提案することが重要であるとされている<sup>4)</sup>。

## 2. 研究の目的・意義

里山保全団体の多くが抱えている「参加者の確保」という問題点の解決策を探し出すことを目的とする。そして、ボランティアの人々が継続的に里山保全活動に参加しようと思う団体の「場」とは何かを「場の論理」を基に『遊林会』に焦点をあて考察することを目的とする。また比較・考察するために滋賀県内にある里山保全団体にも調査を行う。

研究の意義は、多くの里山保全団体が抱えている「参加者確保」という問題を解決する「場」のマネジメントを提案することで、里山保全団体などの組織運営をしていく上で、参考資料になるとことであると考えられる。

## 3. 研究方法

### (1) 調査方法

調査を行うにあたり、『遊林会』の活動の中でも参加者の人数が多く、設立当初からある第2土曜日定例活動にて参加・観察を行う。また参加者の『遊林会』に対しての意識調査、活動詳細を調べるためにアンケートを行う。これを2009年3月から2009年8月まで行う。また、『遊林会』の特徴を明らかにするために、『遊林会』と同じように10年ほど活動が続き、活動の方向性等が定まっている団体を選び、1度定例活動に参加し、調査を行う。

表1 他団体一覧

団体名	活動開始	定例活動
NPO法人ヒマラヤングリーンクラブ	1993年	月1回
NPO自然と緑	2002年	月1回
NPO法人やまんばの会	2000年	第1土曜日
つつじの会	1988年	月3回

### (2) アンケート内容

#### 個人シート

個人シートは参加者の性別や年齢などの基本情報を知るためのアンケートである。

表2 個人シート質問項目

Q1	名前/ペンネーム	自由記述
Q2	性別	男性 女性
Q3	年齢	9歳以下 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代 90
Q4	居住地	県/府, 市/町/村
Q5	職業	学生 会社員 公務員 自営業 専業主婦・主夫 フリーター 無職 その他
Q6	いつから活動に参加しているか	自由記述
Q7	活動への参加頻度	今回初めての参加 年に3,4回以下 年に5,6回位 年に7~11回 毎月1回位 毎月2回位 毎月3回位 毎月4回位 より多くの参加 その他
Q8	活動中での役割	自由記述
Q9	参加の経緯	友達に誘われて HPを見て たまたま遊びに来た その他 里山に興味があるから 自然が好きだから 楽しいから 体を動かせるから ストレス発散できるから 勉強になるから 料理がおいしいから いろんな人と出会えるから なんとなく 地域に貢献したいから その他
Q10	活動に参加する理由1位~3位	
Q11	あなたが思うすばらしさ	自由記述

#### 足跡シート

足跡シートは参加者の活動経路を知るためのアンケートである。参加者がどこへ行き、どういった内容の作業をしたか、何を感じたか、誰と話したかな

どの出来事や感じたことを記入してもらう。これにより、参加者の活動内容が詳しくわかり、活動の中でどういった情動的・心理的相互作用を得たかを知ることができる。例としてAさんの5月の足跡シートから得られた情報が表2のとおりである。表の心対象の空白は未記入のものである。

表3 足跡シートから得られる情報

時間	活動内容	感想内容	心対象	情対象	場所
9時	集合、自然観	図鑑を参考に観察会		自然観察	草原
10時	集合、自然観	くちなしの花(クチナシや花から下は過ぐにあご)		植物	草原
11時	集合、自然観	ユシキギの翼をはじめて知った(トゲじゃなく翼というんですね)		植物	草原
10時、11時	午前の作業	竹林の整備、今月は竹は一本も切らず切らず、久しぶりの汗!		作業	ハチクの林
12時	昼食	いつものおいしい食事	料理	料理	作業小屋

### (3)分析方法

#### 3次元時・空間における参加者の活動経路作成

まず足跡シートから3次元時・空間における参加者の活動経路を作る。これは、参加者の活動経路を3次元で表すもので、団体の活動場所である地図と時間軸で作る。その個人の3次元時・空間における参加者の活動経路を個人の行動パターンとして扱い、各月毎に活動参加者全員の行動パターンを合わせたものを活動パターンとする。これにより個人・各月の活動の流れを一目でわかるようにしている。

#### モデル図作成

『遊林会』の活動にはある程度決まった個人の行動パターンがあるのかを調べるために、類似した個人の行動パターンを集めて一つのグループとして扱いモデル図を作る。

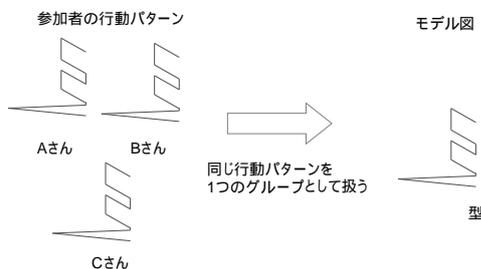


図1 モデル図作成までの流れ

#### 他団体との比較

『遊林会』の特徴を明らかにするために他団体も同じようにの作業を行う。そして、『遊林会』と他団体とに分けて、『遊林会』の特徴を考察するために、他団体との違いをアンケート・活動観察・活動パターン等得られた情報からKJ法を用いて考察する。『遊林会』の場のマネジメントのあり方を考察

し、里山保全団体やその他のボランティア団体、組織に共通して提案できるであろう、場のマネジメントの方法を提案していく。

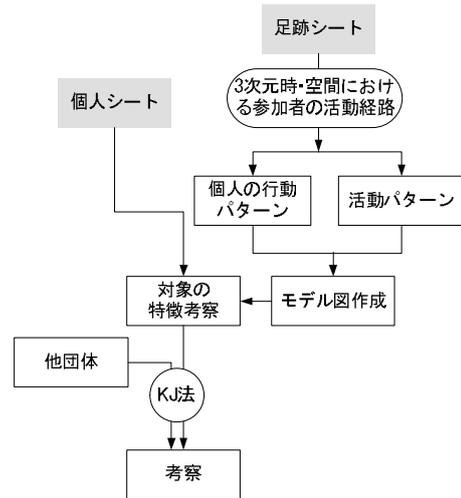


図2 分析方法

### 4.結果

定例活動に参加し、参加者全員に対してアンケート配布を行った。また活動には「河辺いきものの森」の常駐スタッフも参加しているため、8月にはスタッフ5名にもアンケートに協力していただいた。回収状況は表3のとおりである。3月分は、回収率が低いので分析に用いない。

表4 『遊林会』定例活動参加者のアンケート回収状況

	配布数	回収枚数	回収率
2009年3月	31	6	19%
2009年4月	27	23	85%
2009年5月	22	18	82%
2009年6月	20	14	70%
2009年8月	26	20	77%
合計	126	81	64%
3月抜き合計	95	75	79%

#### (1) 『遊林会』の活動内容

『遊林会』の活動内容は以下のとおりである。まず9時までに参加者は作業小屋と呼ばれる建物に集合、1時間ほど自然観察へ行く。「木を伐って森を残す本日の作業メニュー」という用紙を見て何の作業をするか決め、12時まで午前作業を行う。途中お茶休憩がある。12時になると作業小屋に戻り、空いている席に座る。各テーブルには食事班が作ったいろいろな料理が大皿に盛り付けられて置いてある。昼食時に活動報告や新人紹介のコーナーがある。昼食が終わると、午後の作業へと向かう。しかし作業へ向かわずに団楽を続ける人や、片づけをする人、子供と遊ぶ人、帰る人などもいる。作業は

15 時ごろに活動が終わる。

そしてこの活動内容を 3 次元時・空間における参加者の活動経路として描いたものが図 3 である。

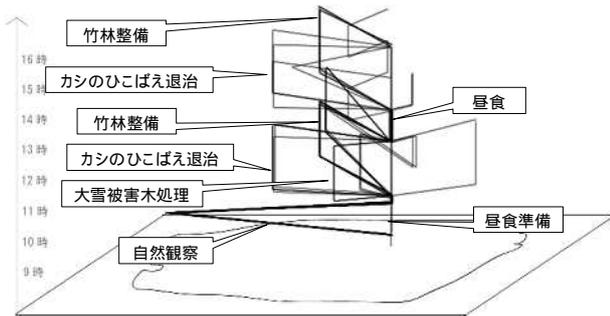


図 3 『遊林会』3次元時・空間における参加者の活動経路 (2009 年 4 月)

そして、4 か月分の参加者の行動パターンのグループ化を行い、出来上がった『遊林会』の活動モデル図が図 4 である。合計 9 つのモデル図ができた。参加者は活動のなかの小さな選択を自分好みにアレンジして、1 日の活動を行っていることがわかった。

—	おもてなし型 ・同じ場所にずっといる作業 ・緑の下の力持ち
〰〰〰	ひとすじがっつり型 ・すべての作業に参加 ・午前と午後は同じ作業を行う
〰〰〰	いろいろがっつり型 ・すべての作業に参加 ・午前と午後は違う作業を行う
〰〰〰	がっつり団楽型 (午後おもてなし型) ・午前は全ての作業に参加 ・午後は作業小屋で団楽
〰〰〰	午前がっつり団楽型 ・午前は全ての作業に参加 ・午後は昼食を食べて帰宅
〰〰〰	ゆったり型 ・午前は準備体操か午前作業から参加 ・午後は昼食を食べて帰宅
〰〰〰	作業オンリー型 ・午前作業から参加 ・午後作業をして帰宅
〰〰〰	午後型 ・昼食から参加 ・午後作業をして帰宅
〰〰〰	午後型 ・午前作業途中から参加 ・午後は子供と遊んだり、作業したり

図 4 『遊林会』

### (2)他団体との活動内容の違い

他団体との活動内容を時間ごとに比べたものが図 5 である。他団体では駅集合や送迎の車がある他、昼食は持参か、買いに行くといった違いがある。

### (3)各団体の活動パターン

各団体の活動パターンのモデル図を図 6 に表した。

『NPO 法人つつじの会』では足跡シートは配布できず、また、全員の顔が見れる範囲での活動であったため、モデル図は作っていない。

15時	NPO自然と緑	NPO法人やまんばんの会	遊林会	NPO法人ヒマラヤングリーンクラブ	つつじの会
14時	反省会 (酒) 中止				
13時	作業再開	雨のため作業中止 作業開始	作業・団楽開始	作業再開	お茶飲み
12時	雨が降り出し、早めの昼食 (持参弁当とノーマル)	昼食 (カップラーメン)	昼食 (料理、酒)	昼食 (各自弁当)	お昼 (近くの市場のお弁当)
11時	作業開始	作業開始	作業 お茶休憩	作業開始	作業開始
10時	作業内容確認 作業地到着 北小松駅 集合	作業開始	作業 作業内容配布 準備体操	作業開始	作業開始
9時	発送作業	発送作業	自然観察	駐車場集合	田島さん小屋集合
8時		やまんばんの森集合	河辺の森 集合	JR五工八幡駅集合	

図 5 活動内容

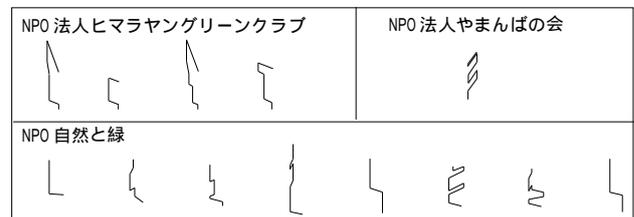


図 6 各団体のモデル図

『NPO 法人ヒマラヤングリーンクラブ』では、2 グループに分かれて活動を行った。そして 12 時で帰る人と、午後も参加する人がいたのでモデル図は 4 つ。『NPO 法人やまんばんの会』は参加者全員同じ作業を一緒に行ったので 1 つ。『NPO 自然と緑』は特徴的で、同じ行動をとる人がいなかったため、各個人の行動パターンを全てモデル図で表した。このことから、初心者がいなければ 1 人 1 人自立した活動を行うようになることがわかった。

## 5. アンケート・活動参加から得られた特徴

### (1) 活動参加とアンケート調査 KJ 法

他団体と『遊林会』との違いを活動参加・アンケート調査を元に KJ 法を用いて考察を行った。情報公開

『つつじの会』では部外者に情報公開しておらず、参加の方法が全くわからない。他の団体も活動報告はホームページに文章で軽くしか載せていない。しかし『遊林会』では活動日ごとに写真を使っの活動報告をしている。

集合場所

他団体の集合場所は現地または駅となっている。『遊林会』は参加者全員が自分の足で来ており、活動に参加する時間を個人で決められる事も参加しやすい要因であると考えられる。

参加者の居住地

『遊林会』は68%が活動場所のある市に住んでおり、活動に参加しやすくなっている。その他の団体では、活動場所付近に住んでいる人は半分もいない。

参加者の年代

参加者はどの団体も50代と60代が半数以上を占めている。しかし、『遊林会』は10~70代全ての参加者がおり、多種多様な人々が集まっており、世代を超えた様々な情報が得られる。

(2)「あなたが思うすばらしさ」において

アンケートの項目にある「あなたが思うすばらしさ」で得られたコメント全てを『遊林会』と『他団体』とに分けてKJ法によりグループ化し違いを調べた。その結果が表5である。そして、グループの違いが出た4つの項目について考察した。

表5 すばらしさKJ法

『遊林会』	他団体
リラックス	リラックス
人	人
自由	自由
学習	学習
自然	自然
共同	
食	
	第三者
	団体理念

「共同」  
『遊林会』は共同を五感でとらえているが、他団体は論理的にとらえている。

「食」  
『遊林会』では、昼食に料理班から手料理が出され、参加者全員で料理を食べる。他団体では持参のお弁当や

買いに行くなどして食べており、食に関するコメントはなかった。よって、食事の仕方によって参加者の意識が変わることがわかった。

「第三者」

自分が楽しむことを第一にしている『遊林会』とは違い、他団体は第三者のことも考えて活動をしている。

「団体理念」

より、『遊林会』の参加者は「第三者のための活動」「団体理念を頭に入れての活動」よりも、「自分達が楽しむため・自分達の地域をよくするための活動」という考え方で活動している。

以上のことから、『遊林会』では五感を通しての活動の楽しみ方や、自分の楽しさを中心に活動をしている人がいることがわかった。

(3)『遊林会』の特徴の根本的理由

(1)(2)で述べた『遊林会』の特徴が場のマネジメ

ントにおいてどのような役割を担っているのかを考察しキーワードを5つ導き出した。

信頼性

リーダーが対人能力やコミュニケーション能力に優れており、フラットな関係を構築することが重要であり、それによって活動の信頼性を得られる。

自主性

『遊林会』ではいろいろな場面で「選択」という行動があり、参加主体に参加手法の決定権がある。

自由性

遊林会では集合場所が活動場所であり、それぞれの交通手段で来ているので来る時間・帰る時間が自由であり、自分のペースで作業が進められる。

情報共有

『遊林会』では活動内外で情報が上手に流れており、参加者全員に情報が行き届くようになっている。また、初めての参加者も事前に活動の雰囲気を知ることができ、不安要素も減り参加しやすい。

定常性

『遊林会』では活動日がきちんと決まっている。雨の日も雪の日も活動があるので『遊林会』の活動日を日課にしやすい。また『遊林会』の参加者は68%が市民であり、遊林会は市民にとってのコミュニティの場としても活用されているといえる。

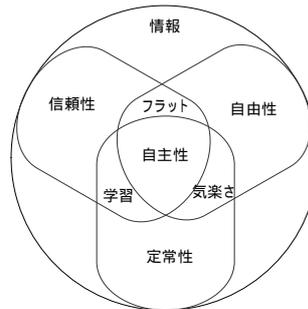


図5-1 『遊林会』のマネジメント

これらをまとめると情報共有を元に、キーパーソン、自由性、定常性がそれぞれ重なって存在しており、全て重なることによって自主性が生まれていることがわかる。つまり、参加者の参加意欲を保つためには自主性を持たせることが重要であり、『遊林会』の場のマネジメントでは、キーパーソン、自由性、定常性を参加者に与えることで自主性を引き出していることがわかった。

参考文献

- 1)環境省 HP, データ, 2009-01-12  
<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=5059>
- 2)深町加津枝:ローカルコモンズとしての里地里山、緑の読本, 79, 38~43 (2008)
- 3)環境省報告書, 里地里山の保全活動に関するアンケート調査 調査結果報告書 (2007)
- 4)伊丹敬之:場の論理とマネジメント, 5-8, 東洋経済印刷(2005)

# Research on ideal way of organization management in mountain maintenance group of hometown intended for 'Yurinkai'

ASAI , Chiho

## 1. Purpose and Background

The hometown mountain is an important region in the biodiversity maintenance. In addition, it is a region indispensable as the place of touch with neighboring nature. There is a mountain maintenance group of the hometown as an organization that manages the hometown mountain. 'Yurinkai' has succeeded in the participant securing that is the problem of a lot of groups. Then, the device of the management of 'Yurinkai' is considered.

## 2. Method of analyze

It participates in the activity of 'Yurinkai', and the observation and the questionnaire are done. This is done from March to August, 2009. Moreover, to clarify the feature of 'Yurinkai', the same investigation is done to another group once.

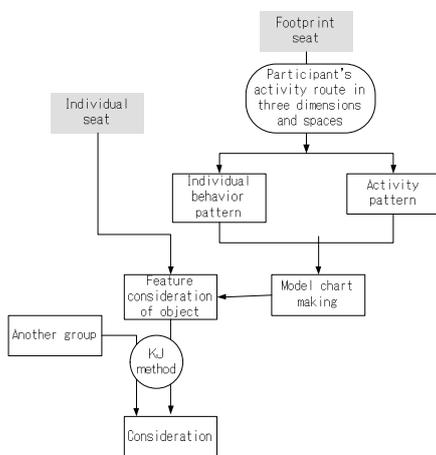


Figure 1. The flow of research

## 3. Result of analysis

### 3-1 Activity participation and questionnaire

Another group and the difference with 'Yurinkai' were considered by using the KJ method based on the activity participation and the questionnaire survey. It disclosed information, and as a result, it was an item of departure point and participant's place of residences and participants' ages and there was a difference.

### 3-2 KJ method in "Wonderful that you think of"

The difference was examined by all the comments on "Wonderful that you thought of" of the questionnaire item. As a result, it is jointly differing by the item like food, the third party, and the group idea, etc. It has been understood that there are how to enjoy the activity through senses and a person who is acting around my happiness in 'Yurinkai' from this.

## 4. Conclusion

What role the feature of 'Yurinkai' described by three played in the management of the place was considered and five key words were derived. Five key words are reliabilities, are the autonomies, free, intelligence sharing and regular. These five key words are features of the management of 'a'.

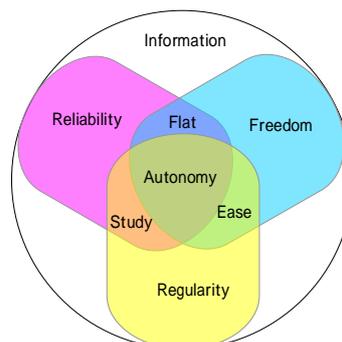


Figure 2. Management chart of 'Yurinkai'

## 目 次

第一章	序論	1
1-1	本研究の背景	1
1-1-1	里山の現状	1
1-1-2	里山保全団体の現状と問題点	1
1-1-3	「遊林会」の現状	2
1-1-4	場のマネジメント	3
1-2	本研究の目的と意義	6
1-2-1	本研究の目的	6
1-2-2	本研究の意義	6
	参考文献	7
第二章	研究方法	8
2-1	調査方法	8
2-1-1	アンケート内容	8
2-1-2	他団体の調査方法	10
2-2	分析方法	10
2-2-1	3次元時・空間における参加者の活動経路	11
2-2-2	モデル図作成	11
2-2-3	他団体との比較	12
第三章	『遊林会』における場のマネジメントについて	13
3-1	アンケート回収結果	13
3-1-1	『遊林会』アンケート回収率	13
3-1-2	アンケート結果	13
3-2	『遊林会』定例活動の内容	19
3-2-1	活動内容	19
3-2-2	3次元時・空間における参加者の活動経路	22
3-3	1人1人の活動の流れ	27
3-4	タイプ別の活動の流れ	37
3-5	本章のまとめ	42
	参考文献	42
第四章	他団体の活動調査	43
4-1	他団体の選択	43
4-1-1	『NPO 法人ヒマラヤングリーンクラブ』	43
4-1-2	『NPO 自然と緑』	43
4-1-3	『NPO 法人やまんばの会』	43
4-1-4	『つつじの会』	44
4-2	アンケート	44
4-3	他団体の活動の内容	44
4-3-1	『NPO 法人ヒマラヤングリーンクラブ』	44
4-3-2	『NPO 自然と緑』	45
4-3-3	『NPO 法人やまんばの会』	46
4-3-4	『つつじの会』	47

4-4	3次元時・空間における参加者の活動経路	48
4-4-1	『NPO 法人ヒマラヤングリーンクラブ』	48
4-4-2	『NPO 自然と緑』	49
4-4-3	『NPO 法人やまんばの会』	50
4-4-4	『つつじの会』	51
4-5	本章のまとめ	52
	参考文献	53
第五章	結論	54
5-1	『遊林会』と他団体とのデータによる違い	54
5-1-1	情報公開	54
5-1-2	集合場所	54
5-1-3	参加者の居住地	55
5-1-4	参加者の年代	57
5-2	『遊林会』と他団体の「あなたが思うすばらしさ」回答の違い	57
5-2-1	すばらしさのグループ化	57
5-2-2	『遊林会』の特徴	60
5-3	『遊林会』の場のマネジメント	62
5-3-1	『遊林会』の場のマネジメント特徴	62
5-3-2	信頼性	66
5-3-3	自主性	67
5-3-4	自由性	67
5-3-5	情報共有	68
5-3-6	定常性	68
5-4	場のマネジメントの提案	69
	参考文献	70

## 図 表 目 次

図 1-1	文献の引用回数の推移	3
図 1-2	『遊林会』参加者語らいの写真(2009年12月,河辺いきものの森にて)……	3
図 1-3	場のマネジメントを行うことによって起る新しい発想組織の活力への流れ	6
図 2-1	足跡シート	10
図 2-2	分析の流れ	11
図 2-3	活動パターン作成までの流れ	12
図 2-4	モデル図作成までの流れ	12
図 3-1	『遊林会』参加者の性別比率	13
図 3-2	『遊林会』参加者の年代比率	14
図 3-3	『遊林会』参加者の現住所比率	14
図 3-4	『遊林会』参加者の職種比率	15
図 3-5	『遊林会』参加者の参加年数	15
図 3-6	『遊林会』参加者の活動参加頻度比率	16
図 3-7	『遊林会』参加者の参加経緯比率	16
図 3-8	『遊林会』参加者の参加経緯比率2	18
図 3-9	『遊林会』の参加理由1~3位比率	18
図 3-10	『遊林会』の活動タイムスケジュール	19
図 3-11	自然観察(2009年6月)	20
図 3-12	「木を伐って森を残す本日の作業メニュー」(2009年6月)	20
図 3-13	午前作業(2009年6月)	21
図 3-14	昼食(2009年6月)	21
図 3-15	『遊林会』MAP	22
図 3-16	『遊林会』参加者Aさんの3次元時・空間における活動経路(2009年4月)	23
図 3-17	『遊林会』3次元時・空間における参加者の活動経路(2009年4月)	24
図 3-18	『遊林会』3次元時・空間における参加者の活動経路(2009年5月)	24
図 3-19	『遊林会』3次元時・空間における参加者の活動経路(2009年6月)	25
図 3-20	『遊林会』3次元時・空間における参加者の活動経路(2009年8月)	26
図 3-21	『遊林会』の活動基本形	26
図 3-22	『遊林会』の3次元時・空間における個人の活動経路一覧表	27
図 3-23	グループ分けの方法	27
図 3-24	おもてなし型	28
図 3-25	活動全体の中のおもてなし型(2009年4月)	28
図 3-26	ひとすじがっつり型	29
図 3-27	活動全体の中のおもてなし型	29
図 3-28	いろいろがっつり型	30
図 3-29	活動全体の中のいろいろがっつり型	30
図 3-30	がっつり団欒型	31
図 3-31	活動全体の中のがっつり団欒型	31
図 3-32	午前がっつり型	32
図 3-33	活動全体の中の午前がっつり型	32
図 3-34	ゆったり型	33
図 3-35	活動全体の中のゆったり型(2009年4月)	33

図 3-36	作業オンリー型	34
図 3-37	活動全体の中の作業オンリー型	34
図 3-38	午後型	35
図 3-39	活動全体の中の午後型	35
図 3-40	うろろう型	36
図 3-41	活動全体の中のうろろう型	36
図 3-42	『遊林会』4月定例活動 3次元時・空間における参加者の活動経路	37
図 3-43	『遊林会』4月定例活動の行動パターンの集まり方	38
図 3-44	『遊林会』5月定例活動 3次元時・空間における参加者の活動経路	39
図 3-45	『遊林会』5月定例活動の行動パターンの集まり方	39
図 3-46	『遊林会』6月定例活動 3次元時・空間における参加者の活動経路	40
図 3-47	『遊林会』6月定例活動の行動パターンの集まり方	40
図 3-48	『遊林会』8月定例活動 3次元時・空間における参加者の活動経路	41
図 3-49	『遊林会』8月定例活動の行動パターンの集まり方	41
図 4-1	『NPO 法人 ヒマラヤングリーンクラブ』の活動の流れ	45
図 4-2	『ヒマラヤングリーンクラブ』定例活動写真(2009年6月)	45
図 4-3	『NPO 自然と緑』の活動の流れ	46
図 4-4	『NPO 法人 やまんばの会』の活動の流れ	47
図 4-5	『NPO 法人やまんばの会』定例活動写真(2009年8月)	47
図 4-6	『つつじの会』の活動の流れ	48
図 4-7	『NPO 法人ヒマラヤングリーンクラブ』3次元時・空間における参加者の活動経路	49
図 4-8	3次元時・空間における個人の活動経路一覧表	49
図 4-9	『NPO 自然と緑』3次元時・空間における参加者の活動経路	50
図 4-10	3次元時・空間における個人の活動経路一覧表	50
図 4-11	『NPO 法人やまんばの会』3次元時・空間における参加者の活動経路	51
図 4-12	3次元時・空間における個人の活動経路一覧表	51
図 5-1	各団体の活動の流れ	54
図 5-2	各団体参加者の居住地	55
図 5-3	『遊林会』の参加者の住んでいる市	55
図 5-4	『やまんば』参加者の住んでいる市	55
図 5-5	各団体参加者の年代	56
図 5-6	『遊林会』の場のマネジメント	68
表 1-1	各企業の場のマネジメントの内容 4	4
表 2-1	個人シート質問項目	9
表 3-1	『遊林会』定例活動参加者へのアンケート回収状況	13
表 3-2	参加経緯・その他	17
表 3-3	Aさん活動表(2009年4月)	23
表 4-1	他団体一覧表	43
表 4-2	『NPO 法人ヒマラヤングリーンクラブ』アンケート回収状況	44
表 4-3	他団体分析結果一覧表	52
表 5-1	KJ法による『遊林会』と他団体の違い	53
表 5-2	KJ法による『遊林会』参加者が思うすばらしさのグループ化	57
表 5-3	KJ法による『他団体』参加者が思うすばらしさのグループ化	58
表 5-4	参加者が思うすばらしさの違い	59

表 5-5 『遊林会』の特徴 .....	62
表 5-6 『遊林会』の特徴とその理由 .....	63
表 5-7 『遊林会』の特徴と根本的理由 .....	64
表 5-8 『遊林会』の場のマネジメントで必要要素となっているキーワード .....	65

## 図 表 目 次

図 1-1	文献の引用回数の推移	3
図 1-2	『遊林会』参加者語らいの写真(2009年12月,河辺いきものの森にて)……	3
図 1-3	場のマネジメントを行うことによって起る新しい発想組織の活力への流れ	6
図 2-1	足跡シート	10
図 2-2	分析の流れ	11
図 2-3	活動パターン作成までの流れ	12
図 2-4	モデル図作成までの流れ	12
図 3-1	『遊林会』参加者の性別比率	13
図 3-2	『遊林会』参加者の年代比率	14
図 3-3	『遊林会』参加者の現住所比率	14
図 3-4	『遊林会』参加者の職種比率	15
図 3-5	『遊林会』参加者の参加年数	15
図 3-6	『遊林会』参加者の活動参加頻度比率	16
図 3-7	『遊林会』参加者の参加経緯比率	16
図 3-8	『遊林会』参加者の参加経緯比率 2	18
図 3-9	『遊林会』の参加理由 1~3 位比率	18
図 3-10	『遊林会』の活動タイムスケジュール	19
図 3-11	自然観察(2009年6月)	20
図 3-12	「木を伐って森を残す本日の作業メニュー」(2009年6月)	20
図 3-13	午前作業(2009年6月)	21
図 3-14	昼食(2009年6月)	21
図 3-15	『遊林会』MAP	22
図 3-16	『遊林会』参加者 A さんの 3 次元時・空間における活動経路(2009年4月)	23
図 3-17	『遊林会』3 次元時・空間における参加者の活動経路(2009年4月)	24
図 3-18	『遊林会』3 次元時・空間における参加者の活動経路(2009年5月)	24
図 3-19	『遊林会』3 次元時・空間における参加者の活動経路(2009年6月)	25
図 3-20	『遊林会』3 次元時・空間における参加者の活動経路(2009年8月)	26
図 3-21	『遊林会』の活動基本形	26
図 3-22	『遊林会』の 3 次元時・空間における個人の活動経路一覧表	27
図 3-23	グループ分けの方法	27
図 3-24	おもてなし型	28
図 3-25	活動全体の中のおもてなし型(2009年4月)	28
図 3-26	ひとすじがっつり型	29
図 3-27	活動全体の中のおもてなし型	29
図 3-28	いろいろがっつり型	30
図 3-29	活動全体の中のいろいろがっつり型	30
図 3-30	がっつり団欒型	31
図 3-31	活動全体の中のがっつり団欒型	31
図 3-32	午ながっつり型	32
図 3-33	活動全体の中の午ながっつり型	32
図 3-34	ゆったり型	33
図 3-35	活動全体の中のゆったり型(2009年4月)	33

図 3-36	作業オンリー型	34
図 3-37	活動全体の中の作業オンリー型	34
図 3-38	午後型	35
図 3-39	活動全体の中の午後型	35
図 3-40	うろろう型	36
図 3-41	活動全体の中のうろろう型	36
図 3-42	『遊林会』4 月定例活動 3 次元時・空間における参加者の活動経路	37
図 3-43	『遊林会』4 月定例活動の行動パターンの集まり方	38
図 3-44	『遊林会』5 月定例活動 3 次元時・空間における参加者の活動経路	39
図 3-45	『遊林会』5 月定例活動の行動パターンの集まり方	39
図 3-46	『遊林会』6 月定例活動 3 次元時・空間における参加者の活動経路	40
図 3-47	『遊林会』6 月定例活動の行動パターンの集まり方	40
図 3-48	『遊林会』8 月定例活動 3 次元時・空間における参加者の活動経路	41
図 3-49	『遊林会』8 月定例活動の行動パターンの集まり方	41
図 4-1	『NPO 法人 ヒマラヤングリーンクラブ』の活動の流れ	45
図 4-2	『ヒマラヤングリーンクラブ』定例活動写真(2009 年 6 月)	45
図 4-3	『NPO 自然と緑』の活動の流れ	46
図 4-4	『NPO 法人 やまんばの会』の活動の流れ	47
図 4-5	『NPO 法人やまんばの会』定例活動写真(2009 年 8 月)	47
図 4-6	『つつじの会』の活動の流れ	48
図 4-7	『NPO 法人ヒマラヤングリーンクラブ』3 次元時・空間における参加者の活動経路	49
図 4-8	3 次元時・空間における個人の活動経路一覧表	49
図 4-9	『NPO 自然と緑』3 次元時・空間における参加者の活動経路	50
図 4-10	3 次元時・空間における個人の活動経路一覧表	50
図 4-11	『NPO 法人やまんばの会』3 次元時・空間における参加者の活動経路	51
図 4-12	3 次元時・空間における個人の活動経路一覧表	51
図 5-1	各団体の活動の流れ	54
図 5-2	各団体参加者の居住地	55
図 5-3	『遊林会』の参加者の住んでいる市	55
図 5-4	『やまんば』参加者の住んでいる市	56
図 5-5	各団体参加者の年代	56
図 5-6	『遊林会』の場のマネジメント	68
表 1-1	各企業の場のマネジメントの内容 4	4
表 2-1	個人シート質問項目	9
表 3-1	『遊林会』定例活動参加者へのアンケート回収状況	13
表 3-2	参加経緯・その他	17
表 3-3	A さん活動表(2009 年 4 月)	23
表 4-1	他団体一覧表	43
表 4-2	『NPO 法人ヒマラヤングリーンクラブクラブ』アンケート回収状況	44
表 4-3	他団体分析結果一覧表	52
表 5-1	KJ 法による『遊林会』と他団体の違い	53
表 5-2	KJ 法による『遊林会』参加者が思うすばらしさのグループ化	57
表 5-3	KJ 法による『他団体』参加者が思うすばらしさのグループ化	58
表 5-4	参加者が思うすばらしさの違い	59

表 5-5 『遊林会』の特徴 .....	62
表 5-6 『遊林会』の特徴とその理由 .....	63
表 5-7 『遊林会』の特徴と根本的理由 .....	64
表 5-8 『遊林会』の場のマネジメントで必要要素となっているキーワード .....	65

## 第 1 章

### 序論

## 第1章 序論

### 1-1 本研究の背景

#### 1-1-1 里山の現状

日本の国土に占める森林の割合は 68.2%であり，里地里山の割合は国土の 4 割である<sup>1)</sup>．里地里山とは，都市地域と奥山地域との中間に位置し，農林業等の様々な人間の働きかけを通じて環境が形成されてきた地域であり，二次林と，それらと混在する農地，ため池，草原等で構成されている．人為による適度な攪乱により特有の環境が形成及び維持されてきた里地里山は，メダカ等の希少種やカエル，カタクリ等を育てている生物多様性の保全上重要な地域であり，全国の希少種集中分布地域の 5 割以上が里地里山に当たる．さらに，身近な自然とのふれあいの場や自然環境教育のフィールドとしても欠かせない地域となっている．

しかし，近年で二次林（雑木林）の経済的利用価値が低下したことに加え，農山村では過疎化等による管理放棄，都市近郊では開発等の土地利用転換が急激に進むなど，里地里山の消失や質の低下が顕在化している<sup>2)</sup>．

今までの里地里山の管理の特徴を，滋賀県大津市守山を例に説明する．1930 年ごろの守山の集落では，地域住民が生活や生業を営むための伝統的な集落組織があった．これらは年齢に応じて役が決まる組織と，家の場所によって決まる地縁的な組織があり，多様な役割を分担していた．しかし，1960 年代以降，地域住民が生活や生業を通して，密接に共同しながら関わる機会は激減し，自然資源の持続的な利用を支えてきた地域固有の知恵や技術の継承は困難となった．1980 年代以降になると，全国各地で里地里山の多様な機能と意義が認知されるようになり，その利用と管理をめぐる市民活動が見られるようになった．市民活動の内容は，旧住民が所有する里山林や農地を借りて拠点を整備し，生活や余暇を通じた新たな里地里山の利用や管理に向け様々な試みを行うというものである．このように今後の里山は，よそ者も含めた普遍的な視点を取り組むことが重要であると考えられる．なぜならば，地域住民とよそ者とで里山を共有し，管理されることにより里山が将来に渡って引き継がれ，「ローカル」なコモンズとしてだけでなく「グローバル」なコモンズとしてもなりうるからである．各地域の特徴ある里地里山の利用，管理を通じて，新たな主体も含めた地域住民とよそ者が連携し，利益や負担の分配法なども含む，折り合いの付け方，あるいは合意を形成していく「共的」仕組みが求められているといえる<sup>3)</sup>．

#### 1-1-2 里山保全団体の現状と問題点

1-1-1 で述べたように，生物多様性の保全や身近な自然とのふれあいの場，コモンズの可能性が里地里山にはあある．その里地里山を管理している組織の 1 つが里山保全団体である．近畿圏だけでも 2007 年時点で 206 の里山保全団体が活動している．

里山保全管理の活動場所や活動方法には，様々なケースがある．公共団体の管理する公園，緑地に属するものから，企業等が私有地を自ら行うもの，民地を借地して行うものな

どがあり、地域ごとの事情も異なり、各々が独自の方法で場所を確保しているのが現状である。

まず、公共用地型—公園、緑地、その他の公有地林である、これは将来に渡り公共用地として確保され、林地としての役割が決められている場所は市民による里山保全の安定したフィールドとなる。しかし、公共用地の基本計画などとの調整が必要であり、場合によっては市民による保全管理の主体性が損なわれる危惧もある。

次に、民有地自営型—個人及び企業等所有地である。個人及び企業の方針に基づき、所有林を周辺の住民や社内ボランティアを巻き込んで保全管理していく方法もあるが、この場合にも地主及び企画者の方針と参加者の意向との調整が不可欠であり、参加者の主体性や達成感などを堅持することがキーポイントとなる。

最後に民有地借地型—個人及び企業所有地。このタイプは里山の保全管理を希望する市民及びそのグループが所有者に適当な林地を借地するという市民の主体性によってのみ成り立つ形態である。したがってやる気がなくなれば自然消滅する可能性を常に持っているが、手作りの活動の成果が実感できることや、その実績を持って所有者と話し合えば思わぬ方向へ活動が展開していく可能性もある<sup>4)</sup>。

このように里山保全をしていくには、活動場所、活動方法によって様々なタイプがあり、様々な問題を抱えている。しかし、どの団体も毎年苦労していることとして、参加者確保がある<sup>5)</sup>。そして参加者が確保できずに団体自体が消滅する場合もあり、里山管理自体が放棄される可能性もある。里山は長い年月をかけて管理していくものであり、継続的に活動を続けていくことは大変重要なことである。

しかし、里山保全団体には様々な問題がある中、滋賀県東近江市で活動している団体『遊林会』は「楽しくなければ続かない」を合言葉に頻繁に活動を行い、参加者も多く確保している。そこで本研究では、多くの里山保全団体が問題としている「参加者確保」に成功している『遊林会』に焦点を当てて調査を行う。

### 1-1-3 「遊林会」の現状

「遊林会」は滋賀県東近江市にある愛知川河辺林「河辺いきものの森」で、里山の保全を目的に1998年から活動している市民団体である。

定例活動は毎月第2土曜日と第4水曜日で午前9時から午後3時頃まで行っており、遅刻・早退自由である。第2土曜日の活動は『遊林会』の活動が始まった1998年からのもので、性別や市内外を問わず、小学生から90歳を超える方まで様々な人々50人ほどが活動している。また、水曜日の活動は退職して時間に余裕のある参加者が、「毎月1回では物足りないから、平日にも作業をしよう」という声から発生したもので、参加意欲が高いことがわかる。

10年以上たった現在でも毎月参加者を確保し続けている『遊林会』の特徴は、定例活動の内容である。その内容は、暑い日・寒い日の作業、簡単な作業もあれば力仕事もあり、

子供からお年寄り，男女問わず作業できるようになっている．また作業の割り当てやノルマは一切なく，遅刻早退も自由である．お昼には薪や炭を使った料理を味わいつつ，森の中の楽しい語らいの時間を大事にしている<sup>6)</sup>．



図 1-1 「河辺いきものの森」の地図<sup>7)</sup>



図 1-2 『遊林会』参加者語らいの写真（2009年12月，河辺いきものの森にて）<sup>7)</sup>

#### 1-1-4 場のマネジメント

ボランティアの人々が継続的に里山保全活動に参加しようと思う団体の「場」とは何かを、伊丹敬之の「場の論理」を基に考察していく。

大勢の人間が集う空間には情報が満ちている。なぜならその空間を共有している人間達が観察や情報発信を半ば知らず知らずに行っているからである。そうした人間の能力と空間の特性を、組織の経営に取り入れるのが「場のマネジメント」である。これをボランティア団体の運営でも適用できるのではないかと考えた。

「大勢の人間が集う空間には情報が満ちている」ということを、音楽を例に説明する。クラシックでは作曲家が書いたスコアという音楽のプランが、多くの楽器に分業した演奏者たちに出すべき音を音符という形で指定している。その音符の指定に解釈を加え一つのつながりと全体像をもった音楽に仕立て上げていくのは指揮者の役割であり、オーケストラでは指揮者がしばしば絶対君主にも似た立場といわれる司令塔である。しかしジャズでは、メロディーがあり、コードやモードがあるが、くわしい音の全指定をするスコアはなく、むしろ即興演奏こそがジャズの命で、各プレーヤーが音を作っていく部分が多い。ただしプレーヤーたちはただ勝手に演奏するのではなく、互いのプレーを観察しながら全体の流れを作ろうと努力する。そして、リーダーはいるが、彼もプレーヤーの1人であり、指揮者のような中央集権的司令塔専門家ではない。つまり、もの言わぬ共同作業が自然発生的に起きているのである。

こうした「場のマネジメント」を組織の経営に取り入れた会社を表 1-1 にまとめた。

表 1-1 各企業の場のマネジメントの内容

企業名	場のマネジメントの内容
ソニー	デスクの上に本を置かない
セイコーエプソン	設計、事業管理、営業の三部署を一つの部屋にまとめる
スチールケース社	役員の豪華な共有スペースを作り、「焦点装置」を設けた
ノキア	巨大カフェテリアを本社ビルの中心に設置
キヤノン	役員の毎朝会議
セブンイレブン	1500人毎週会議
トリンプ	70人毎朝会議
アサヒビール	感動の共有（仲間意識の芽生え）
その他	コーヒーポットと喫煙室

ソニーではフェイスツーフェイスのコミュニケーションの容易さを重んじていた。なぜなら、フェイスツーフェイスでないと、真剣さ、意図などが伝わりにくいからだ。よって、デスクの上に本を置かないようにしたのである。セイコーエプソンでは、会議の最中に声をかければ誰でもすぐに参加できるように設計、事業管理、営業の三部署全ての社員の机をすべて部屋の中心に向かせた。家具メーカーのスチールケース社では、役員個室は居間やダイニングテーブルのあるスイートルームのような豪華さであるがゆえに、居心地が良すぎ役員が部屋に閉じこもりがちであった。そこでフロア全体を役員達の豪華な共有スベ

ースに改造し自然とそこに人が集まるようにした。他にキヤノン、セブンイレブン、トリンプ、アサヒビールは定期的に会議を開き、コミュニケーションを取れる場を設けた。

さらに「場のマネジメント」を具体的に説明するためにフィンランドの携帯電話メーカー『ノキア』を例にあげる。ヘルシンキ郊外の『ノキアハウス』と呼ばれる本社ビルには、2つの大きな棟が中央部でくっついている。その接続部は通路でもあり、1000人を収容できる巨大なカフェテリアでもある。この構造は『ノキア』が「仕事の現場で、仕事をするプロセス自体の中で、人々の間で情報が自然に交換・共有され、人々が相互に心理的な刺激を与え合うように、どのようにしたらできるか」という問題意識から生まれたものである。カフェテリアというのは人々が簡単に集える場所であり、会議とは違い、気楽に会話ができる場所である。その自由さゆえに多様な情報交換と刺激を生み、そこから共通の理解や面白い発想、情報蓄積が生まれる。そして通路でもあることにより、通行している人がカフェテリアの議論を通して様々な事柄を観察できるのである。このように『ノキア』は人々が集まり、自由且つ必然的に情報交換できる場を生んだのである。そのことにより、情報交換した人間は心理的にも情報的にも相互作用が起こり、組織事態の情報蓄積、心理的エネルギーの蓄積になり、且つ共通理解が生まれることで、整合性のある決定ができてくる組織になるのである<sup>8)</sup>。

これらのことを図1-3にまとめた。まずコミュニケーションをとりやすい場を作り出すことにより、その場にいる人たちは自然に情報的、心理的相互作用を起こす。情報的相互作用からは各個人は情報蓄積を行い、心理的相互作用からは心理的共振を行う。また両方共通しているのが、情報と心理の共通理解である。そして個人の情報蓄積と共通理解から整合性ある決定がその場で行えるようになり、共通理解と心理的共振から心理的エネルギーが場にいる人たちに発生する。その整合性ある決定と、人々の心理的エネルギーにより、組織全体が共同的な行動を行えるようになり、新しい発想や組織の活力へとつながっていく。

肝心なのはメンバーが働きやすいような“よい舞台”をいかにつくるか、気力を沸き立たせるような環境をいかに整えるかということである。そのために必要なのが人々の間の情報と心理の相互刺激の舞台づくりをすることなのである。

このことは企業のような組織だけでなく、ボランティア団体でも言えることではないだろうか。

ボランティアでは会社の様な縛りはない分、人が集まりにくい。その分、ボランティア団体では場のマネジメントが必要であると考えられる。参加者の生活や気持ち等を考慮しつつ、参加者が「楽しい」と思える活動の場を作ることがボランティア団体の場のマネジメントで重要であると考えられる。そしてボランティア団体からの縛りではなく、参加者の「楽しい」から生まれる「また行きたい、活動したい」という気持ちによる、活動の継続が必要であると考えられる。

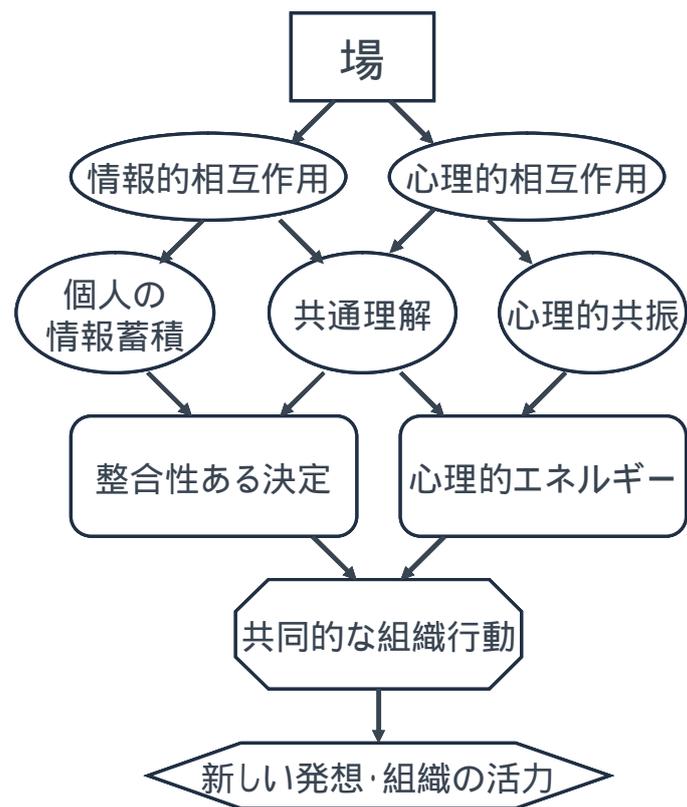


図 1-3 場のマネジメントを行うことによっておこる新しい発想・組織の活力への流れ<sup>8)</sup>

## 1-2 本研究の目的と意義

### 1-2-1 本研究の目的

本研究では、生物多様性がありその土地の魅力があり、人々の集いの場所となりうる里山を未来に残すために活動をしている里山保全団体に着目した。そして里山保全団体の多くが抱えている「参加者の確保」という問題点の解決策を探し出す。

そのために活動が12年目を向え、常に参加者を大勢確保している『遊林会』に焦点をあて、ボランティアの人々が継続的に里山保全活動に参加しようと思う団体の「場」とは何かを「場の論理」を基に考察することを目的とする。また比較・考察するために滋賀県内にある里山保全団体にも調査を行うこととする。

### 1-2-2 本研究の意義

本研究の意義は、多くの里山保全団体が抱えている「参加者確保」という問題点を解決するための「場」の作り方を提案し、里山保全団体やボランティア団体などの組織運営をしていく上で、参考資料になると考えられる。

[参考文献および引用文献]

1) 環境省 HP, データ

<http://www.env.go.jp/doc/toukei/contents/data/08ex237.xls> , 2009-01-12

2)環境省 HP, データ

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=5059> , 2009-01-12

3)深町加津枝：ローカルコモンズとしての里地里山（特集 里地里山の再生），緑の読本，79，38～43（2008）

4) あいちの環境，データ

<<http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/satoyama/manual/64.html>> , 2009-01-12

5)環境省報告書，里地里山の保全活動に関するアンケート調査 調査結果報告書（2007）

6)丸橋裕一：事例編 里山保全活動におけるパートナーシップ—遊林会の活動(特集 関西発，コミュニティ・デザイン)，緑の読本，59(10)，1377-1380(2001)

7) 『遊林会』HP, データ

<http://www.yurinkai.org/> , 2009-01-24

8)伊丹敬之：場の論理とマネジメント，5-8，東洋経済印刷(2005)

## 第 2 章

### 研究方法

## 第2章 研究方法

### 2-1 『遊林会』の調査方法

場のマネジメントでは、人々が集まるということが大事であると唱えられている。そこで本研究の調査では『遊林会』の参加者に対して調査していく。

調査する内容は、『遊林会』の活動内容、参加者の動向、参加者の『遊林会』に対する意見等である。そこで、『遊林会』の活動の中でも一番参加者の人数が多く、設立当初からある第2土曜日定例活動を調査する。調査方法は、活動の流れや参加者の活動方法を実際に観察するための活動参加、参加者の『遊林会』に対しての意識調査や活動詳細を調べるためにアンケートを行う。この調査を2009年3月から2009年8月まで行う。

また、『遊林会』を他団体と比較するために、滋賀県内にある里山保全団体からいくつか他団体を調査する。そのために、西部・南部、中部、湖北、甲賀森林整備事務所に問い合わせる。その際に、『遊林会』の特徴をより明らかにするため、『遊林会』と同じように10年ほど活動が続き、活動の内容・方向性が定まっている団体を選ぶこととする。そして各団体の定例活動に参加し、『遊林会』と同じアンケートを1回行う。他団体の調査方法については2-1-2で述べる。

#### 2-1-1 アンケート内容

##### 個人シート

個人シートは参加者の性別や年齢などの基本情報を知るためのアンケートである。項目は表2-1の通りである。

まず、参加者の性別・年齢・居住地・職業を調べ、それぞれの質問項目の比率を調べる。「いつから活動に参加しているか」という項目は、参加者が活動にどれだけ継続して参加しているかを調べるための項目である。これにより、参加者の継続性を知ることができる。「活動への参加頻度」という項目は活動参加を日課としているかを調べるためのものである。「活動の中での役割」は、定例活動の中での重要な役割をしている人、また自分に何らかの役割分担を感じているかを調べるためのものである。「参加の経緯」は、参加者の活動参加のきっかけを知るための項目である。これにより初参加の人々がどのように活動に参加しているのかを知ることができる。「活動の参加する理由」は参加者の活動参加の理由を調べ、どういった興味関心、楽しみがあり活動に参加しているかを知るためのものである。アンケートの最後には「あなたが思うすばらしさ」を自由に書いてもらい、団体に対する意見、感想、情熱を調べ、参加者と団体の関係を調べていく。

表 2-1 個人シート質問項目

	質問項目	回答方式
Q1	名前/ペンネーム	自由記述
Q2	性別	男性 女性
Q3	年齢	9歳以下 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代 90歳以上
Q4	居住地	県/府, 市/町/村
Q5	職業	学生 会社員 公務員 自営業 専業主婦 フリータ 無職 その他
Q6	いつから活動に参加しているか	自由記述
Q7	活動への参加頻度	今回初めての参加 年に3,4回以下 年に5,6回位 年に7~11回 毎月1回位 毎月2回位 毎月3回位 毎月4回位 より多くの参加 その他
Q8	活動の中での役割	自由記述
Q9	参加の経緯	友達に誘われて HPを見て たまたま遊びに来た その他
Q10	活動に参加する理由1位~3位	里山に興味があるから 自然が好きだから 楽しいから 体を動かせるから ストレス発散できるから 勉強になるから 料理がおいしいから いろんな人と出会えるから なんとなく 地域に貢献したいから その他
Q11	あなたが思うすばらしさ	自由記述

#### 足跡シート

足跡シートは参加者の活動経路を知るためのアンケートである。このアンケートの上半分には何時に、どこへ行き、どういった内容の作業をしたか、何を感じたか、誰と話したかなどの出来事や感じたことを記入する。これにより、参加者の活動の流れが詳しくわかり、活動の中でどういった人や物と出会い情動的・心理的相互作用を得たかを知ることができる。そして下半分に、『遊林会』の活動場所である『河辺いきものの森』の地図を載せ、移動した道を線で引き、上半分に記入した場所を数字で表す。これは、3次元時・空間MAPを作るときに、活動範囲を詳しく知ることができ、また参加者に地図を見てもらうことにより、上部のアンケートに答えやすくしている。



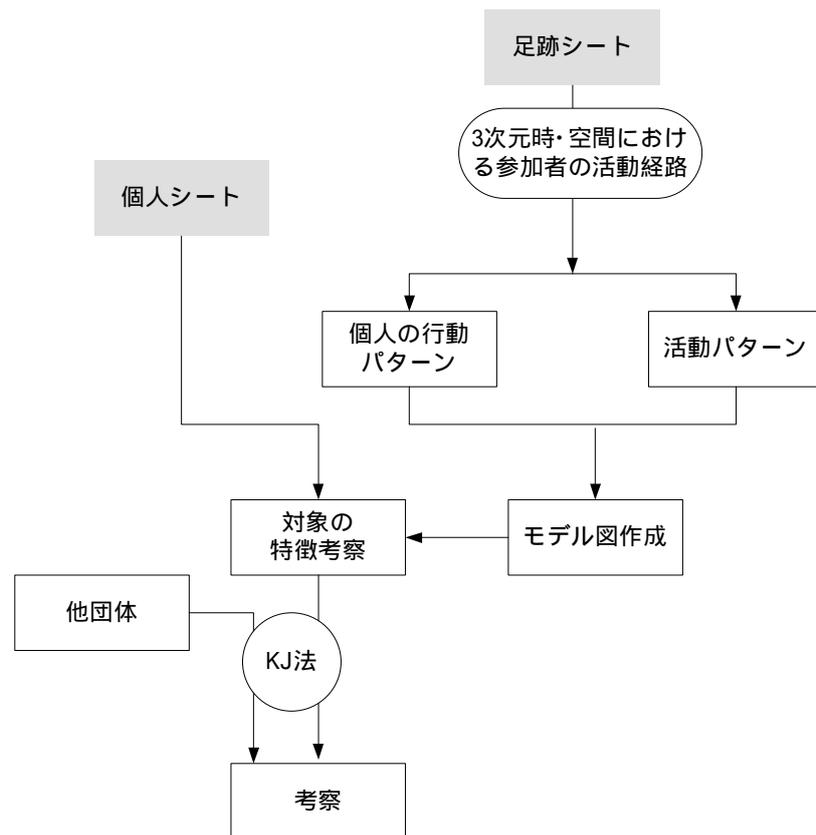


図 2-2 分析の流れ

### 2-2-1 3次元時・空間における参加者の活動経路

3次元時・空間における参加者の活動経路は、足跡シートから参加者の活動経路を一目でわかりやすくするためにつくるものである。これは、足跡シートで記入してもらった線を3次元で表すもので、団体の活動場所である地図と時間軸で作る。その個人の3次元時・空間における参加者の活動経路を個人の行動パターンとして扱う。そして、各月毎に活動参加者全員の行動パターンをすべて合わせたものを活動パターンとする。この活動パターンからはその月の活動の時・空間に関する全体の流れがわかるようになっている(図 2-3)。

### 2-2-2 モデル図作成

『遊林会』の参加者は活動に参加するときにある程度の決まった行動パターンがあるのかを調べために、足跡シートから得た個人の行動パターンの中から類似した行動パターンを集めて一つのグループとして扱いモデル図を作る。このモデル図と個人シートのデータから団体の活動パターンの特徴の考察を行う(図 2-4)。

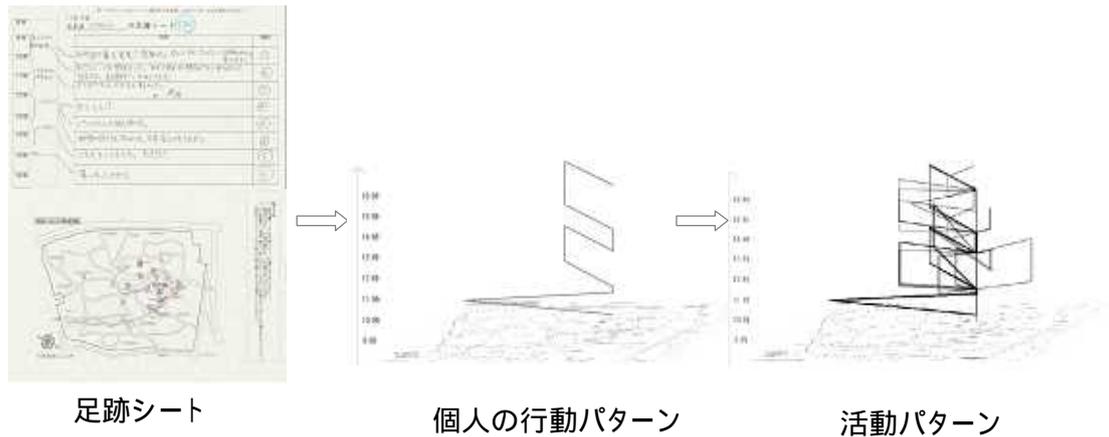


図 2-3 活動パターン作成までの流れ

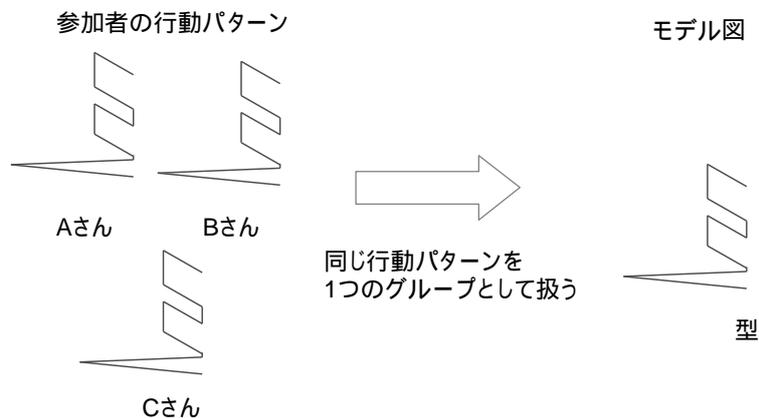


図 2-4 モデル図作成までの流れ

### 2-2-3 他団体の分析

『遊林会』の特徴を明らかにするために他団体も上記と同じように 3 次元時・空間における参加者の活動経路をつくりモデル図作成を行い、分析・考察を行う。

### 2-2-4 他団体との比較

『遊林会』と他団体とに分けて、団体、活動方針、活動内容、参加者の参加方法、参加者の意識から特徴を出し、『遊林会』の場のマネジメントの特徴を考察する。そのために、活動参加とアンケート調査から得られたデータを『遊林会』と他団体に分けて KJ 法を行い、特徴を考察する。次に、アンケートの質問項目の「あなたが思うすばらしさ」においても『遊林会』と他団体に分けて KJ 法を行い、特徴を考察する。それらから出た『遊林会』の特徴の根本的理由を、活動参加とアンケート結果からさらに KJ 法を行い、『遊林会』の場のマネジメントの特徴を考察し、里山保全団体やその他のボランティア団体や組織に共通して提案できるであろう、場のマネジメントの方法を提案していく

### 第3章

#### 遊林会における「場のマネジメント」について

### 第3章 遊林会における「場のマネジメント」について

#### 3-1 アンケート回収結果

##### 3-1-1 『遊林会』アンケート回収率

筆者が2009年3月から8月までの定例活動に参加し、活動参加者全員に対してアンケート配布を行った。また活動には河辺いきものの森の常駐スタッフも参加しているため、8月にスタッフの方5名にもアンケートに協力していただいた。回収状況は表3-1のとおりである。

表 3-1 『遊林会』定例活動参加者へのアンケート回収状況

	配布数	回収枚数	回収率
2009年3月	31	6	19%
2009年4月	27	23	85%
2009年5月	22	18	82%
2009年6月	20	14	70%
2009年8月	26	20	77%
合計	126	81	64%
3月抜き合計	95	75	79%

3月は回収が少ないため、分析には用いない。また7月は『遊林会』の12年目記念活動日だったためアンケートの配布は行っていない。4月、5月、6月、8月の4か月分のアンケートの回収率は概ね80%となり、有効回答率に達している。

##### 3-1-2 アンケート結果

回収したアンケートをグラフにまとめた。

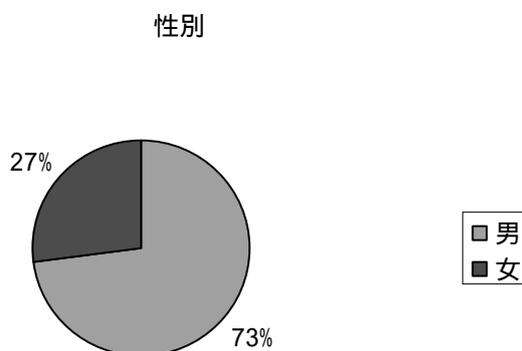


図 3-1 『遊林会』参加者の性別比率

参加者の約7割が男性だということがわかる。

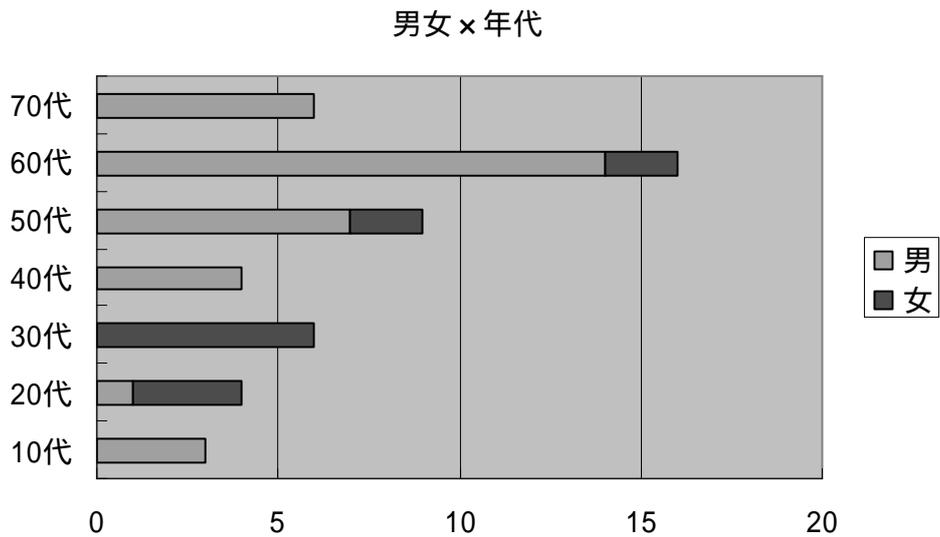


図 3-2 『遊林会』参加者の年代比率

60代が一番多く、次に50代、70代が多いことが分かる。また、10～70代までの年代の参加者がいることがわかる。また、女性の参加者は20、30、50、60代にしかいないことがわかった。さらに特徴的なのが、30代だけが女性だけの参加となっている。

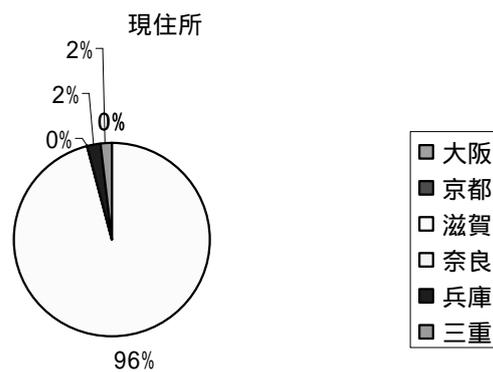


図 3-3 『遊林会』参加者の現住所比率

参加者は兵庫県と三重県から1人ずつおり、後は全員滋賀県在住であることがわかった。兵庫県と三重県から来ている2人は勉強のために来ていた。

### 職種

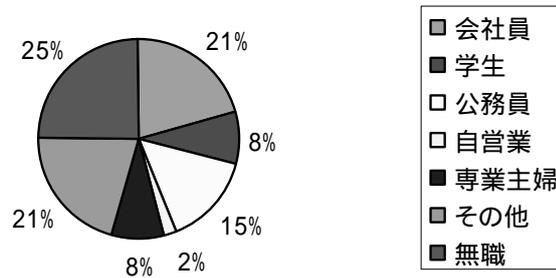


図 3-4 『遊林会』参加者の職種比率

その他の回答者は 9 名おりその内訳は大学の職員 , 高校生 , パート , 年金生活 , 団体様々 , 未記入 , 定年後京都で中小企業経営支援が 1 名ずつおり , 残りの 2 名は 8 月に 1 度アンケートに記入してもらった施設職員であった . なお 3-1-1 でスタッフは 5 名と述べたが , 残りの 3 名は公務員として働いているスタッフなのでその他ではなく公務員の項目に入っている .

### 参加年数

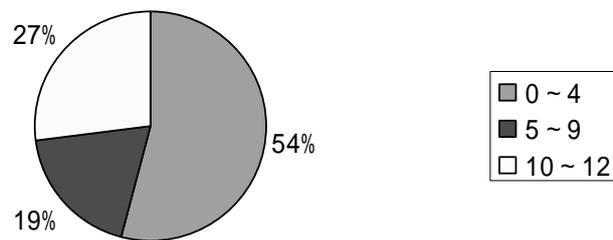


図 3-5 『遊林会』参加者の参加年数

一番多いのが 0~4 年の 54% であり , 次に 10~12 年であった . グラフでは表していないが , 11 年以外は毎年参加者を確保している . このことから , 毎年参加を続ける参加者がいるということがいえる .

### 頻度

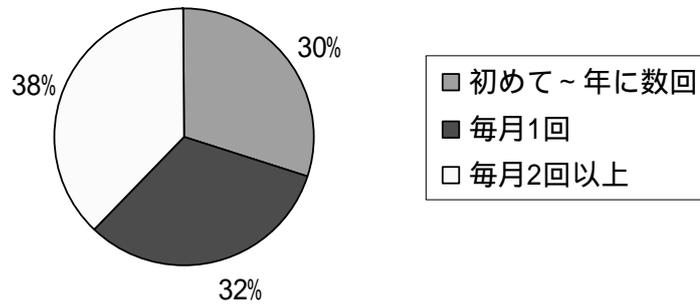


図 3-6 『遊林会』参加者の活動参加頻度比率

一番多いのが「毎月 2 回以上」の 38%である。あとは「今回初めての参加」から年に数回の人約 1/3，毎月 1 回の人約 1/3 であった。このことから，年に数回参加する人，月 1 度定期的に参加する人，月に何度も参加する人が 3 等分に分かれていることがわかった。

### 参加経緯

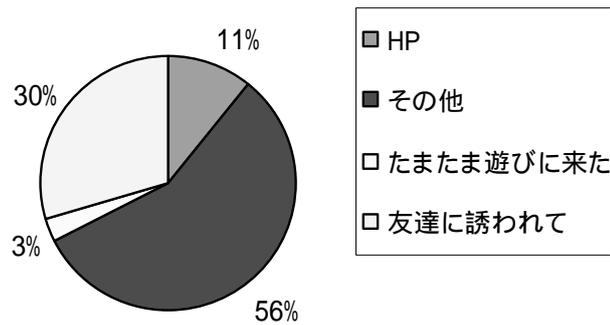


図 3-7 『遊林会』参加者の参加経緯比率

一番多いのが「その他」であり半分以上を占めている。その内容は以下の表 3-2 のとおりである。次に多いのが「友達に誘われて」であった。

表 3-2 参加経緯・その他

参加経緯・その他のコメント
金山研修の案内を見て，08年10月～09年3月の間5回の研修を受け，遊林会のお誘いを受けたので参加した
武藤さんたちとはじめました
遊林会のスタッフに大学の先輩がおり，イベントの準備を手伝ううちに参加
子ども会の行事で来て，チラシを見た
"木を切って森を守る"という言葉に？を持ったのが
インターンシップにきて
自分から，図書館の本を見て参加
当初から料理を受け持ってきた
知人の紹介
黒川さんに誘われて来ました
インターンに来ていたから居合わせました
森林保全の必要性，釜焼に興味があり
当初から自発的に参加
森のクラフトに参加した事と，以前に環境セミナーに参加したのがきっかけ
武藤さんに働いてみないかと言われて
私の自治会長時代に町内地主の方々と市との交渉でこの森の保全方向「河辺いきものの森」の方向性が決まった
この種の活動に興味があった
新聞を見て

このように「その他」の内訳は「イベント関連に参加して興味を持った」「知人から話を聞いて・誘われて」「活動自体に興味があった」であった。よって、『遊林会』参加者の参加経緯を次のような項目に分けなおした。「ホームページや新聞などを見て」という事柄は「広報」，「知人・友人からの誘い」は「誘い」，「何から情報を得たかは記入しておらず活動事態に興味があって」という記入には「活動」，「イベントに参加して活動に参加した」という記入は「イベント」，「初期から参加していた」は「初期」というように変更した。その結果が図 3-8 である。

### 参加経緯

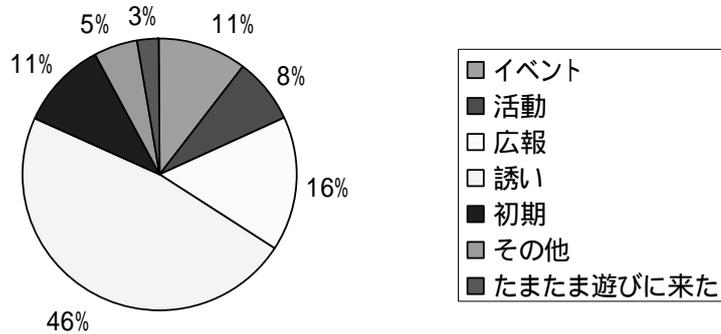


図 3-8 『遊林会』参加者の参加経緯比率 2

このようにしてみると、参加経緯の約半分は「知人・友人からの誘い」であり、次に多い項目が「広報」であった。このことから多くの参加者は知りあいからの誘いで集まってくると言える。

### 参加理由1～3位

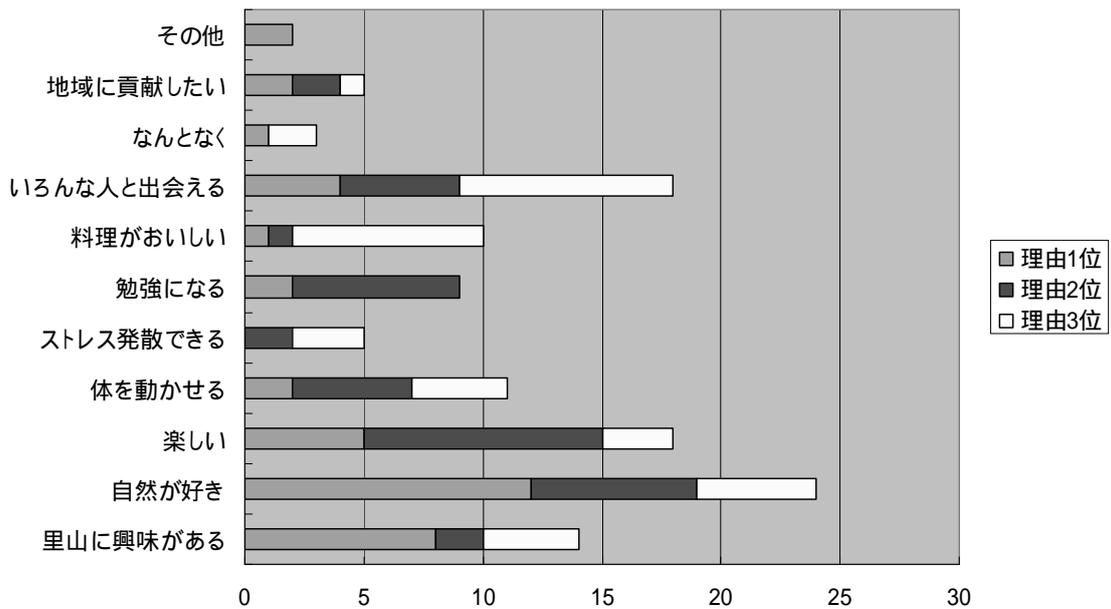


図 3-9 『遊林会』の参加理由 1～3 位比率

図 3-9 の参加理由 1 位～3 位を見てみると一番回答数が多かったのが「自然が好き」、次

に「いろんな人に出会える」、「里山に興味がある」であった。だが「参加理由 1 位」で見ると、「自然が好き」「里山に興味がある」「楽しい」という順であった。これらのことをまとめると、参加者は「里山の中でいろんな人といることが楽しい」と感じていると考えられる。

### 3-2 『遊林会』定例活動の内容

#### 3-2-1 活動内容

2009年3月から8月までの第2土曜日定例活動に筆者が参加し、アンケート配布を行った。その結果『遊林会』の定例活動は通常図 3-10 のタイムスケジュールで進んでいることがわかった。



図 3-10 『遊林会』の活動タイムスケジュール

作業内容を順に説明していく。

午前の作業が始まるまでの活動内容

まず参加者は9時までに作業小屋と呼ばれる建物に集合する。9時になるとスタッフが参加者を自然観察へ連れて行く。自然観察の内容は季節によって様々である。1時間ほど自然観察をして、作業小屋へ戻り、準備体操を行う。

その後、「木を伐って森を残す本日の作業メニュー」という紙が配られる(図 3-12)。





図 3-13 午前作業 (2009 年 6 月)<sup>1)</sup>

#### 昼食

作業小屋には 6 つの机があり、参加者はそれぞれ自由に席を決めて座る。各テーブルには食事班が作ったいろいろなおかずが大皿に盛り付けられて置いてある。参加者のなかには数人、家からお皿やお箸を持ってくる人がいるが、基本用意するものはなく、用意されたお皿に各自取り分けて食べていく。お酒もあり、軽い宴会のようになる。この昼食の間には午前中の作業報告がある。各グループのリーダーが報告をするが、時々もう一人リーダーが指名して活動報告をする事もある。



図 3-14 昼食 (2009 年 6 月)<sup>1)</sup>

### 午後作業内容

昼食が大体終わると、午後の作業へと向かう。しかし作業へ向かわずに団欒を続ける人や、片づけをする人、子供と遊ぶ人、帰る人などもある。作業は大体 15 時ごろに活動が終わる。

### 3-2-2 3次元時・空間における参加者の活動経路

収集した足跡シートは毎月、「3次元時・空間における参加者の活動経路」として、活動がどのように進んでいるかを示すために地図上に記入したものである。作成方法は時間軸と『遊林会』の地図(図 3-15)を簡略化したものと、時・空間座標として表現し、参加者の活動経路を線で書いていくというものだ。

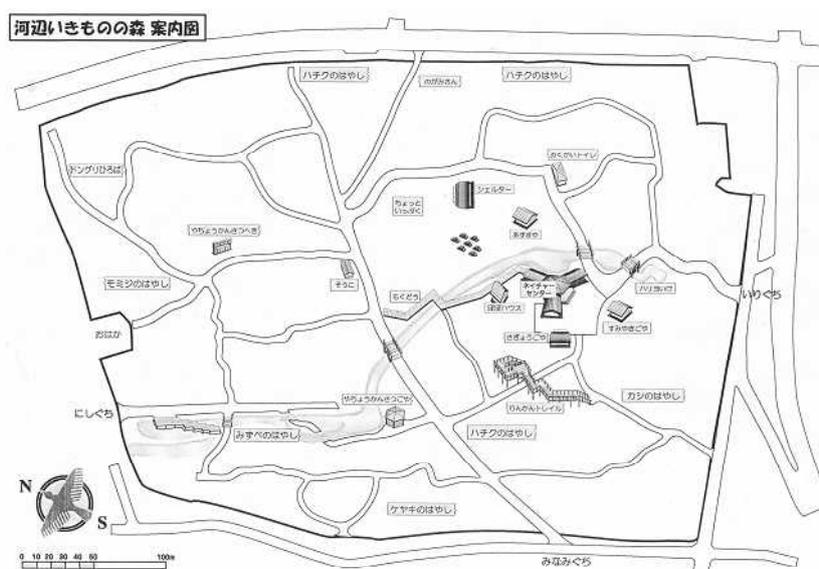


図 3-15 『遊林会』MAP

Aさんの2009年4月の活動内容(表 3-3)を例に説明すると、まず9時には作業小屋に着いているので9時に作業小屋からスタートする。そして9時から1時間自然観察へ出かけ、10時に作業小屋へ戻り、ストレッチを行う。ここでストレッチの詳しい時間は書かれていないが、筆者も同じ行動をしていたので、筆者の記録の「ストレッチ10分」を取り入れる。その後の行動は表 3-2のとおり記入していく。15時に「帰る」とあるが、参加者は荷物を作業小屋に置いているので必ず帰るときは作業小屋に寄る。よって、最後はみんな作業小屋で線が終わることになっている。

表 3-3 A さん活動表 (2009 年 4 月)

時間	作業内容	場所
9時	自然観察会	森
10時	ストレッチ	ネイチャーセンター前
10時	作業	ハチクの林
12時	昼食	作業小屋
13時	作業	ハチクの林
15時	帰る	

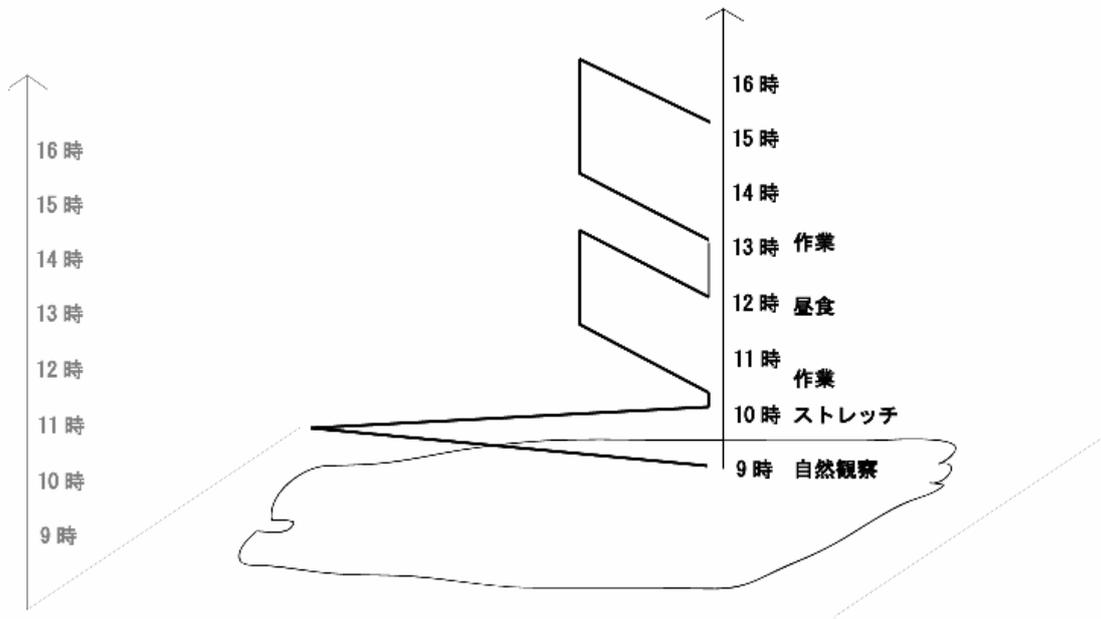


図 3-16 『遊林会』参加者 A さんの 3 次元時・空間における活動経路 (2009 年 4 月)

#### 2009 年 4 月定例活動

作業メニューは竹林整備，カシのひこばえ退治，大雪被害木処理，昼食の準備の 4 つである．昼食メニューはカレーと森の山菜料理である．この日は NHK 大津放送局「環境メッセージ」収録があり，午前の作業が少し早めに終わっている．自然観察とお昼以外はあちらこちらに参加者が散らばって活動をしていることがわかる．

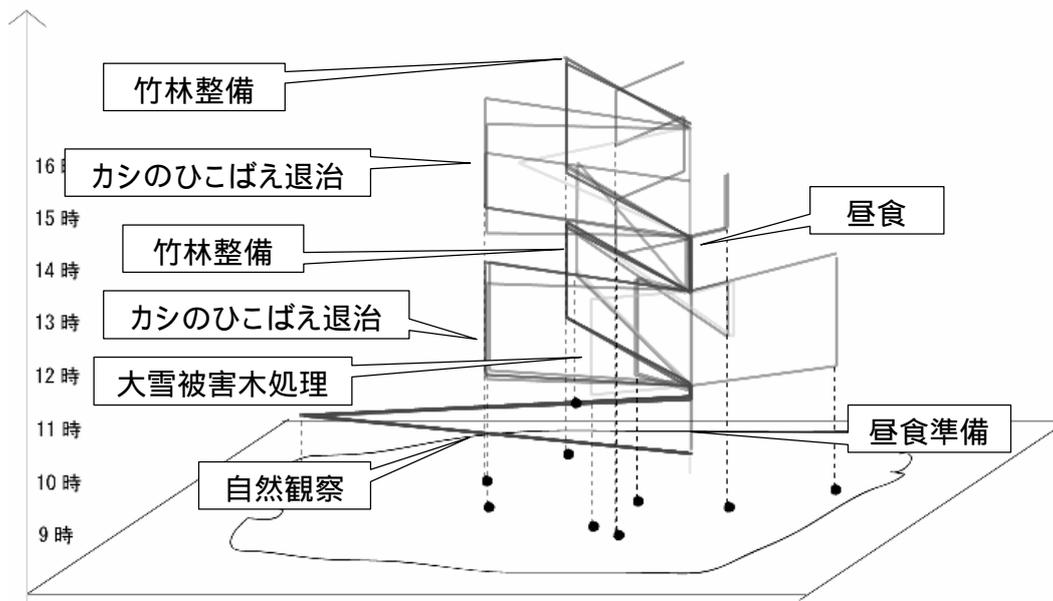


図 3-17 『遊林会』 3次元時・空間における参加者の活動経路 (2009年4月)

#### 2009年5月定例活動

作業メニューは竹林整備，アオイ刈り取り，ススキ・オギの刈り取り・折れ枝処理，昼食の準備の4つである．昼食のメニューは山菜を中心とした春の料理いろいろである．線の最後が左上で途切れているものがある．これは帰り際に森の中を散歩して帰る人の線である．このことから活動が終わった後も自由に森の中を歩きまわることがわかる．

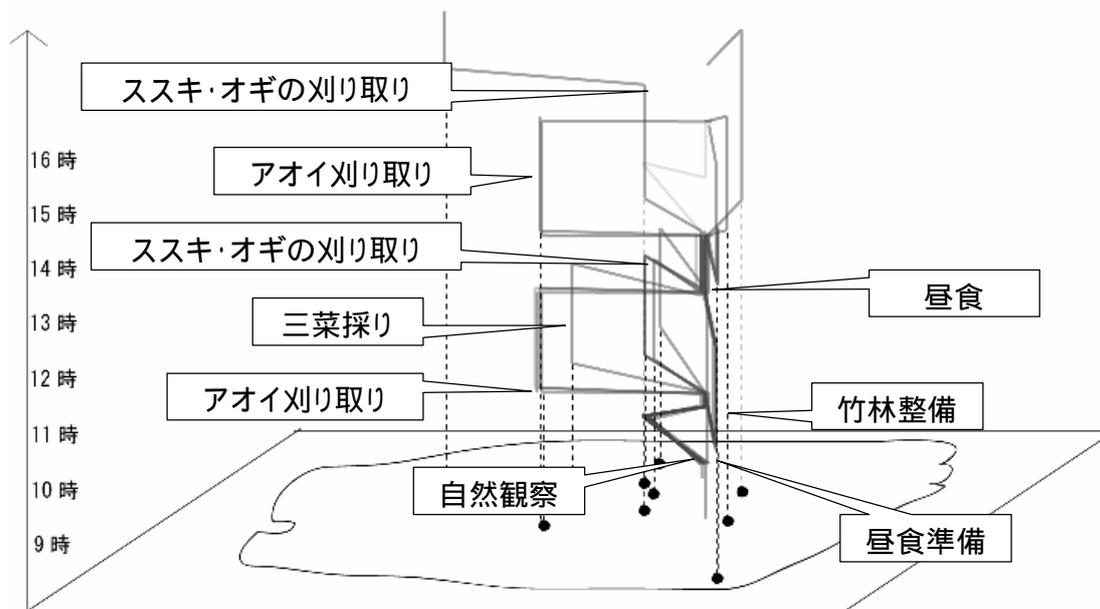


図 3-18 『遊林会』 3次元時・空間における参加者の活動経路 (2009年5月)

### 2009年6月定例活動

作業メニューは竹林整備，細竹刈り取り&セイタカ抜き取り，アラカシひこばえ退治など，昼食の準備である．昼食メニューはカレー，旬の野菜サラダなどである．午前作業に途中から作業小屋に現れて活動に参加している人がる．このように途中から活動に参加する人は，作業小屋にいる料理班と情報交換ができるようになっている．また，作業内容が書かれた紙が置いてあるので途中からの参加でも，何の作業にするか，どこへ行けばいいのかがわかる．

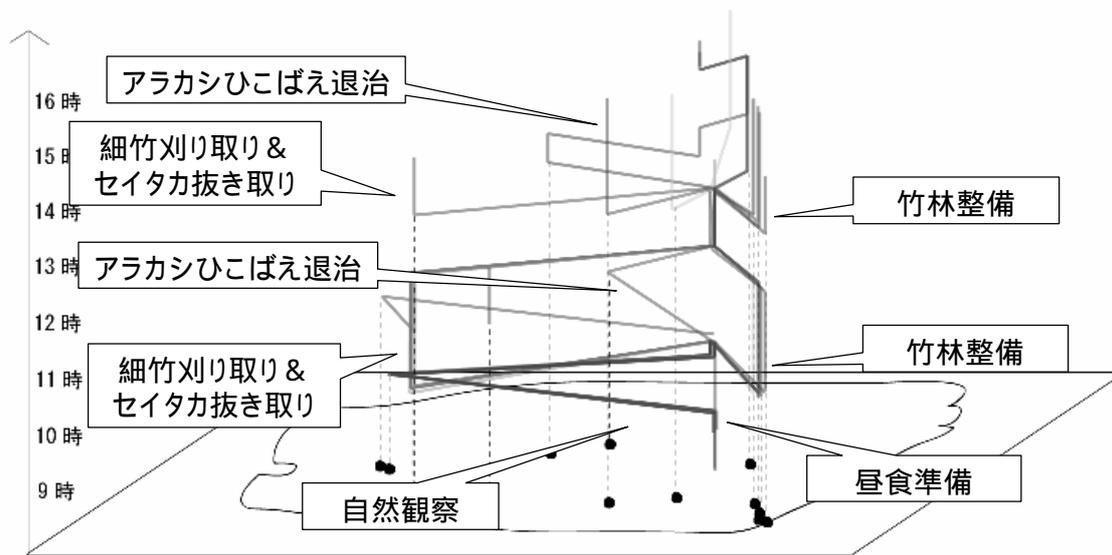


図 3-19 『遊林会』3次元時・空間における参加者の活動経路(2009年6月)

### 2009年8月定例活動

作業メニューは竹林整備，セイタカ&クズ抜き取り，林床整備，昼食の準備である．8月の昼食は毎年恒例「男の料理」の日なので，焼きそばや「平和に思いを馳せる」すいとんなどを男性達が作った．なので，線がいつもより午前作業の時間帯に作業小屋へと集中している．なお8月は毎年作業が午前中だけとなっており，午後からは「平和を考える時間」となっている．この時間では，お酒を飲んで話をしたり，映画「おくりびと」を見たりということをした．よって3次元時・空間における参加者の活動経路は午前からは作業小屋，作業小屋付近のみの線となっている．このことからイベントがあると線が密集しやすくなると考えられる．

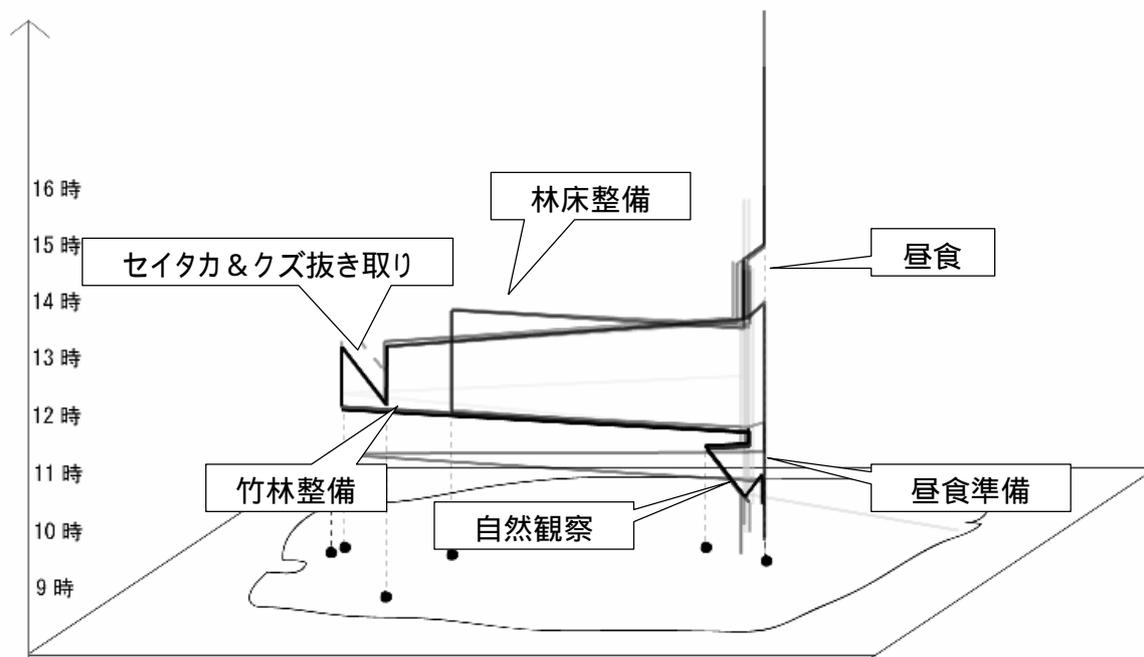


図 3-20 『遊林会』 3次元時・空間における参加者の活動経路 (2009年8月)

図 3-17 から図 3-20 までをみると図 3-19 のような形が活動の基本形となっていることがわかる。ここでの基本形は、参加者のほとんどが行う活動パターンの形ということである。料理班は直線の線を示しており、つまり作業小屋にずっといることがわかった。三角や四角の曲がり方をしている線はその他の作業班を示している。なお、この基本形は、1日中活動に参加したことを前提に作っており、他にも様々な形がある。その形に関しては 3-3 で述べる。

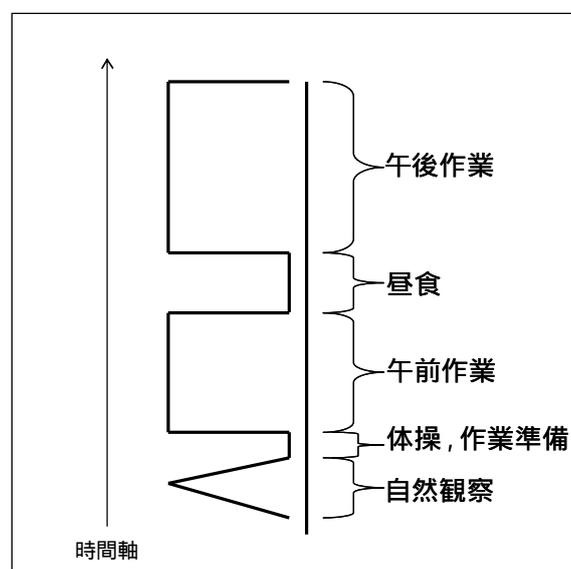


図 3-21 『遊林会』の活動基本形

### 3-3 1人1人の活動の流れ

3-2で述べた3次元時・空間における参加者の活動経路は一人一人の行動からできており、それらを一覧にしたものが図3-22である。線で区切っているのは、同じ人が行った行動パターンを区切っているだけである。

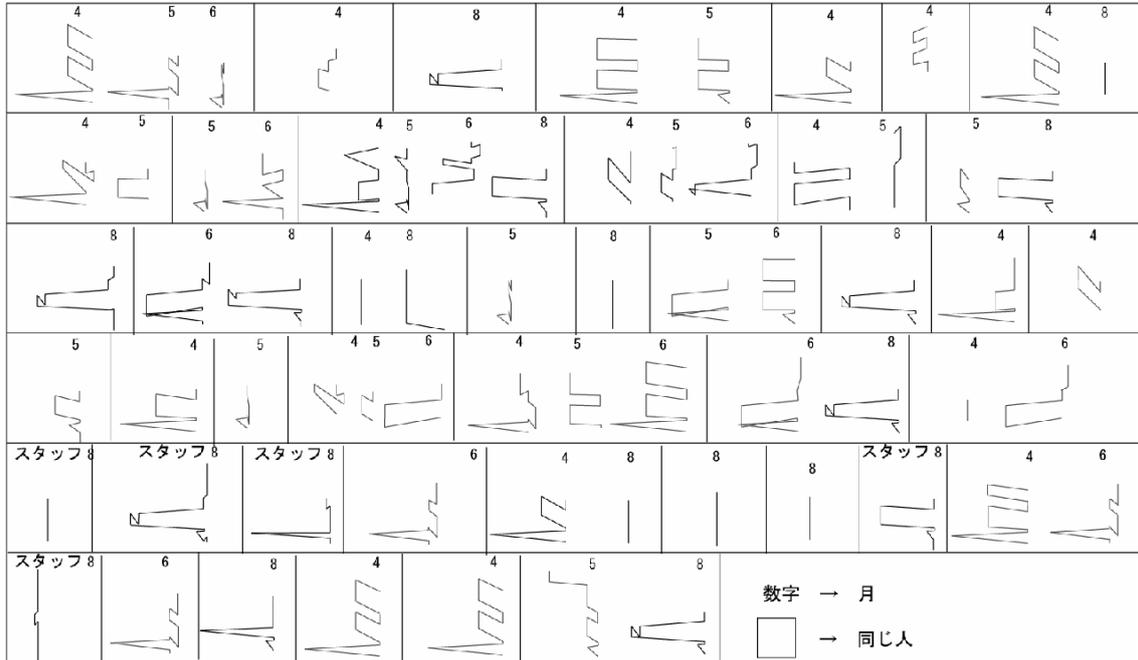


図3-22 『遊林会』の3次元時・空間における個人の活動経路一覧表

このことから基本形以外にもいろんな形の活動の仕方があることがわかる。また、この一覧表を使いグループ分けを行う。グループ分けの方法は図3-23の赤い線で示している三角と青い線で示している四角の組み合わせ方で行う。これは図3-22で参加者の活動経路が自然観察の三角と作業の四角で成り立っていることがわかったからである。すると9つのグループができた。ただしスタッフは活動に参加しているとはいえ、スタッフの仕事も行っているので、このグループ分けには入れないこととする。

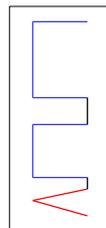


図3-23 グループ分けの方法

このように考えてグループ分けを行った結果以下のようになった。

## おもてなし型



図 3-24 おもてなし型

おもてなし型とは一本線を示している．この型は同じ場所にずっといる作業である．例として作業小屋にいる料理班である．料理班の作業内容は，作業小屋で午前中は料理の準備，お昼になるとテーブルに料理を運び，食べ終わると片づけ，団欒に入るといったものである．

このおもてなし型を 2009 年 4 月の定例活動の全体の活動の中で見ると図 3-25 のようになる

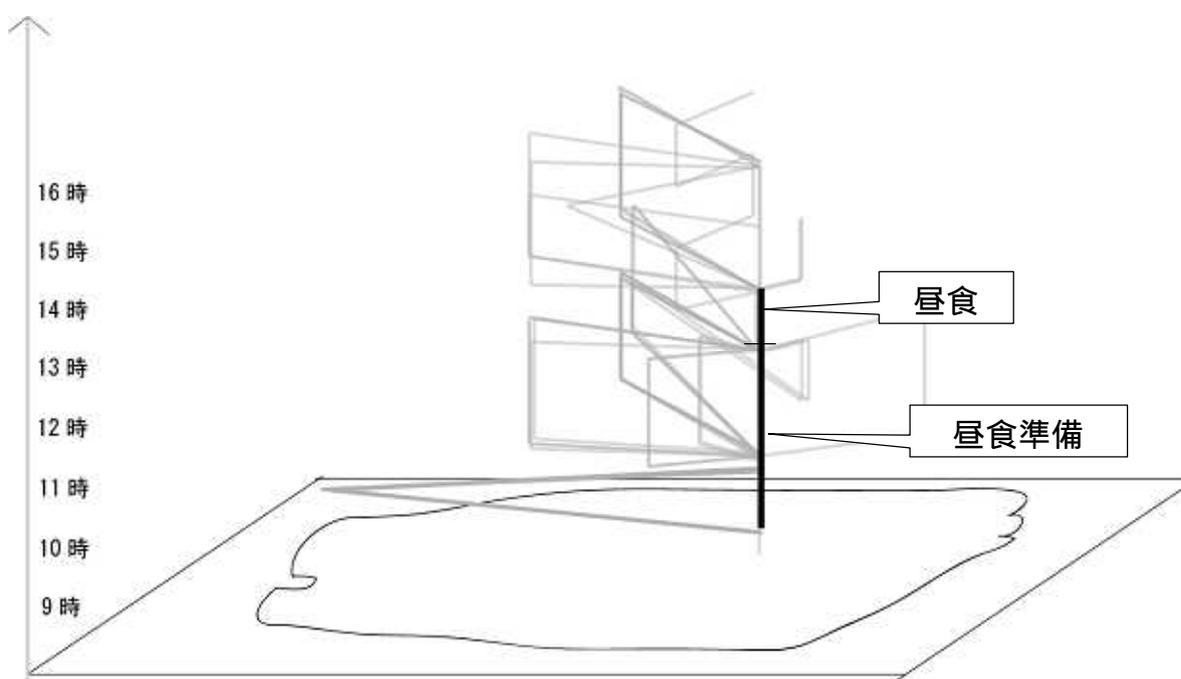


図 3-25 活動全体の中のおもてなし型 (2009 年 4 月)

おもてなし型は自然観察に行かない人が多い．また，食材調達のため朝早くから昼食の準備を行っている人もいる．この型は作業小屋にずっといるので，遅れてきた人はおもてなし型に声をかけることができ，状況把握ができるようになっている．午後は作業はせず，昼食で帰る人もいるが，片付けの後に作業小屋に残り団欒をするひと，作業に出かける人もいる．

このように，同じ場所にいるので，参加者をおもてなすことができ，活動のなかでは緑

の下の力持ち的存在である。

### ひとすじがっつり型

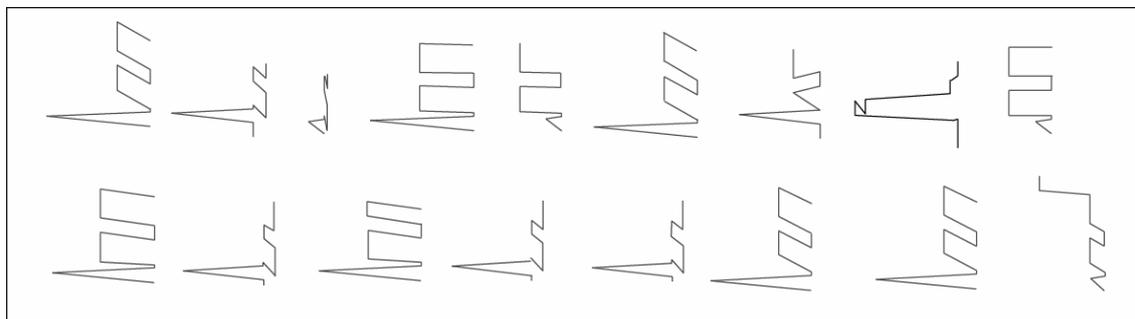


図 3-26 ひとすじがっつり型

ひとすじがっつり型は三角1つ四角が2つある形である。活動の例としては、9時に作業小屋に集まり自然観察に参加する。そのあと準備体操，午前の作業を行い，昼食を食べ，午前とおなじ作業内容へと出かける。といったものである。

このひとすじがっつり型を2009年4月の定例活動の全体の活動の中で見てみると図3-27のようになる。

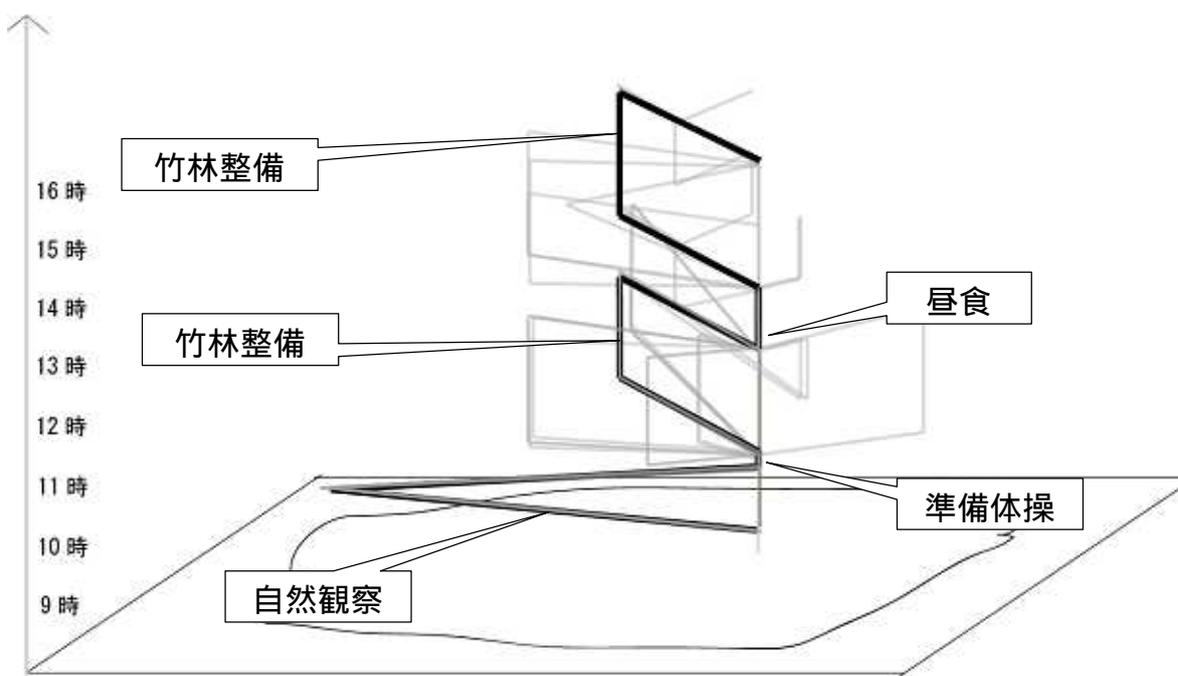


図 3-27 活動全体の中のひとすじがっつり型 (2009年4月)

一日中作業に出かけており，また午前と午後の作業が同じなので，ある程度固まったグループと行動しているということになる。つまり，自然観察と昼食以外は，同じメンバー

と行動している確立が高いといえる。

### いろいろがっつり型

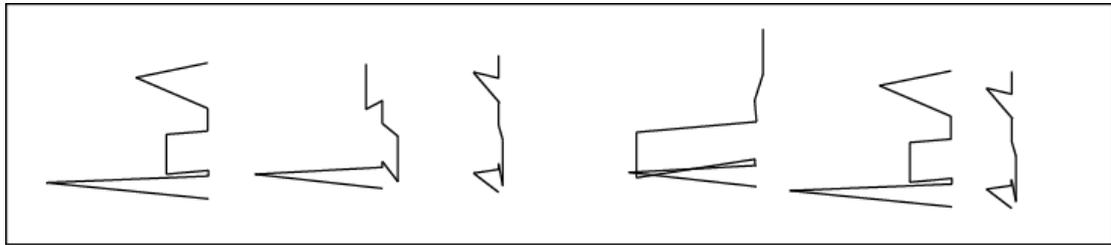


図 3-28 いろいろがっつり型

いろいろがっつり型は三角 1 つと四角 2 つありひとすじ型と同じ組み合わせである。これも全ての活動に参加する形であるが、午前と午後の作業内容が違うので、ひとすじがっつり型とは少し形が違う。

このいろいろがっつり型を 2009 年 4 月の定例活動の全体の活動の中で見てみると図 3-29 のようになる。

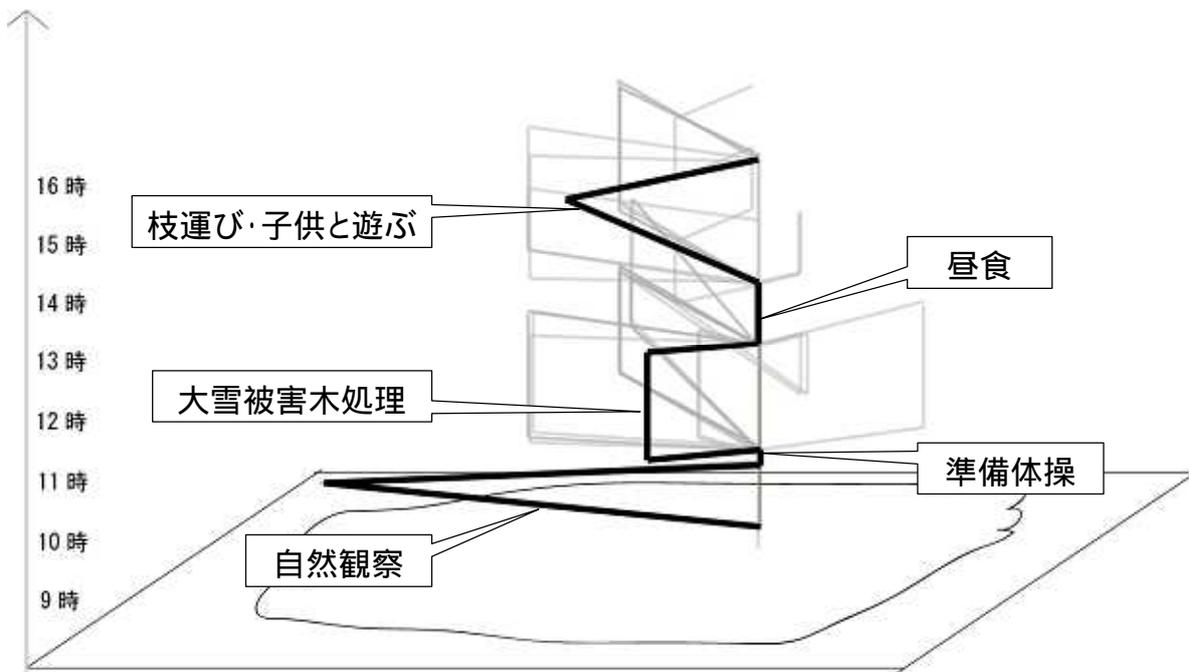


図 3-29 活動全体の中のいろいろがっつり型 (2009 年 4 月)

一日中作業に出かけている。だが、午後は午前とは違う作業に出かけたり、子供と遊んだり内容は様々である。このことから、ひとすじがっつり型よりもいろんな人々や物との関わりがある状況を持っているといえる。

## がっつり団欒型

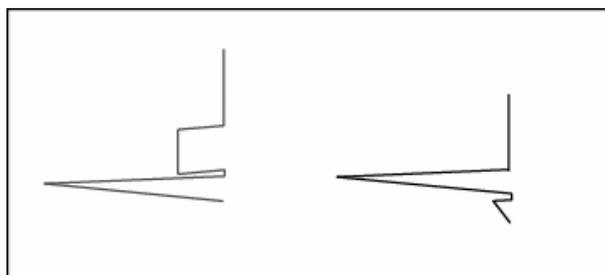


図 3-30 がっつり団欒型

がっつり団欒型は三角が 1 つ四角が 1 つ、長い線が 1 つの組み合わせである。例では自然観察、午前作業、お昼ご飯に参加し、その後午後の作業をするのではなく団欒に入る内容である。

このがっつり団欒型を 2009 年 4 月の定例活動の全体の活動の中で見てみると図 3-31 のようになる。

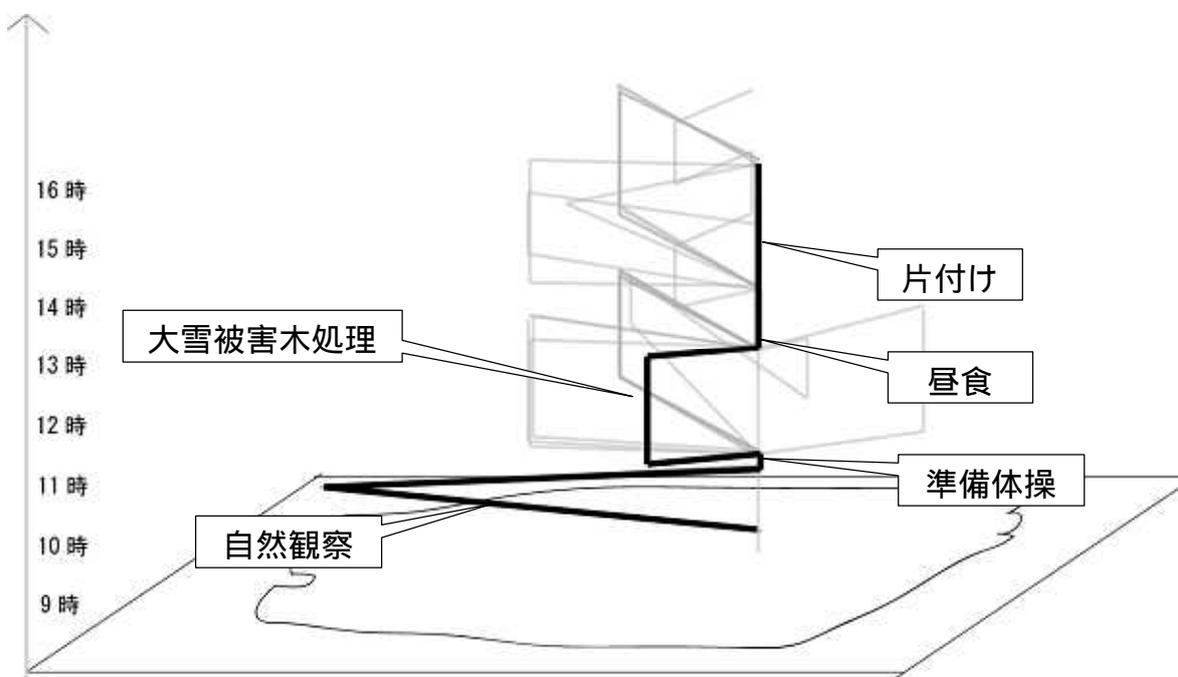


図 3-31 活動全体の中のがっつり団欒型 (2009 年 4 月)

がっつり団欒型は、昼食の後、作業小屋で団欒を行う行動内容である。作業小屋は参加者全員の荷物の置き場である。つまり様々な人との関わりが持てる場所であるので、コミュニケーションの数は多い。また、午後だけを見てみると、おもてなし型の形も見られ、午後のおもてなし型ともいえる。

### 午前がっつり型

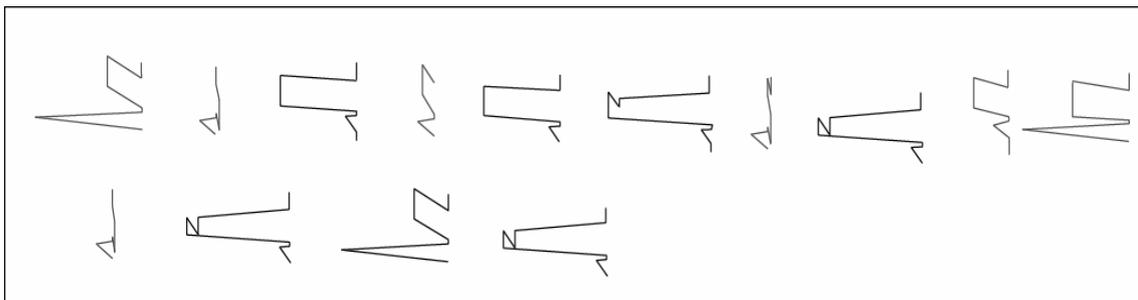


図 3-32 午前がっつり型

午前がっつり型は三角 1 つ四角 1 つの組み合わせである。これは自然観察，午前作業，お昼ご飯に参加した後に帰るといった内容である。

この午前がっつり型を 2009 年 4 月の定例活動の全体の活動の中で見てみると図 3-33 のようになる。

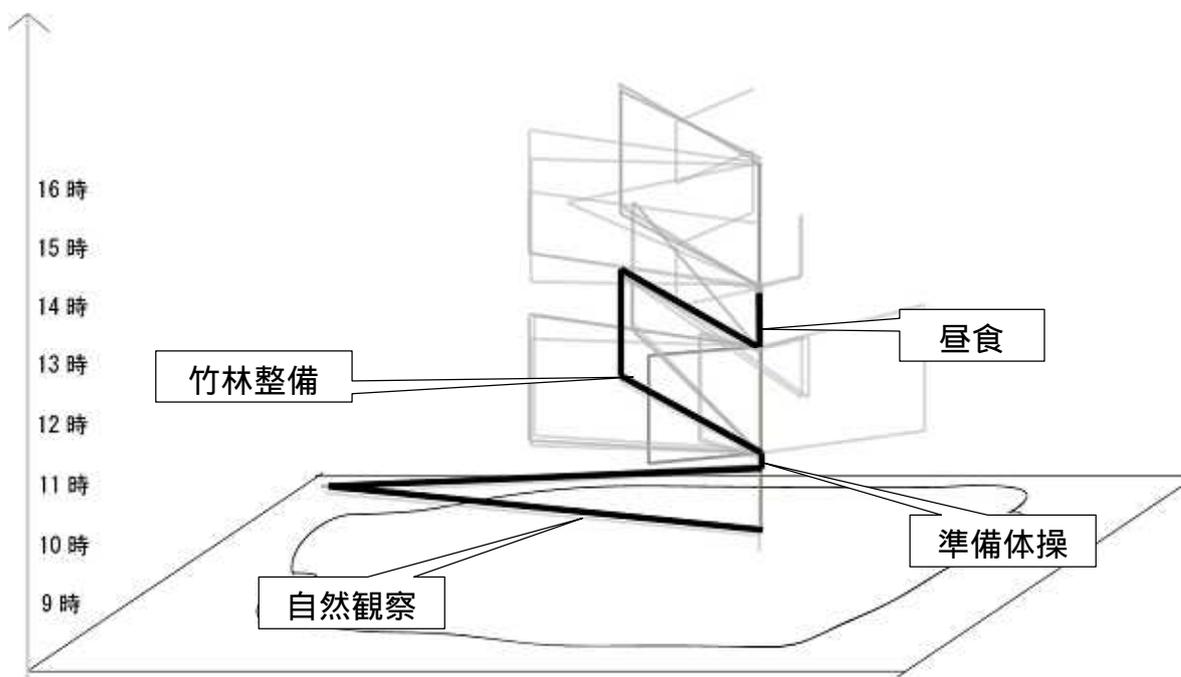


図 3-33 活動全体の中の午前がっつり型 (2009 年 4 月)

これはひとすじがっつり型の午後の作業がない型である。

ゆったり型

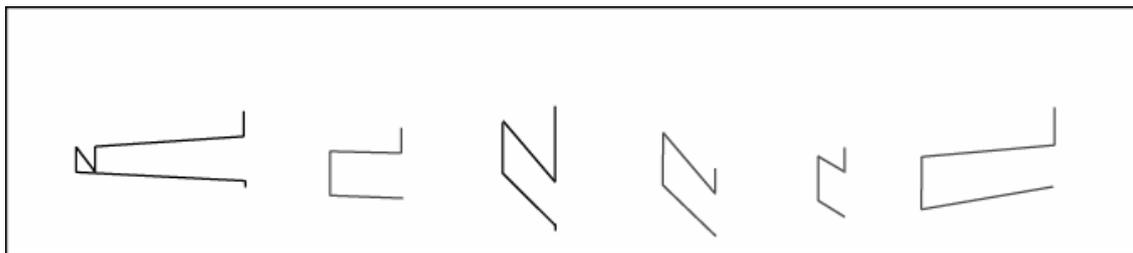


図 3-34 ゆったり型

ゆったり型は四角が1つだけで，午前作業，昼食に参加して帰るという内容である．

このゆったり型を2009年4月の定例活動の全体の活動の中で見てみると図3-35のようになる．

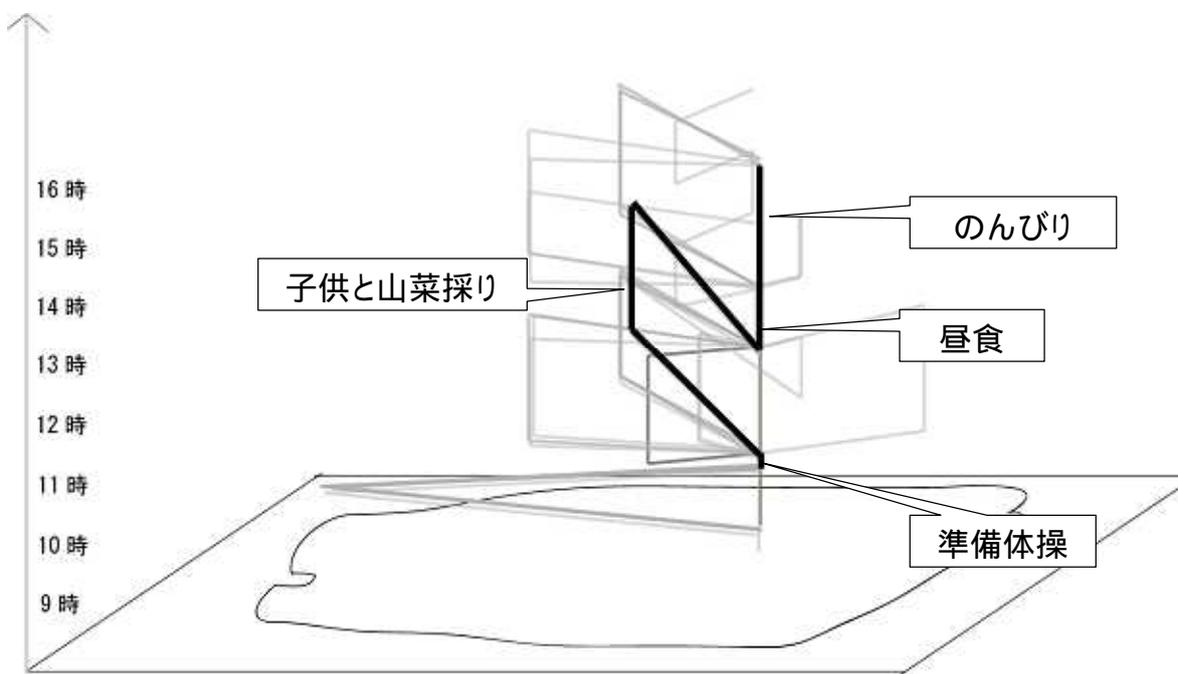


図 3-35 活動全体の中のゆったり型（2009年4月）

ゆったり型は準備体操か午前作業からの参加から始まる．そしてこの型は昼食後に帰宅するか，作業小屋で団欒をするかという内容になる．午後だけを見ても一本線となっており，午後のおもてなし型となっている．ゆったり型の人が多いのは，子供と活動に参加しているという人である．午前は子供と作業をするが，午後になると子供はスタッフや学生と遊ぶので，作業小屋で団欒できるようになっている．

## 作業オンリー型

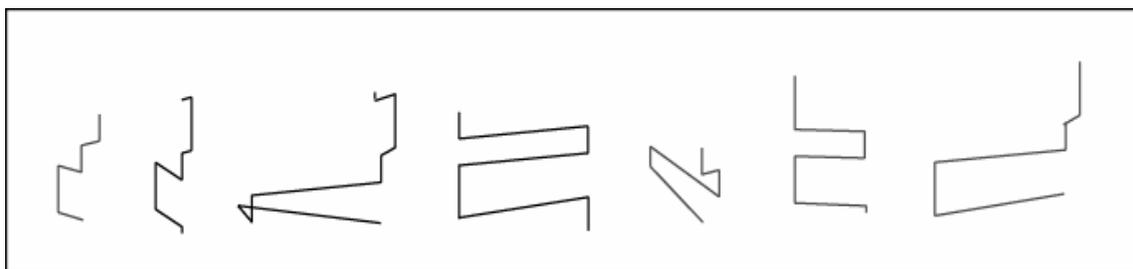


図 3-36 作業オンリー型

作業オンリー型は四角が 2 つあり，午前作業，お昼ご飯，午後作業を行い帰るものである。

この作業オンリー型を 2009 年 4 月の定例活動の全体の活動の中で見てみると図 3-37 のようになる。

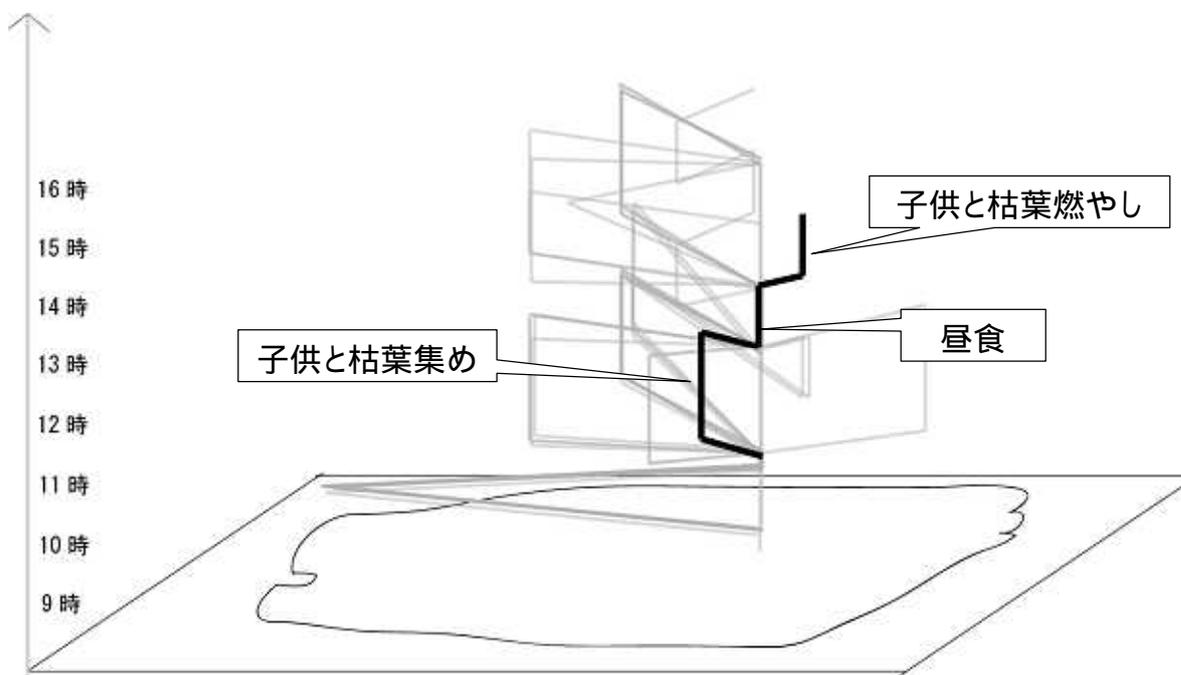


図 3-37 活動全体の中の作業オンリー型（2009 年 4 月）

作業オンリー型は午前作業と午後作業を行う。この作業オンリー型の人も子供と一緒に活動に参加している人が多い。子供づれの方は、10 時ころに活動に来ることが多いということがわかった。

## 午後型

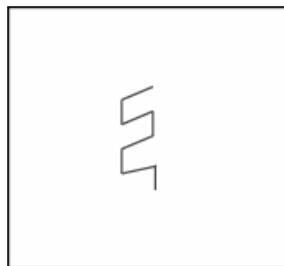


図 3-38 午後型

午後型は四角が 2 つあり作業オンリー型と同じである．しかしこの型はお昼ご飯から参加しており，午後作業を休憩を入れながら行う形である．

この作業オンリー型を 2009 年 4 月の定例活動の全体の活動の中で見てみると図 3-39 のようになる．

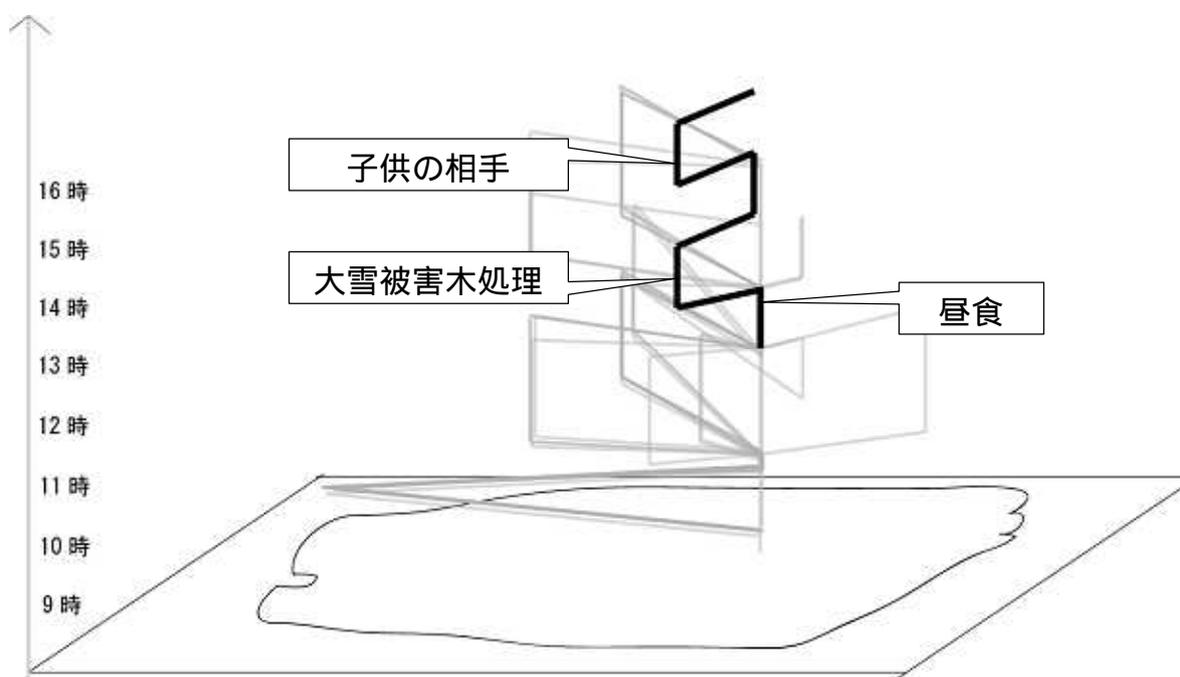


図 3-39 活動全体の中の午後型 (2009 年 4 月)

この午後型を行ったのは一人であった．高校生が部活帰りに昼食の時間に来て，午後の作業から活動に参加を行うというものである．お昼を食べた後に，作業に向かう．作業が途中で終わり，子供の相手をして帰宅している．子供の相手をする午後型がいることにより，ゆったり型のような午後に団欒できる主婦がいると考えられる．

## うろろう型

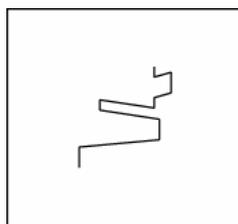


図 3-40 うろろう型

うろろう型は四角が 2,5 個ある形である．なぜ 0,5 個かというと午前作業に途中から参加しており，作業小屋に荷物をおかずに直接作業場所に行ったからである．また午後は子供といろんな場所で遊んだり作業をしたりと小さい四角がある．

この作業オンリー型を 2009 年 4 月の定例活動の全体の活動の中で見てみると図 3-39 のようになる．

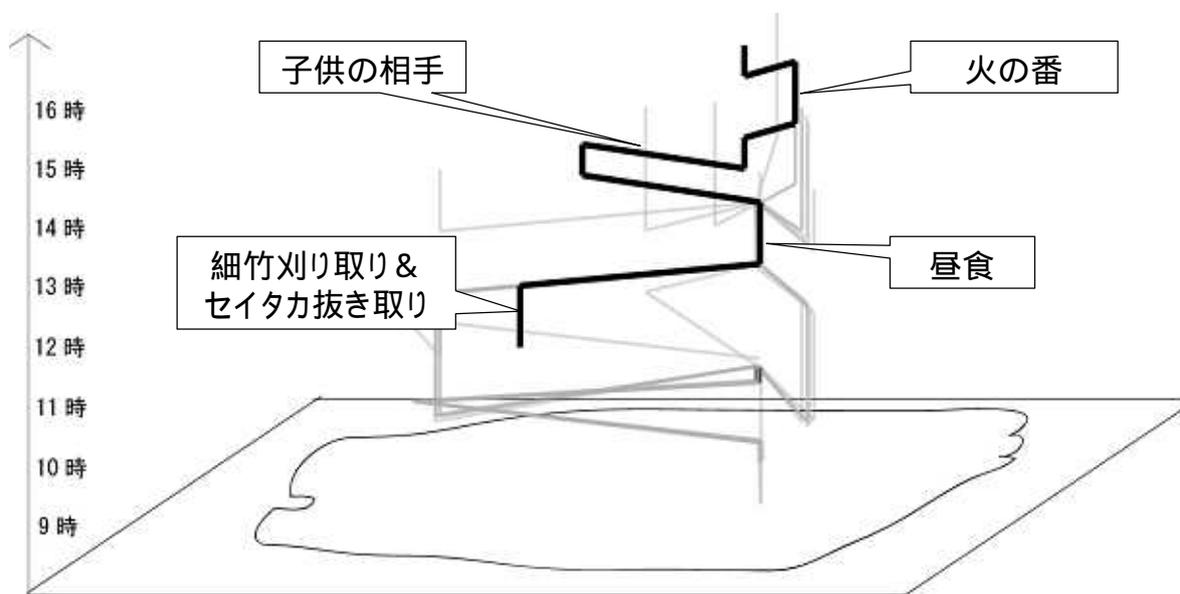


図 3-41 活動全体の中のうろろう型 (2009 年 4 月)

このうろろう型も一人だけであった．大学生が午前の作業の途中から参加し，午後は子供と森の中で遊んだり，火の番をしたりとうろろうと森を歩いているという内容である．午後型とうろろう型のように，学生ならではの活動内容ができるのも『遊林会』の活動の特徴であると考えられる．

### 3-4 タイプ別の活動の流れ

タイプ別の行動パターンを色で分けて、「空間に3次元時・おける参加者の活動経路」で見える。

2009年4月定例活動

この月では午前までは「午前がっつり型」の青い線が目立ち、午後は「ひとすじがっつり型」の緑色が目立っている。また午後の時間帯に「午後型」の紫色が1人うろつろしているのがわかる。その人の足跡シートを見てみると、午後の作業をしつつ、子供と遊んでいることがわかった。午前中の右側にはみ出している線は、1人で草の林の整理をしている人の線であり、この人は10年活動を続けているので個別行動で緊急の作業をしていたことがわかった。

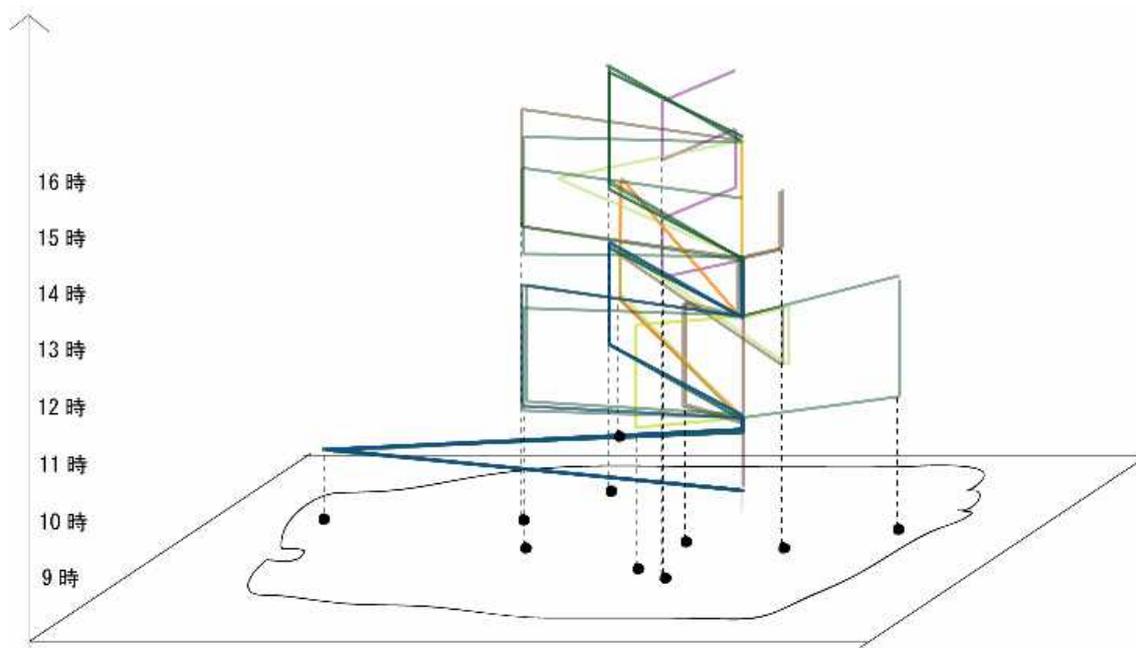


図 3-42 『遊林会』4月定例活動 3次元時・空間における参加者の活動経路

さらに、線が集まっているところに、どの行動パターンが集まっているかを図 3-43 に表した。尚、昼食時には参加者全員が参加しているので、昼食時のものは載せていない。このように見ると、線が集まっている部分には複数の行動パターンが集まっていることがわかる。

まず、自然観察にはおもてなし型以外の、9時から活動に参加しているひとすじがっつり型、午前がっつり型、いろいろがっつり型、がっつり団欒型のがっつりシリーズが参加していることがわかる。そして午前の作業からは作業オンリー型も加わり、それぞれやりたい作業へ向かう。これらを見ていくと、行動パターンが一緒だからといって同じ作業をするわけではないことがわかった。そして、昼食で参加者全員が集まり、午後はそれぞれ再

び作業に戻ったり，帰宅したりと線が散らばっていくことがわかる．

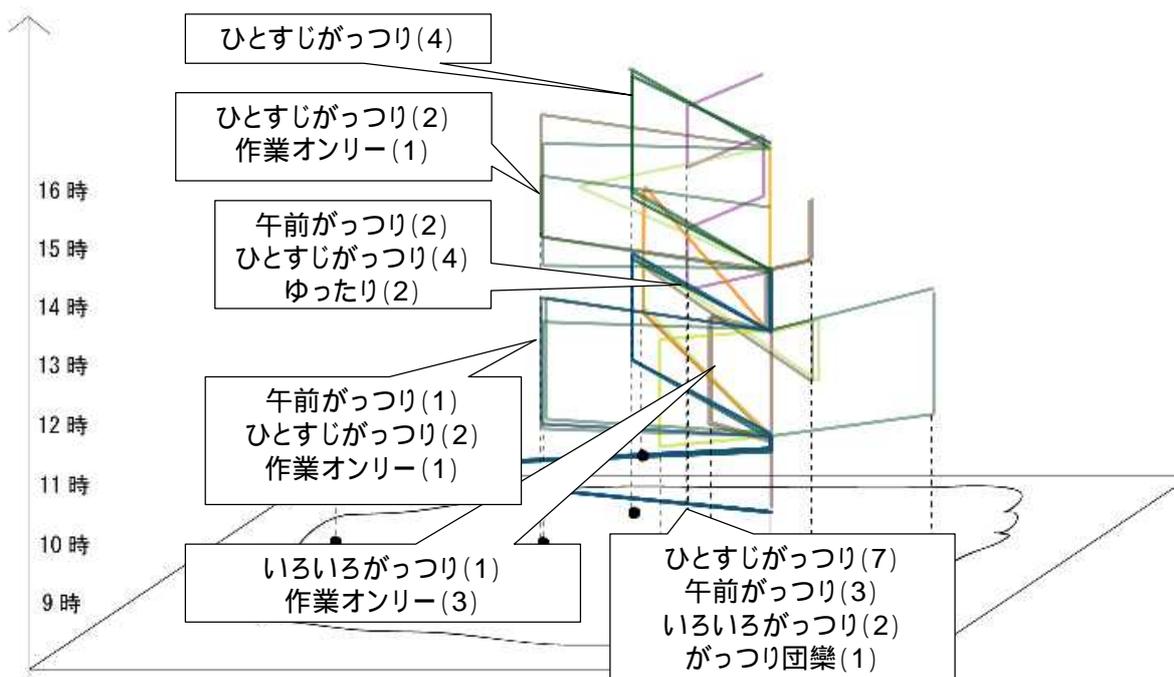


図 3-43 『遊林会』4月定例活動の行動パターンの集まり方

#### 2009年5月定例活動

この月も午前中は午前がっつり型の青色が目立っている．また，アオイ刈り取りでは特に何色が目立つということはなく，様々な行動パターンの参加者が一緒に作業していることがわかった．午後に，1人左上へ線が延びている人が特徴的であるが，これは，帰りに森の中を散歩して帰るという線である．

行動パターンの集まり方では，やはり自然観察には午前がっつり型，ひとすじがっつり型というがっつりシリーズが参加していることが分かる．また4月でもそうであったが，午前の作業が一番いろいろな行動パターンが集まっているということがわかる．

午後には，あまりまとまった行動が見られないことがわかった．しかし，ひとすじがっつり型は午後まで何人かまとまって作業を行っており，ひとすじがっつり型の人ばかりがある行動パターンだと考えられる．

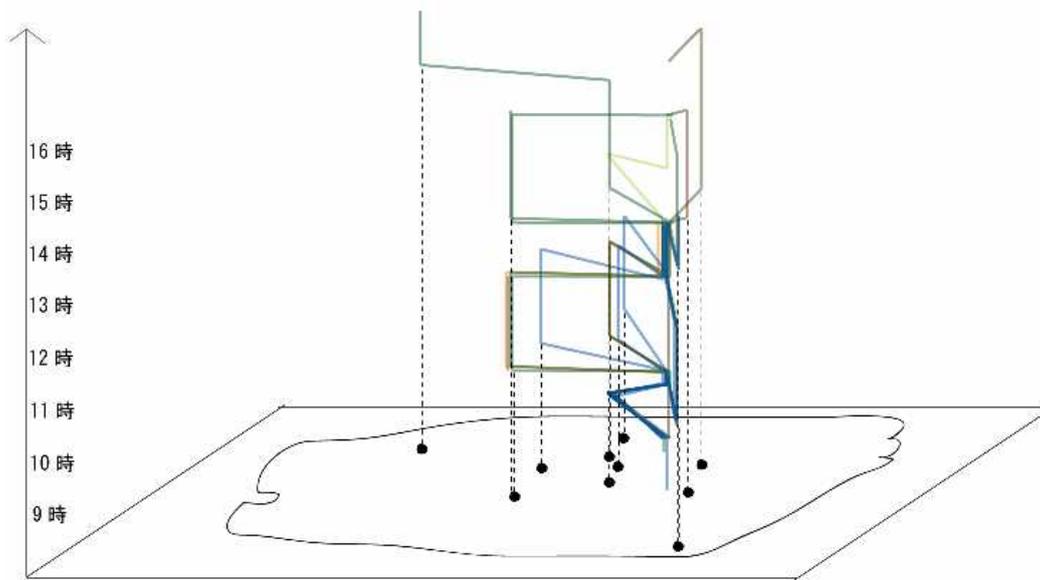


図 3-44 『遊林会』5月定例活動 3次元時・空間における参加者の活動経路

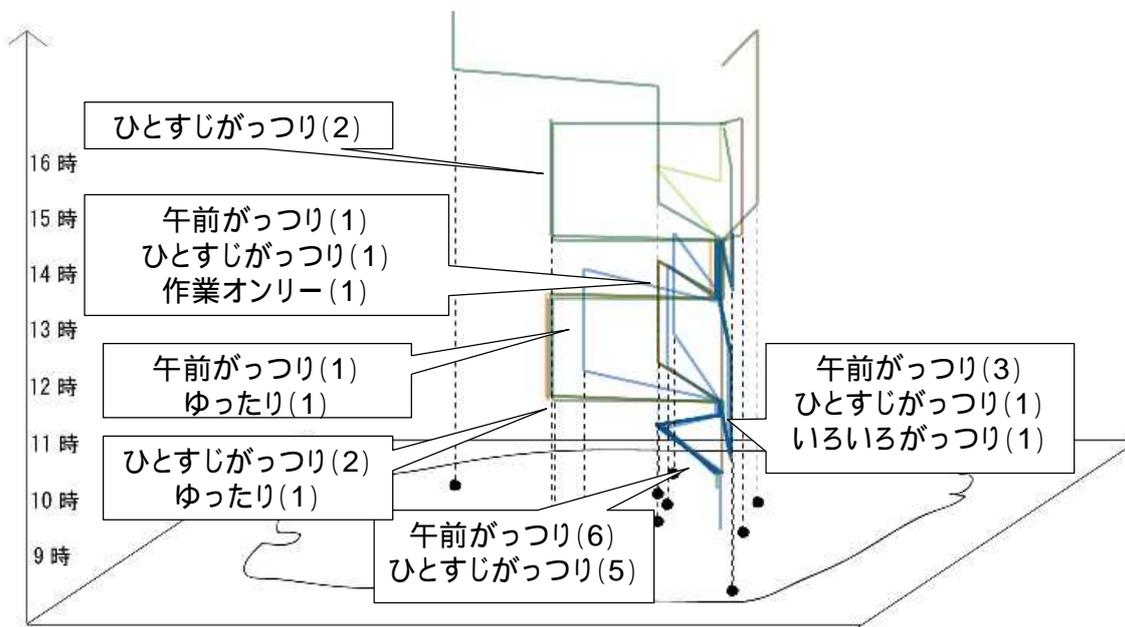


図 3-45 『遊林会』5月定例活動の行動パターンの集まり方

2009年6月

この月は「午前がっつり型」の青い色は目立たず、緑色が目立っている。だからといって4月5月の「午前がっつり型」の人たちが来ていないわけではない。ただ行動パターンを変えただけであることが足跡シートから分かった。このことから、毎回同じ行動パター

ンをとるわけではないことが分かった。

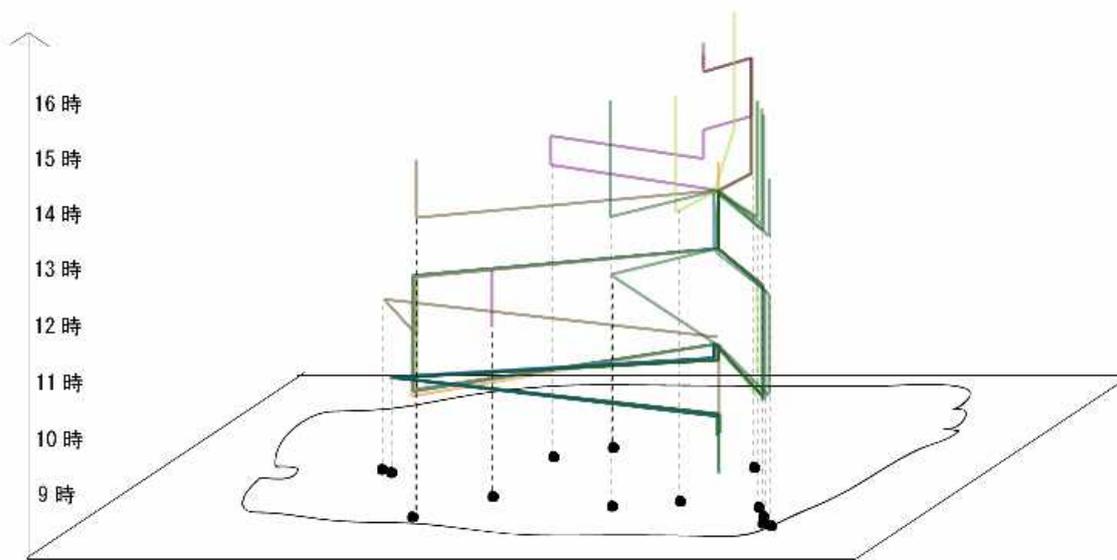


図 3-46 『遊林会』6月定例活動 3次元時・空間における参加者の活動経路

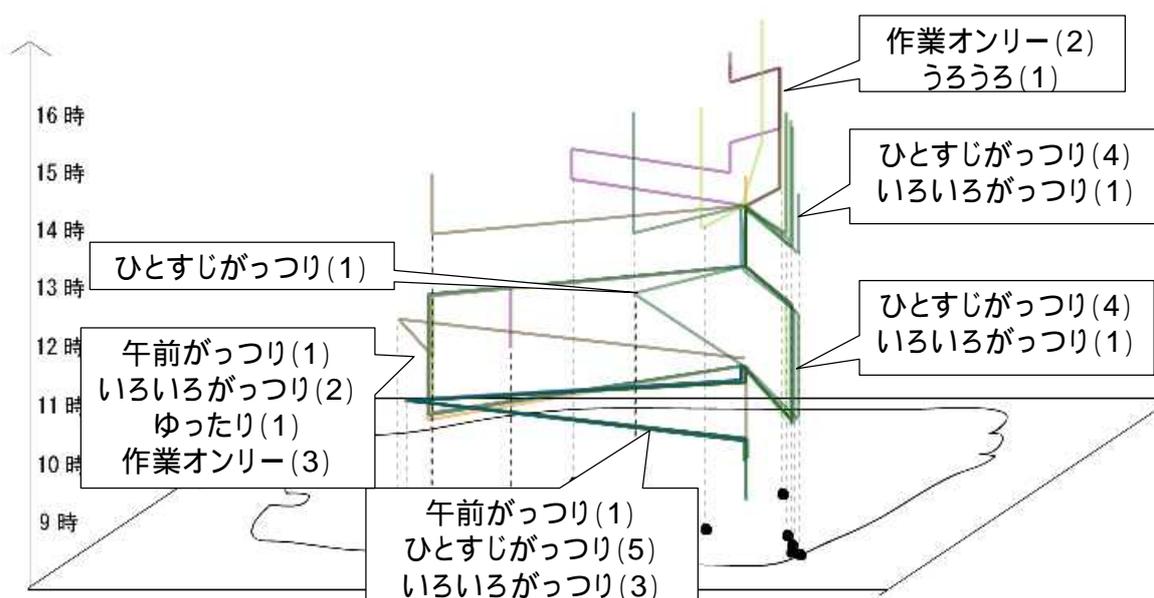


図 3-47 『遊林会』6月定例活動の行動パターンの集まり方

2009年8月

この月は8月恒例「男の料理」の月で、午前で作業が終わるので、いつもより「おもてなし型」の線が太くなっている。また、この月はスタッフの方にもアンケートを頼んでいるので区別のためスタッフは黒色で表している。このことから、スタッフは参加者と同じよう

に活動を行っている人と、施設で待機している人がいることがわかる。

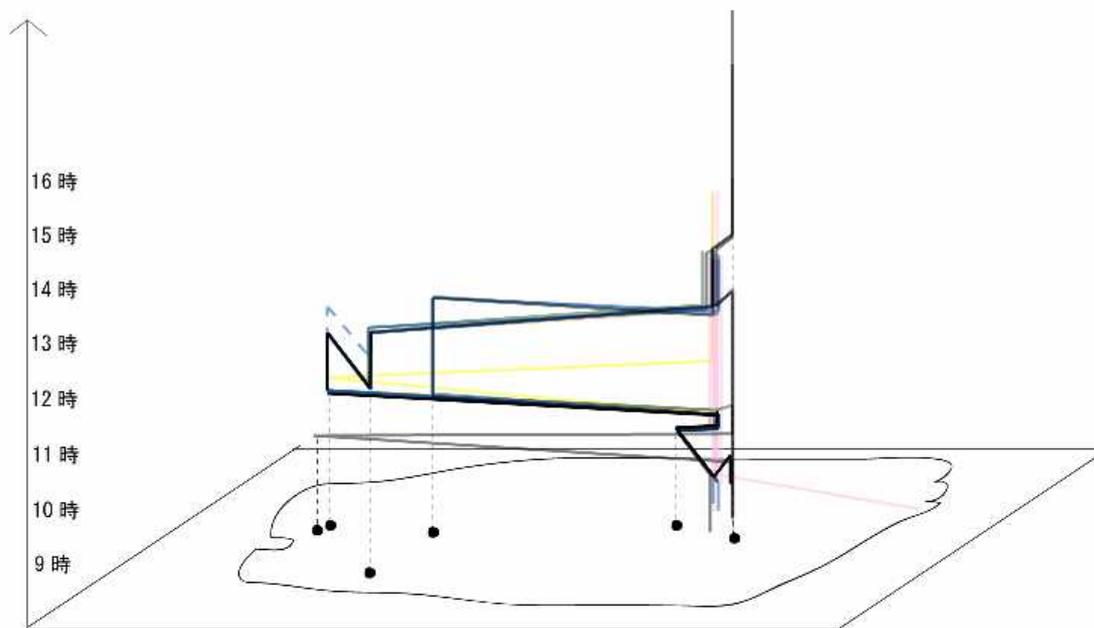


図 3-48 『遊林会』 8 月定例活動 3 次元時・空間における参加者の活動経路

行動パターンの集まり方では、8 月は男料理の日だったので、いつもよりおもてなしが多い。また午前作業では午前がっつり型だけのグループが現れたことが特徴的である。

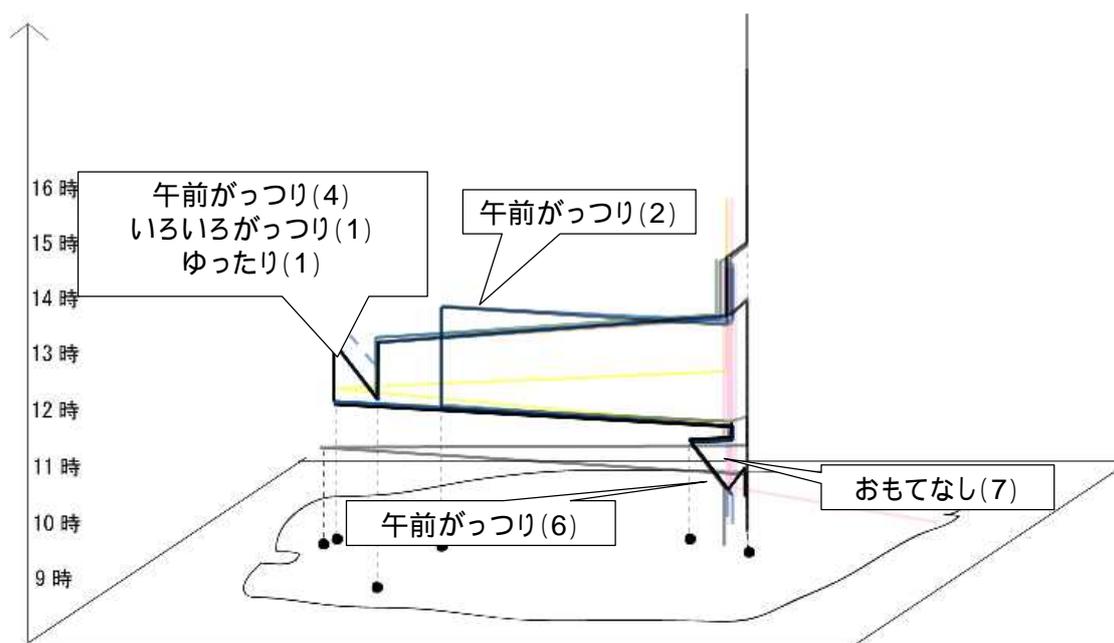


図 3-49 『遊林会』 8 月定例活動の行動パターンの集まり方

このことから行動パターンが同じ人たちが同じ活動内容をしているというわけではないことがわかった。つまり、参加者一人一人が自分のペースにあわせて活動を行っているということがわかった。

### 3-5 本章のまとめ

本章では、『遊林会』の場のマネジメントを調べるために、『遊林会』の参加者と定例活動について分析を行った。

『遊林会』の参加者は地域の人が多い。つまり『遊林会』は地域に根ざした団体であることが言える。参加理由には「里山に興味がある」「自然が好き」「料理がおいしい」「いろんな人と出会える」という理由が多く、そういった共通の興味関心を持った地域の人たちが集まり、作業・交流・食事を行う団体、場所だと言える。つまり、小さなコミュニティができていると考えられる。

また、3次元時・空間における参加者の活動経路からわかったことは、毎月の活動は自然観察、体操、午前作業、昼食、午後作業と作業の流れが決まっており、参加者はその流れに自分のペースを合わせて活動に参加していることがわかった。そして、その活動パターンは9つあり、それらは自然観察と午前・午後作業と昼食という4つの作業をどう組み合わせるかによって出来上がるものだとわかった。つまり、参加者は自分のペースにあわせ、都合のよい時間から参加し、好きな時間に帰るということを行っていることがわかった。

#### [参考文献および引用文献]

##### 1) 『遊林会』HP, データ

<http://www.yurinkai.org/> , 2009-01-24

## 第4章

### 他団体の活動調査

## 第4章 他団体の活動調査

### 4-1 他団体の選択

西部・南部，中部，湖北，甲賀森林整備事務所に問い合わせをし，10年程活動を続けている団体を抽出して，各団体に連絡をしたところ，以下の4団体にアンケートの許可が取れた．

表 4-1 他団体一覧表

名前	開始年	定例活動日
NPO法人ヒマラヤングリーンクラブ	1993	月1回
NPO自然と緑	2002	月1回
NPO法人やまんばの会	2000	第1土曜日
つつじの会	1988	月3回

#### 4-1-1 『NPO 法人ヒマラヤングリーンクラブ』

『NPO 法人ヒマラヤングリーンクラブ』の活動内容は海外ボランティアと森林ボランティアがある．海外ボランティアでは，ヒマラヤで1993年から「ヒマラヤの緑を取り戻そう」という運動をしている．本研究では森林ボランティアを取り上げる．

活動場所は森林ボランティアでは近江八幡の国有林（伊崎半島）で，カワウの糞害により枯死した樹木の再生事業に10年間取り組んでいる．

#### 4-1-2 『NPO 自然と緑』

『NPO 自然と緑』は2002年から毎月1回の「水源とふれ愛の森林づくり近江馬ヶ瀬山」定例活動の他に，自然大学やふれあいハイクなども行っている．本研究では水源とふれ愛の森林づくり「近江馬ヶ瀬山」定例活動に参加する．

活動場所は琵琶湖西岸にある「近江馬ヶ瀬山ふれあいの森」（滋賀森林管理署とふれあいの森協定を締結）とその周辺で，間伐などの森林整備作業、炭焼き、竹林整備作業などを、毎月1回実施している。『NPO自然と緑』の森林整備活動のメインフィールドである<sup>1)</sup>。

#### 4-1-3 『NPO 法人やまんばの会』

『NPO 法人やまんばの会』は2000年から活動を開始．

活動場所は米原市の日光寺という地域の東溜自然公園（地域の方の私有地を借りている）である．定例活動日は第1土曜日、モッコクラブ（2005年からスタートしたモッコクラブ。子どもたちが自分達で考え、意見を交わし、描いたイメージを実現していく活動）は第4日曜日である．本研究では第1土曜日の定例活動に参加する．

#### 4-1-4 『つつじの会』

『つつじの会』は1988年から活動を続けている団体である。

活動場所は『つつじの会』会員の知り合いである田島氏の土地を借りている。田島さんはお茶畑を持っており、放置している場所を『つつじの会』が借りている。

#### 4-2 アンケート

各団体の定例活動に筆者が参加し、アンケート配布を行った。だが、『NPO 法人ヒマラヤングリーンクラブ』と『つつじの会』は時間がかかり、活動の弊害になるという理由で足跡シートの配布が認められなかった。各団体のアンケート回収状況は以下の通りである。

表 4-2 『NPO 法人ヒマラヤングリーンクラブ』アンケート回収状況

名前	配布日	回収数	回収数	回収率
NPO法人ヒマラヤングリーンクラブ	2009年9月	21	21	100%
NPO自然と緑	2009年10月	13	11	85%
NPO法人やまんばの会	2009年9月	4	4	100%
つつじの会	2009年10月	7	5	71%

#### 4-3 他団体の活動の内容

筆者が活動に参加した記録と、足跡シートを元に各団体の活動の内容・タイムスケジュールを作成した。

##### 4-3-1 『NPO 法人ヒマラヤングリーンクラブ』

作業が始まるまでの内容

集合場所は2通りある。まず車で来る人は午前9時30分に近江八幡市小田ヶ浜公園駐車場に集合。JRで来る人は午前9時10分に近江八幡駅に集合し、スタッフの方が車で小田ヶ浜公園駐車場まで送ってくれるというものだ。そして全員集合したら活動内容の確認をし作業へと向かう。

午前作業内容

人数が多いと2グループに分かれて作業を行う。作業内容は2グループとも下草刈りである。

昼食

12時になると全員同じ場所に集合し、昼ご飯を食べる。午前作業だけの人は昼食を食べずに帰る。昼食を食べる場所はなく、各自場所を見つけてご飯を食べる形で、1人で食べる人も数人いた。

午後作業内容

午後の作業は場所を代え、20分程歩いたところで行う。2時間ほど作業を行い、再び駐車場までもどり、解散する。



図 4-1 『NPO 法人 ヒマラヤングリーンクラブ』の活動の流れ



図 4-2 『ヒマラヤングリーンクラブ』定例活動写真(2009年6月)<sup>1)</sup>

#### 4-3-2 『NPO 自然と緑』

作業が始まるまでの内容

10時に北小松駅に集合する。そこから作業場所にある小屋へとみんなで移動をする。作業場所へ到着すると今日の活動内容の確認を行い、作業に取り掛かる。

午前作業内容

3つほど作業グループのようなものがあり、何の作業をするかは各自で決め作業に取り掛かる。

昼食

お昼ごはんは小屋の近くのベンチで食べる．昼食は各自持参が基本であるが，この日はそうめんを全員分用意してくれ，お弁当とそうめんという内容だった．

#### 午後作業内容

お昼を食べ終わると再び作業が始まる．参加した日は雨が強く，作業の途中で中止となった．作業を終え駅までみんなで移動し，駅の近くの喫茶店で各自ビールを頼み反省会が始まる．15 時頃になると駅へと向かい，みんなで電車に乗り帰宅する．



図 4-3 『NPO 自然と緑』の活動の流れ

#### 4-3-3 『NPO 法人やまんばの会』

##### 作業が始まるまでの内容

集合場所はやまんばの森の小屋であるが，電車で来る場合はレンタサイクルか，スタッフの方が坂田駅まで車で迎えに来る．

##### 午前作業内容

9時には参加者が集まり「森林療法プロジェクト」のセミナーの手紙発送作業を小屋で行う．それが終わると外に出て枝を木材チップパーで処分した．12 時になると小屋へ戻りお昼ご飯をとる．

##### 昼食

昼食は，スタッフの方が知り合いによくもらっているカップラーメンを 1 人 1 つもらい頂く．その後にコーヒーも頂く．

##### 午後作業内容

午後も午前と同じチップパー作業を行ったが，雨が降り出したため途中で中止となった．雨がやむと解散となった．

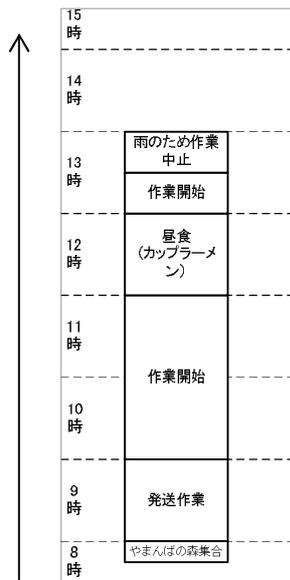


図 4-4 『NPO 法人 やまの森の会』の活動の流れ



図 4-5 『NPO 法人やまの森の会』定例活動写真（2009 年 8 月）<sup>2)</sup>

#### 4-3-4 『つつじの会』

作業が始まるまでの内容

10 時に田島さんの小屋に集合．参加者は各自車で集合する．来た人から作業にかかる．  
午前作業内容

参加者 8 名は作業範囲が狭いため全員目が届く範囲で活動をしている．活動を始めて 1 時間ほど経つと，シートをひき各自持ってきたお菓子やお茶・コーヒーをみんなで食べる．

約 20 分経つとまた作業に取り掛かる。

#### 昼食

12 時ごろになるとお昼をどうするかの話が持ち上がった。毎回こうするという決まりはなく、その場で決める。今回は、近くの市場で海鮮丼を購入し、作業場所へ持って帰って食べた。

#### 午後作業内容

午後の作業はあったり、なかったりと特に決まっていはいない。今回は、お茶摘みをみんなで 30 分ほどして解散となった。



図 4-6 『つつじの会』の活動の流れ

### 4-4 3次元時・空間における参加者の活動経路

#### 4-4-1 『NPO 法人ヒマラヤングリーンクラブ』

『NPO 法人ヒマラヤングリーンクラブ』では足跡シートの配布が認められなかった。しかし、活動は 2 グループに分かれて行うものだったので、その 2 グループの活動経路を 3 次元時・空間における個人の活動経路として扱うこととする。

『NPO 法人ヒマラヤングリーンクラブ』の 3 次元時・空間における参加者の活動経路は、個人が記入した足跡シートによるものではないが、活動は集団行動であり、参加者が何かを選択するというのは、「どちらの作業を行うか」「午後作業を行うか」ことはなかった。よって個人の活動経路も 4 種類しかないといえる。

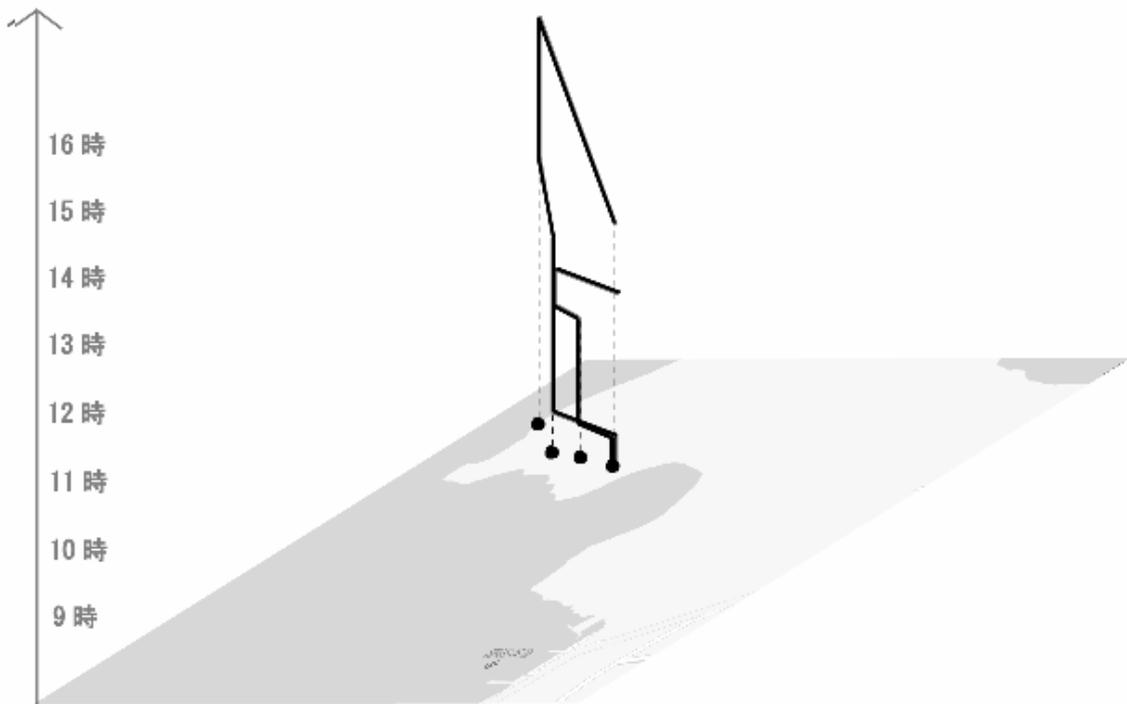


図 4-7 『NPO 法人ヒマラヤングリーンクラブ』3次元時・空間における参加者の活動経路

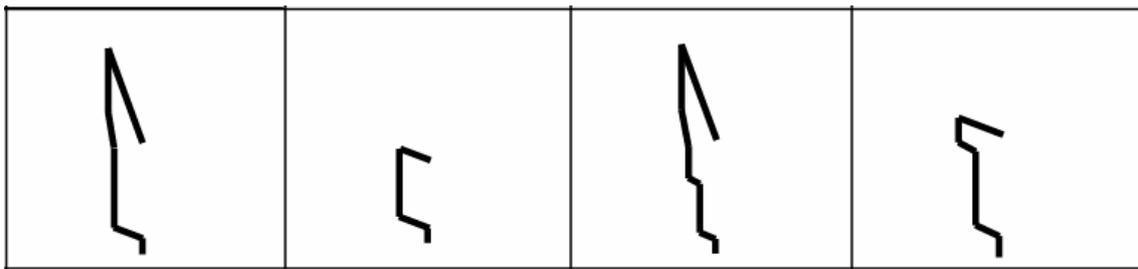


図 4-8 3次元時・空間における個人の活動経路一覧表

表 4-1 と図 4-5 から、調査した他団体の中で一番参加人数が多い『NPO 法人ヒマラヤングリーンクラブ』のように参加人数が多くても個人の活動経路が多様であるわけではないことが分かる。

#### 4-4-2 『NPO 自然と緑』

図 4-6 を見てみると特徴が 2 つあることが分かる。まず『NPO 自然と緑』ではまとまったグループが見られなかった。これは初心者がいないということもあり、各自自分が何をすればいいのかが分かっているからできる活動であると言える。次に中心となる場があることだ。『遊林会』の作業小屋のような活動中に集まれる場所があり、それは『NPO 自然と緑』にとっては小屋、ベンチでお昼ご飯はそこで昼食を食べることができる。

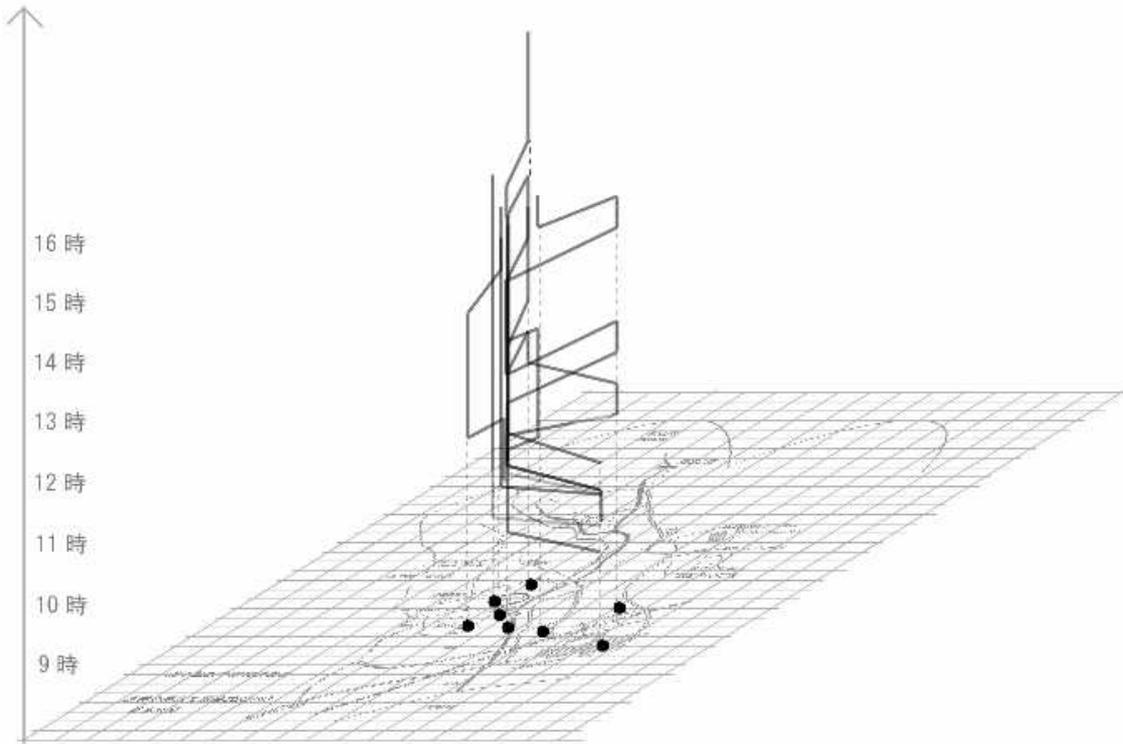


図 4-9 『NPO 自然と緑』 3次元時・空間における参加者の活動経路


図 4-10 3次元時・空間における個人の活動経路一覧表

このことから、『NPO 自然と緑』は参加者が各自「今日はどのような作業をすべきか」をわかっており、自立した活動をしていることがいえる。

#### 4-4-3 『NPO 法人やまんばの会』

『NPO 法人やまんばの会』の活動には参加者が3名しかおらず、全員同じ活動を行った。よって、3次元時・空間における参加者の活動経路は線が1つしかなく、個人の活動経

路も同じ形しかでなかった。

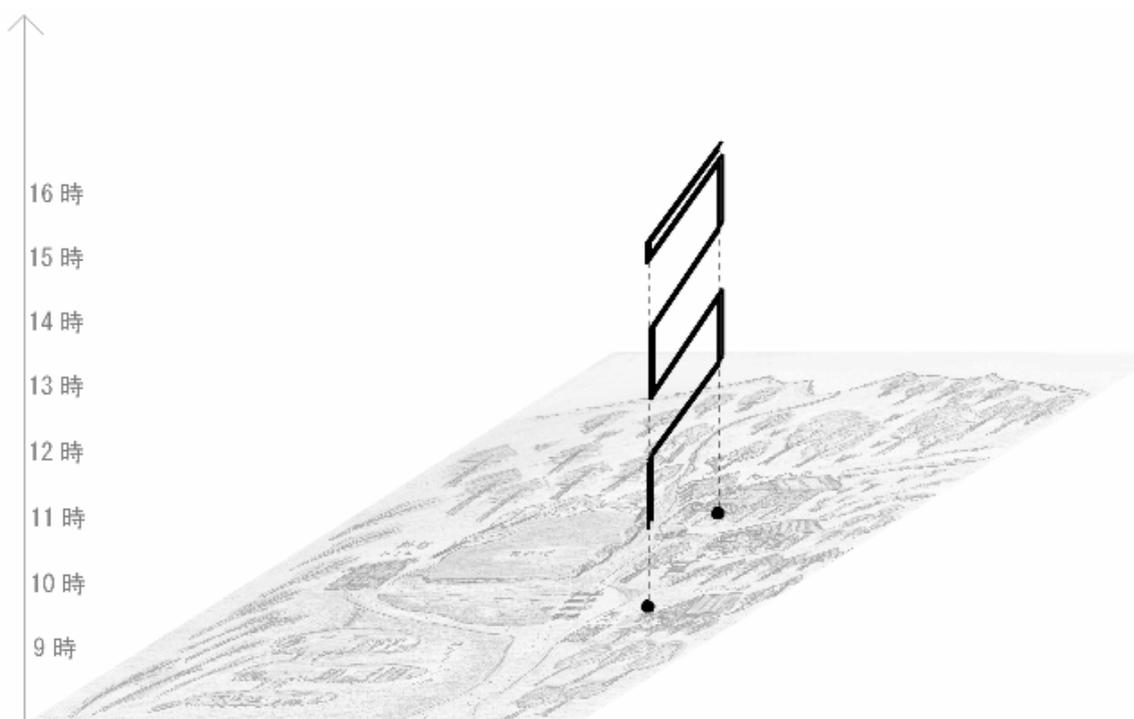


図 4-11 『NPO 法人やまんばの会』 3次元時・空間における参加者の活動経路

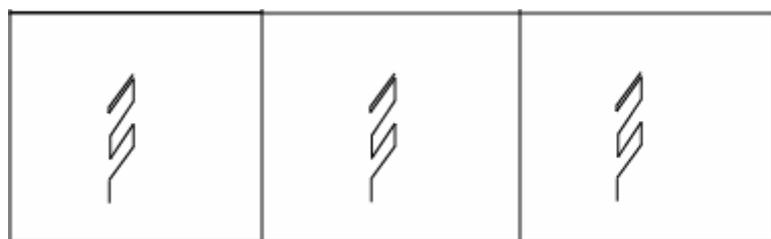


図 4-12 3次元時・空間における個人の活動経路一覧表

#### 4-4-4 『つつじの会』

『つつじの会』では、足跡シートは記入してもらっていないので、3次元時・空間における個人の活動経路作れていない。だが、『つつじの会』の活動はいつも参加者全員の顔が見れる範囲でまとまって活動をしていたので、3次元時・空間における個人の活動経路は1つのパターンしかない。

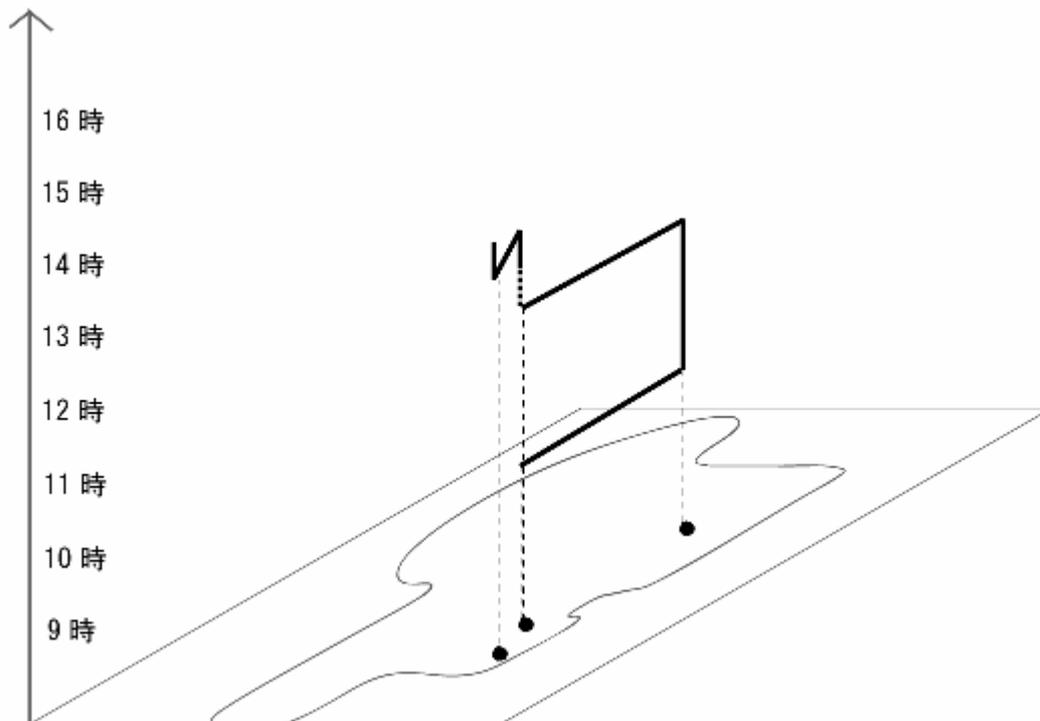


図 4-13 『つつじの会』 3次元時・空間における参加者の活動経路

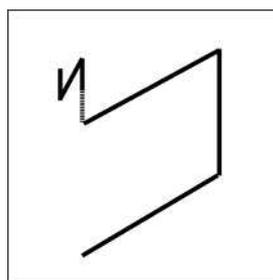


図 4-14 3次元時・空間における個人の活動経路

#### 4-5 本章のまとめ

本章では、他団体の定例活動について述べてきた。各団体の分析結果は表 4-3 のとおりである。

表 4-3 他団体分析結果一覧表

	NPO法人HGC	NPO自然と緑	NPO法人やまんばの会	つつじの会
集合場所	駅/現地	駅	駅/現地	現地
昼食	各自弁当持参	各自弁当持参&そうめん	カップラーメン	弁当購入
お酒	なし	反省会の時	なし	なし
作業グループ	2つ	複数	なし	なし
活動パターン	4つ	9つ	1つ	

他団体では集合場所が駅という場合もあり、一度に集合してから活動場所へ向かうシステムがある。そのために、『遊林会』にはなかったが、活動に参加する際に連絡が必要となってくる。『遊林会』では、集合場所が活動場所なので、連絡はいらず、途中参加もしやすいが、駅集合となると集合時間に間に合わなければ活動に参加できないということになる。よって「集合場所が活動場所」であること途中参加しやすい要因であることがわかった。

次に昼食であるが、昼食をだすところは『NPO 法人やまんばの会』だけであった。その他の団体は各自弁当を持ってくるか、みんなで買いに行くかであった。また『NPO 法人ヒマラヤングリーンクラブ』の昼食は、各自好きな場所で食べるのであまり会話がなかった。このことから、昼食は一つに場所を決めて食べる方が、コミュニケーションをとりやすいとわかった。また、お酒は『NPO 自然と緑』だけが活動後に反省会と称して喫茶店で飲んでいるだけで、他の団体はお酒を飲んでいなかった。このことから、活動を長く続けていくために、定例活動にお酒は必要不可欠ではないことがわかった。

作業では作業グループ、活動パターンは参加人数によって代わり、人数が多ければグループ・パターンが増え、少なければ一つにまとまって行動するということがわかった。

1) 『NPO 法人ヒマラヤングリーンクラブ』HP、データ

<http://www11.ocn.ne.jp/~hgc/hgc2.html> , 2009-02-20

2) 『NPO 法人やまんばの会』HP、データ

<http://www.eonet.ne.jp/~yamanbanokai/> , 2009-02-20

## 第 5 章

### 結論

## 第5章 結論

### 5-1 『遊林会』と他団体とのデータによる違い

『遊林会』と他団体のアンケートから得られたデータと活動参加による活動内容の違いをKJ法により考察した。

方法は、まず他団体と『遊林会』との違いを活動参加による体験からポストイットに書き込んでいく。次に、個人シートで得られたデータによる違いを書き込んでいく。そして、内容が似たもの同士でグループを作った結果が表5-1である。

『NPO 自然と緑』は「し」、『NPO 法人やまんばの会』は「や」、『遊林会』は「ゆ」、『NPO 法人ヒマラヤングリーンクラブ』は「ヒ」、『つつじの会』は「つ」である。

表5-1 KJ法による『遊林会』と他団体の違い

グループ	違い	遊	自	や	ヒ	つ
集合場所	集合場所	現地	駅	現地集合/駅	現地/駅	現地
	連絡の必要	なし	あり	あり	あり	あり
情報公開	HP	あり	あり	あり	あり	なし
	作業内容用紙	あり	なし	なし	なし	なし
	募集	あり	あり	あり	あり	なし
居住地	参加者の居住地	滋賀	大阪	滋賀	滋賀	滋賀
年代	10～70代そろっている		×	×	×	×
	学生がいる		×	×	×	×

このKJ法によってできたグループを元に、『遊林会』と他団体との違いを以下の様にまとめた。

#### 5-1-1 情報公開

『つつじの会』では部外者に情報公開しておらず、どこで作業をしているのか、どうやって参加できるのかがこれから何か始めようと思っている人に対して全くわからない。唯一滋賀県のホームページに連絡先（電話）が書いてあるがとても見つけにくい。他の団体も活動報告は文章で軽くしかホームページに載せておらず、情報が得にくい。しかし『遊林会』では活動日ごとにたくさんの写真をつかった活動報告をしており、情報が得やすい。

#### 5-1-2 集合場所

『NPO 法人やまんばの会』『NPO 法人ヒマラヤングリーンクラブ』『つつじの会』は集合場所が駅から離れており、現地集合か最寄りの駅集合となっている。駅集合の場合はスタッフの方が時刻を指定し駅まで車で迎えに来てくれる。『NPO 自然と緑』は集合場所が駅で、そろってから活動場所へと移動する。しかし『遊林会』は送迎などはしておらず、参加者全員が自分の足で来ているということがわかった。

15時	NPO自然と緑	NPO法人やまんぼの会	遊林会	NPO法人ヒマラヤン グリーンクラブ	つつじの会
14時	反省会 (酒) 中止				
13時	作業再開	雨のため作業 中止 作業開始	作業・団楽開始	作業再開	お茶摘み
12時	雨が降り出し、 早めの昼食 (持参弁当とソ ーメン)	昼食 (カップラメ ン)	昼食 (料理、酒)	昼食 (各自弁当)	お昼 (近くの市場の お弁当)
11時	作業開始	作業開始	作業 お茶休憩 作業	作業開始	作業開始
10時	作業内容確認 作業地到着 北小松駅 集合		作業内容配布 準備体操	あいさつ・内容確認	田島さん小屋集合
9時		発送作業	自然観察	駐車場集合 JR近江八幡駅集合	
8時		やまんぼの森集合	河辺の森 集合		

図 5-1 各団体の活動の流れ

このことから、『遊林会』が様々な活動タイプがある理由は、活動場所に参加者が各自、自分の足で活動場所に来るので、いつ活動に参加するか、いつ帰るかを自分で決められるからであることが考えられる。

### 5-1-3 参加者の居住地

参加者の居住地にも違いがあった。『遊林会』はほとんど(68%)が活動場所が存在する地域煮に住んでおり、活動に参加しやすい状況にあるといえる。その他の団体では、活動場所付近に住んでいる人は半分もいない。特に特殊なのが『NPO 自然と緑』で、滋賀県の山で活動をしているが参加者に滋賀県民は1人もおらず、大阪・京都・奈良から来ており、活動には長い時間をかけてきており、気軽に来られる活動とは言いがたい。

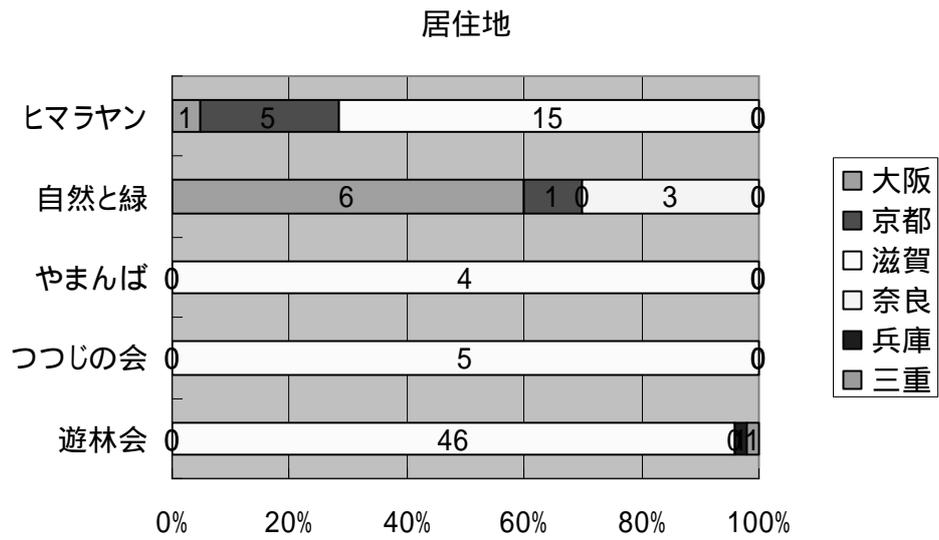


図 5-2 各団体参加者の居住地

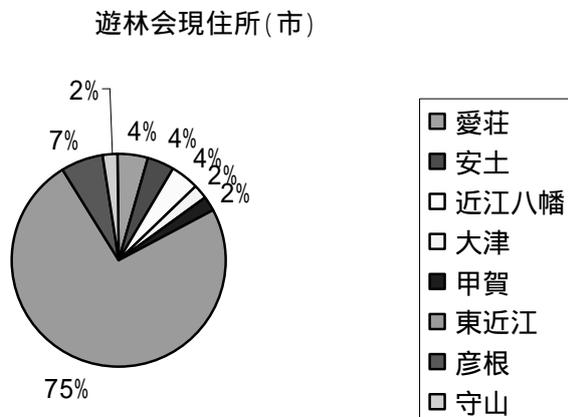


図 5-3 『遊林会』の参加者の住んでいる市

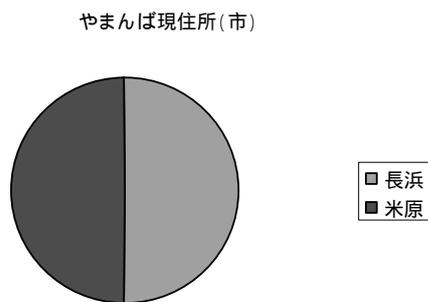


図 5-4 『やまんば』参加者の住んでいる市

#### 5-1-4 参加者の年代

参加者はどの団体も 50 代と 60 代が半数以上を占めている。しかし、『遊林会』は 50 代と 60 代が半数以上を占めてはいるが、10～70 代すべての参加者がおり、他団体で見られる「過半数を占める年代」がない。また他団体には学生・子供の参加者は見られなかった。このことより、『遊林会』は他団体に比べ世代を超えた様々な情報が得られるということになる。

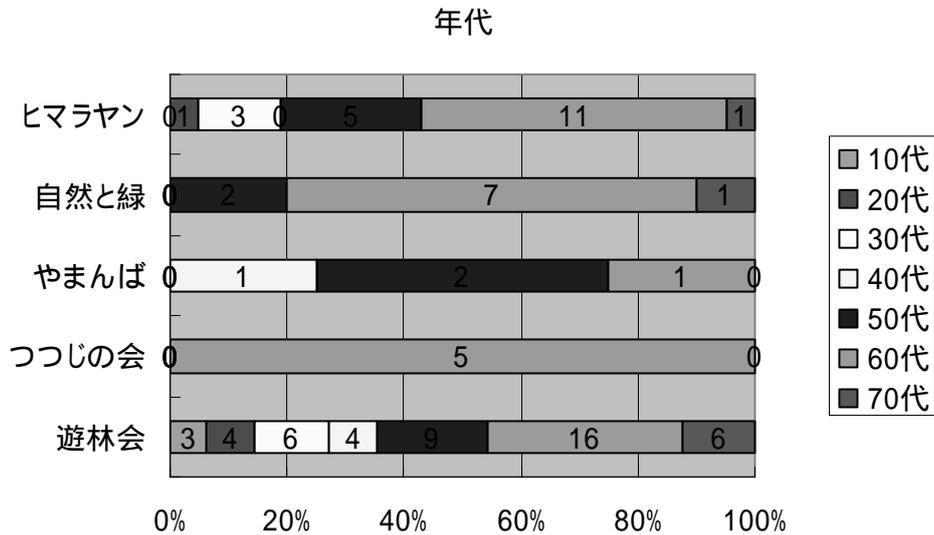


図 5-5 各団体参加者の年代

#### 5-2 『遊林会』と他団体の「あなたが思うすばらしさ」回答の違い

##### 5-2-1 すばらしさのグループ化

アンケートの項目にある「あなたが思うすばらしさ」で得られたコメント全てを『遊林会』と他団体とに分けて KJ 法によりグループ化し違いを調べた。まず、『遊林会』と他団体に分けて「あなたが思うすばらしさ」のコメントを 1 つずつポストイットに記入していき、コメントの内容が似ているものの近くに貼っていく。全て貼り終わったら、似ているもの同士をグループとして枠で囲った。そして出来上がったグループの一覧表は『遊林会』が表 5-2、他団体が表 5-3 である。他団体の表には 5-1 と同じように、団体の最初の文字を記入している。

表 5-2 KJ 法による『遊林会』参加者が思うすばらしさのグループ化

グループ	コメント内容
リラックス	気楽にできる
	気楽さ
	ストレス解消できて楽しい
	気楽.とにかく楽しいから続けられる
	楽しい
人	たくさんの世代の人が集まって,同じことをして,同じものを食べて,いい感じ
	様々な年代の人がいる
	たくさんのかたがたが活動していること
	異世代の交流
	いろいろな方と交流できる
	一癖ある親父たち
自由	自由!
	自由に何でもできる
	自由に楽しめるから
	自由参加
	固いルールがない(エチケットマナーはしっかりあるが)
	工作や生物観察など自由にできる(ルール内で)
	強制はしない
	各自がそれぞれのペースでやれる
	マイペースで自分のできる範囲で作業活動できること
	自分の力にあったことをすればよい
会員面簿がない(参加した人が会員)	
学習	いろんな分野で活躍する方が集まっているので,活動以外のことで学ぶ機会
	よく皆さんが勉強していること
	「自然大好き仲間」だ
	森に対する勉強もしっかり実施されている
自然	ここからすごく広がりました
	自然の体験がたくさんできるのが魅力的
	もちろん森の豊かさ
	自然にいつでも向きあい,多くの人々に会える
	子供たちがこの森で自然,里山の屋外勉強に来てくれて,我々が子供のころに教授したこと(技)を伝えていける場である
共同	どなたとも同じレベルで付き合いができるところ
	みんなが協力して楽しくやれる
	共に汗を流し,自然と一体感になれる
	一緒に汗をかいて,その後に酒を飲んで語らうのは健康でよい
	誰にも気兼ねなく活動ができる
食	料理のおいしさ
	一緒に食べる食事がうまい
	昼食はいるもおいしい

表 5-3 KJ法による『他団体』参加者が思うすばらしさのグループ化

グループ	コメント内容
リラックス	新しい行動(つ)
	ストレス解消(つ)
	子供たちと楽しく遊べる(や)
	のんびりできる(や)
	森を直感的に感じられる(し)
	普段はあまり意識しないことに気づける(や)
	体を動かせる(つ)
人	非営利で有意義にみんなで合意して行動できる(し)
	すばらしい人の集まり(自然を大切にしている)(ヒ)
	楽しい人(つ)
	新しい仲間(つ)
	仲間・同士(し)
	心豊かな人たち(つ)
	共感しあえる仲間(や)
	一体感がある
	人間性(つ)
	多くの人々とのふれあいから、個人を成長させる(し)
自由	好きなことを自由にできる(や)
	自由に参加(ヒ)
	参加が自由(つ)
学習	いろんな才能(つ)
	すばらしい人ばかりで自分の勉強になる(し)
	専門と素人が一緒に活動できる(し)
	みんな熱心で誠意のある活動(し)
	勉強になる(つ)
	専門家による自然観察会(し)
	多才な活動(し)
	いろんな活動がある(し)
	山菜の収穫(つ)
	様々な知識を得ることができる(し)
	生活の知恵(つ)
	得る知恵(つ)
	新しい発見(つ)
自然保護の多くを实践できる(し)	
自然	山が清々しくなる(つ)
	自然とのふれあいと変化による楽しさ(や)
	自然から多くの楽しみを見出している(名前,クラフト,草木染)(し)
	多くの活動可能なフィールドがある(し)
	自然についている色々な角度(し)
	豊かな自然の変化(つ)
第三者	駅から近く、道中も自然が楽しめ、植物の種類も多い(し)
	組織の活動を通じて、多くの人々の関心を持ってもらえる(し)
団体理念	足を運んだ人々から、様々な反応がある(や)
	地球のために必要な活動をいつも考えている(し)
	地元、海外に対しても活動されている(ヒ)
	地元と同時に、地球に対する貢献(ヒ)
	地道な活動を長年継続してる(ヒ)
	目標を明確化してる(ヒ)

次に、表 5-2 と表 5-3 の『遊林会』と他団体のグループを比較すると、表 5-4 のようになった。この各グループの参加者のアンケートの回答の内容をまとめると以下の ~ のような記述のものである。

表 5-4 参加者が思うすばらしさの違い

『遊林会』	他団体
リラックス	リラックス
人	人
自由	自由
学習	学習
自然	自然
共同	
食	
	第三者
	団体理念

「リラックス」は、精神的に癒されるという記述。

「人」は、参加している人たちに関する記述。

「自由」は、自由に、自分のペースで行動できるという記述。

「学習」は、活動を通して学習できるという記述。

「自然」は、自然に関する記述があるもの。

「共同」は、みんなで活動することに関する記述。

「食」は、料理に関する。

「第三者」は、参加者以外の人に活動を認めてもらっているという記述。

「団体理念」は、団体理念についての記述。

このグループ化により『遊林会』と他団体に共通していないものを取りあげ、『遊林会』の特徴を考察する。

#### 5-2-2 『遊林会』の特徴

「共同」

まず「共同」であるが『遊林会』では次の4つのコメントがあった。

- ・「どなたとも同じレベルで付き合いができるところ」(男性, 70代)
- ・「初めて参加しましたが、一緒に汗をかいてその後に酒を飲んで語らうのは健康で良いと思いました」(男性, 40代)
- ・「皆が協力して楽しくやれる」(男性, 70代)
- ・「たくさんの世代の人が集まって、同じ事をして、同じものを食べて、いい感じ」(女性, 20代)
- ・「共に汗を流し自然と一体感になれる」(男性, 50代)

これらをまとめると、フラットな関係で五感を通して「共同」を感じている感想だといえる。

他団体では「共同」というグループはできなかったが、「人」のグループ内に「共同」に関する以下のようなコメントがあった。

- ・「共感しあえる仲間の存在」（男性，50代）
- ・「積極的に関わる仲間・同士が多く，共に活動できる。」（男性，70代）
- ・「非営利活動で有意義にみんなで合意して行動できる点が良い」（男性，60代）

しかしこれらは「共同」らしいコメントであるが、『遊林会』のような「楽しい」「一緒に汗をかく」「同じことをして，同じものを食べていい感じ」という，五感で「共同」を感じている記述ではなく，少し論理的な思考が入っているように思われる。

「共同」についてまとめると，『遊林会』は「共同」を五感でとらえているが，他団体は論理的にとらえている傾向がある。

#### 「食」

「食」に関しては『遊林会』に3つのコメントがあった。

- ・料理のおいしさ（女性・30代）
- ・一緒に食べる食事がうまい（男性・70代）
- ・昼食はいつもおいしい（男性・60代）

『遊林会』では，昼食に料理班から手料理が出され，参加者全員で料理を食べる。他団体では持参のお弁当や買いに行くなどして食べる。この違いによって『遊林会』では食事に関するコメントはあるが，他団体にはなかったのだと考えられる。よって，食事の仕方によって参加者の意識が変わることが考えられる。

#### 「第三者」

次に「第三者」が2つである。これらは他団体のものである。

- ・「足をはこんだ人々から，様々な反応があること」（女性・50代）
- ・「ひとりではなかなか環境問題など，組織での活動を通じて，多く人々に感心を持ってもらえること」（女性・60代）

活動をすることによって，自分だけではなく他の人の興味・関心を動かしたりその反応を見れたりすることがすばらしいというコメントであり。このことから，自分が楽し

むことを第一にしている『遊林会』とは違い、他団体は第三者のことを考えて活動をしていると考えられる。

「団体理念」

そして、「団体理念」が3つ。他団体のものである。

- ・「地球のために必要な活動をいつも考えている」（女性・60代）
- ・「地元、海外に対しても活動されているところ」（女性・30代）
- ・「地元と同時に地球に対する貢献」（女性・20代）

これらのコメントは『遊林会』にはなかった。このことから、『遊林会』の参加者は「第三者のための活動」「団体理念を頭に入れての活動」よりも、「自分達が楽しむため・自分達の地域をよくするための活動」という考え方で活動しているように考えられる。

以上のことから、『遊林会』では当事者として五感を通しての活動を楽しみ、自分の楽しさを中心に活動をしており、他団体では少なからずの「第三者」や、の「団体理念」にあったように環境活動ということ意識して活動を行っていることがわかった。

### 5-3 『遊林会』の場のマネジメント

#### 5-3-1 『遊林会』の場のマネジメント特徴

『遊林会』の場のマネジメントで重要となるキーワードを考察するために、KJ法により、特徴を考察していく。

まず、5-1の『遊林会』と他団体のアンケートから得られたデータや基本調査による違いから得た『遊林会』の特徴と、5-2の「あなたが思うすばらしさ」の『遊林会』と他団体の違いから得られた『遊林会』の特徴を表5-5にまとめた。この特徴と、5-2で扱わなかった『遊林会』の活動参加者の「あなたが思うすばらしさ」のコメント（表5-6）をあわせてKJ法を行い、『遊林会』の場のマネジメントの特徴を考察する。

方法は、5-1と5-2でやったように『遊林会』と他団体の違いから得られた特徴の内容と、5-2で扱わなかった「リラックス」「人」「自由」「学習」「自然」のグループ内のコメント全てを1つずつポストイットに記入していく。そして、コメントの内容が似ているものの近くに貼って出来上がったグループの一覧表は表5-7である。

そして、ここで出たグループを『遊林会』の場のマネジメントの特徴として扱う。

表 5-5 『遊林会』と他団体の違いから得られた特徴

	特徴
データによる違い	活動日ごとに写真を使っでの活動報告
	活動場所へ直接行く
	何時に行くか、何時に帰るか自分で決めれる
	参加者は地域住民がほとんど 様々な年代がいる
「あなたが思うすばらしさ」	世代を超えた様々な情報が得られる
	五感で共同を楽しんでいる
	手料理が参加者に感動を与えている

表 5-6 『遊林会』参加者の「あなたが思うすばらしさ」のコメント

グループ	コメント内容
リラックス	気楽にできる
	気楽さ
	ストレス解消できて楽しい
	気楽.とにかく楽しいから続けられる
	楽しい
人	たくさんの世代の人が集まって、同じことをして、同じものを食べて、いい感じ
	様々な年代の人がいる
	たくさんのかたがたが活動していること
	異世代の交流
	いろいろな方と交流できる 一癖ある親父たち
自由	自由!
	自由に何でもできる
	自由に楽しめるから
	自由参加
	固いルールがない(エチケットマナーはしっかりあるが)
	工作や生物観察など自由にできる(ルール内で)
	強制はしない
	各自がそれぞれのペースでやれる
	マイペースで自分のできる範囲で作業活動できること
自分の力にあったことをすればよい 会員面簿がない(参加した人が会員)	
学習	いろんな分野で活躍する方が集まっているので、活動以外のことでも学ぶ機会
	よく皆さんが勉強していること
	「自然大好き仲間」だ
	森に対する勉強もしっかり実施されている ここからすごく広がりました
自然	自然の体験がたくさんできるのが魅力的
	もちろん森の豊かさ
	自然にいつでも向きあい、多くの人々に会える
	子供たちがこの森で自然、里山の屋外勉強に来てくれて、我々が子供のころに教授したこと(技)を伝えていける場である

表 5-7 『遊林会』の場のマネジメントの特徴

『遊林会』の特徴のグループ	『遊林会』の特徴&「あなたが思うすばらしさ」のコメント内容
同じレベル・フラットな関係がある	五感で共同を楽しんでいる
	気楽にできる
	ストレス解消できて楽しい
	気楽.とにかく楽しいから続けられる
	楽しい
いろんな人が集まる	たくさんの世代の人が集まって,同じことをして,同じものを食べて,いい感じ
	様々な年代がいる
	世代を超えた様々な情報が得られる
	様々な年代の人がいる
	たくさんのかたがたが活動していること
	異世代の交流
	いろいろな方と交流できる
	一癖ある親父たち
	いろんな分野で活躍する方が集まっているので,活動以外のことで学ぶ機会
	「自然大好き仲間」だ
森に対する勉強もしっかり実施されている	
おいしい料理がある	ここからすごく広がりました
	参加者は地域住民がほとんど
	手料理が参加者に感動を与えている
自由の中の暗黙のルール	よく皆さんが勉強していること
	自由!
	自由に何でもできる
	自由に楽しめるから
	自由参加
	固いルールがない(エチケットマナーはしっかりあるが)
	工作や生物観察など自由にできる(ルール内で)
強制はしない	
自分のペースで行動できる	会員面簿がない(参加した人が会員)
	活動場所へ直接行く
	何時に行くか,何時に帰るか自分で決めれる
	気楽さ
	各自がそれぞれのペースでやれる
welcomな雰囲気	マイペースで自分のできる範囲で作業活動できること
	自分の力にあったことをすればよい
	活動日ごとに写真を使つての活動報告

『遊林会』の場のマネジメントの特徴として、「同じレベル・フラットな関係がある」「いろいろな人が集まる」「おいしい料理がある」「自由の中の暗黒のルール」「自分のペースで行動できる」「welcom な雰囲気」という6つの項目が出てきた。では、なぜこの6つの項目が場のマネジメントに重要なのかをKJ法を使って考察する。

方法は、6つの項目のまえに「なぜ」をつけて「なぜ同じレベル・フラットな関係があるのか」「なぜいろいろな人が集まるのか」と考えていく。

「なぜ同じレベル・フラットな関係があるのか」

- ・『遊林会』のリーダー的存在である人物が、いばったりとせず、お昼はお酒を交わして楽しい雰囲気を作るのがうまいから。
- ・「河辺いきもの森」のスタッフも一緒に活動に参加し、共に汗を流し活動しているから。
- ・上記のようにとてもフレンドリーなリーダーとスタッフであるが、自然や道具に関する知識が豊富で、頼りになり安心して活動ができるから。

「なぜいろいろな人が集まるのか」

- ・10代～70代がそろっており、学生からお年寄りまでさまざまな人が集まるから。

- ・パッチワークのようにいろいろな布切れで活動が成り立つようになっているから．
- ・参加者のほとんどが地元の方で，友達を誘いやすい立地であるから．
- ・参加者のほとんどが地域の人で，地域のコミュニティの場となっており，地域の人々に愛される場所となっているから．  
「なぜおいしい料理があるのか」
- ・参加者が地元の人が多く，畑で取れた野菜や家で作ったものを持ってきやすいから．  
「なぜ自由の中の暗黒のルールがあるのか」
- ・活動に始めて参加しても「あれをしてはダメ」「これをしてください」というような指示はなく，周りの様子を見て行動をしなければいけないから．  
「なぜ自分のペースで行動できるのか」
- ・遅刻早退が自由であり，作業内容や昼食のテーブル決めなど，活動中いたるところに小さな選択があり，自分の好みの活動内容が組めるから．
- ・午前，午後の作業は同じ地点ですずっと作業を行うので，移動がない分疲れたらその場で休むことができるから．
- ・「今日の目標」というものがなく，急いで作業をする必要がないから．  
「なぜwelcomな雰囲気があるのか」
- ・HPに活動内容や，写真，イベント情報など載っており，『遊林会』の雰囲気をネット上で見ることができるから．
- ・活動日が決まっており，中止になることもないので日課にしやすい，日常生活の一部になりやすくなっているから．
- ・活動場所が集合場所なので，何時にいつでも活動が見れ，参加しやすいから．

表 5-8 『遊林会』の特徴と根本的理由

『遊林会』の特徴	根本的理由
同じレベル・フラットな関係がある	リーダー・スタッフがいばらない 参加者の中に知識を持っている人がたくさんいる
いろんな人が集まる	10～70代がそろっている
	パッチワーク
	参加者のほとんどが地元の方 コミュニティの場となっている 地元の人に愛されている
おいしい料理がある	作る人が地元のおばちゃん 主婦のストレス発散・交流の場となっている
自由の中の暗黒のルール	自由というのは責任が伴う エチケットがある
自分のペースで行動できる	好きな作業が選べる
	同じ地点で活動をする
	ノルマがない
welcomな雰囲気	情報が得やすい，わかりやすい
	日課となりやすい
	活動場所が集合場所

そして、『遊林会』の根本的理由を他の里山保全団体や、ボランティア団体でも提言できるであろうことは何かを考え、場のマネジメントで必要要素となりうるキーワードを5つ発見した。

表 5-9 『遊林会』の場のマネジメントで必要要素となっているキーワード

キーワード	他の団体にも言えるであろうこと	『遊林会』の根本的理由
信頼性	カリスマがいる	リーダー・スタッフがいない。
	フラットな関係が作られている	参加者の中に知識を持っている人がたくさんいる
自主性	自ら参加の舞台を作っている	リーダー・スタッフがいない。
	パッチワークキルトが作られている	好きな作業が選べる
	参加手法を参加主体による意味づけを評価する	パッチワーク
	自分の考えで行動している	好きな作業が選べる
自由性	自分のペースで活動できる	自由というのは責任が伴う
	時間的な連続性がある	エチケットがある
	情報を入手しやすい	好きな作業が選べる
情報共有	わかりやすい	ノルマがない
	参加者の日課となっている	同じ地点で活動をする
日常性	コミュニティ性がある	情報が得やすい、わかりやすい
	愛がある	情報が得やすい、わかりやすい
	集合場所が活動場所	日課となりやすい
	既存の物語との融合	10～70代がそろっている
	地域の中の里山という意識がある	コミュニティの場となっている
		主婦のストレス発散・交流の場となっている
		参加者のほとんどが地元の方
	地元の人に愛されている	
	活動場所が集合場所	
	地元の人に愛されている	
	作る人が地元のおばちゃん	

### 5-3-2 信頼性

まずリーダーが、対人能力やコミュニケーション能力に優れていなければならない。そしてフラットな関係を作り出すことが重要である。この「フラットな関係」については5-3-2で述べている。尚、これは『遊林会』だけに当てはまることでなく、調査した他団体にもあてはまることであった。つまり活動を長く続けている団体にはカリスマが必ずいるということがいえる。

また、リーダーだけでなくほかにもキーパーソンは必要だ。フラットな関係を作るにはサブリーダーが必要なのである。例えるなら、表5-2の「同じレベル・フラットな関係がある」の根本的理由「いろんな知識を持っている人がいる」である。この「いろんな知識を持った人」はリーダーというわけではないが、知識の豊富さからサブリーダーとなる場面が多々ある。『遊林会』でいうと自然観察の時に植物の名前などの知識を提供、作業中に刈って良い植物とそうでない植物の情報、道具の使い方など、必要とされればリーダーとなれる人物である。

このようにキーパーソンが数人いることにより、組織のフラットな関係が保たれるわけである。そしてこのようなキーパーソンによって活動の信頼性が得られるようになっていくのだ。

### 5-3-3 自主性

『遊林会』ではいろいろな場面で「選択」という行動がある。何時に活動に行くか、どの作業をするか、お昼はどこテーブルに座るか、午後は作業をするか、するなら何をするか。小さい選択かもしれないが、それぞれの活動の内容はその小さな選択によって少しずつ変わっていくのだ。つまり「参加手法を参加主体による意味づけ」ということを行っている。

このことは次のようなRPGの良いシナリオについての論からも証明できる「プレイヤーがセッション中自分の考えで行動し続け、本当の、そして自分の満足できる目的を発見し、多少の（プレイヤーから見ればかなりの）リスクを背負う選択をしてその目的を達成するためにかなりの努力をした結果それなりに満足のいく見返りをマスターが出してくれたと言うときにプレイヤーはそのシナリオがおもしろかったといえる」<sup>1)</sup>。このプレイヤーを参加者に言い換えて考えると、参加者は物語の主人公になり自らの選択で活動を勧めていくことにより、その活動に満足するようになるといえる。

次に「パッチワーク」である。近藤の「琵琶湖水環境保全の住民運動論 - シナリオと社会実験のススメ -」<sup>2)</sup>で、個が自立して作用している中から全体としての形が浮かび上がるモデルとして『共進化するパッチワークキルト』を取り上げている。説明すると「一つ一つの社会システムが自立して多様な文化を形成しているときに、それらはそれぞれの地域の生態系にもっとも適したシステムを主体的に選択することが可能になり、多様な社会システムと多様な生態系とが複雑に関係し合っ出来上がる全体の構造は、あたかも、多様な布きれをつなぎ合わせて作り上げられるパッチワークのようである。」<sup>3)</sup>よって『共進化するパッチワークキルト』というモデルができあがった。このモデルは個人個人の間でも起こり得ると考えられる。参加者個人の多様な知識・キャラクターが複雑に関係しあってパッチワークができる。中には活動をやめていく人もいるが、そこに新しい人が入ったりとこのキルトは時間とともに移り変わっていくのだ。そして5-3-1で述べたカリスマはこのパッチワークを上手に作っている。メンバーの中には知識が豊富で教える側になるメンバーもいる。しかし、そこをうまく他のメンバーとのつながりをつくり一枚の布にしていくのだ。

### 5-3-4 自由性

遊林会では集合場所が活動場所であり、みんなそれぞれの交通手段で来ているので来る時間・帰る時間が自由であり、自分のペースで作業が進められる。しかし活動内容は大雑把に時間ごとに分けられており、いくつかのグループに分けられている。自分のペースと活動のペースをすり合わせながらの活動になるのだ。5-3-2でも述べたように『遊林会』では行動も選択的で、それに時間の選択も入り、さらに個人の活動方法に個性が出せるようになっている。

また、他団体は駅集合が多く、担当の方が車で迎えに来てくれる。その分、事前の連絡

が必要であり、遅刻は迷惑をかけることになる。なので、連絡をする時点では「行きたい」という「want」の気持ちで参加者はいるが、連絡後は「行かなければ」という「have to」の気持ちに少なからずなっているということになり、この時点で参加者を確保するにあたりリスクを背負っていると言える。

#### 5-3-5 情報共有

『遊林会』では情報が上手に流れている。まずはホームページである。活動があるたびに写真付の活動報告がスタッフによってアップされる。そのほかにもイベントの情報・作業メニュー詳しい活動日等が載っている。これは活動に参加できなかった参加者が活動状況を知ることができ、活動に関する情報を得てから次の活動に参加できる。また初めての参加者も事前に活動の雰囲気を知ることができ、少し不安も減り参加しやすくなる。

また、『遊林会』では活動の中で「今日の作業内容」という A4 の紙が配られる。今、森がどういう状況なのか、どういう作業が必要なのか、昼ごはんのメニューが何なのかわかるようになっており、参加者のモチベーションがあがる。しかし、他団体では『遊林会』の「今日の作業内容」のような作業メニュー等が載った紙は用意しておらず、口頭で作業内容を確認するようになっている。これでは、聞き逃した人、遅刻してきた人はまず人に作業内容を確認しなければならず、情報が間違っただけで伝わる可能性もある。

そして一番会話が起これるのが昼食のときである。昼食の時には新人の自己紹介、午前の作業内容の報告、イベントの報告が行われる。またひとつのテーブルには最低でも 8 人はおり、その中で同じお皿から料理をとりながら会話が行われる。会話での情報共有が一番多い場は昼食であるといえる。

#### 5-3-6 定常性

『遊林会』では活動日がきちんと第何曜日か決まっている。雨の日も雪の日も活動はある。これは参加者にとっては、何ヶ月先の活動日が決まっているのでスケジュールを立てやすくさせており、『遊林会』の活動日を日課にしやすいようにしている。また『遊林会』の参加者は 68% が市民である。このことより遊林会は市民にとってのコミュニティの場としても活用されているといえる。つまり里山が「きっかけ」からコミュニティ形成の「ツール」となり、「自分たちが暮らす場への自発的な関わりをどのように作り出してゆくか、持続を可能にするためにどのような運営をすればいいかを考えることにつながる」<sup>4)</sup> ことになるのである。

#### 5-4 『遊林会』のマネジメント

以上のことをまとめた図が図 5-6 である。

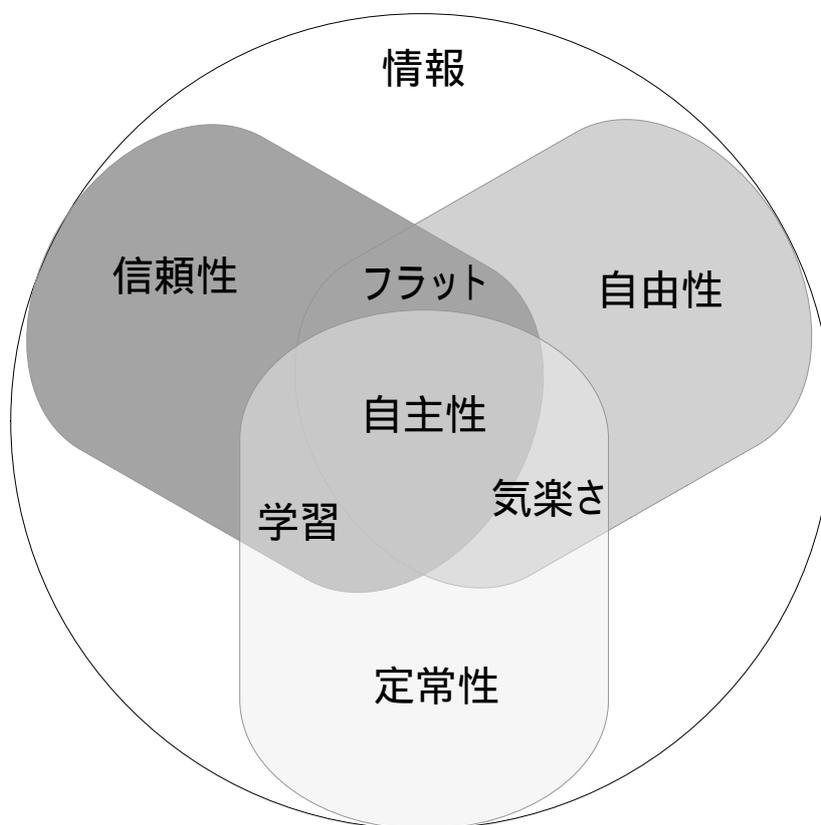


図 5-6 『遊林会』の場のマネジメント

このようにみると情報共有を元に、キーパーソン、自由性、定常性がそれぞれ重なって存在しており、すべてが重なることによって自主性が生まれていることがわかる。

キーパーソンと自由性が交わることにより、フラットな関係が生まれ、パッチワークが作られる。キーパーソンと定常性が重なることにより、参加者に生活をより豊かにする学習が行われる。定常性と自由性が交わることにより、気楽さが生まれ活動にストレスを感じずに楽しく参加ができるようになるのだ。

#### 5-5 本研究の課題

他団体を抽出する際に『遊林会』と同じように 10 年ほど活動を続けていることをキーワードに探した。しかしその結果、活動目的や運営方法など違う団体を選んでしまい、比較対象にすることに疑問が感じられる。年数ではなく、活動目的や運営方法などを基準にして抽出すべきであった。

また本研究では個人の行動を地図上に表したものを「行動パターン」として扱った。従

って団体別の参加者の大まかな動きは把握できたのだが、初めて参加する人が団体にどう溶け込んでいくのか、長く活動に参加している人は活動のフォローを行っているのかといった参加者同士のつながりを把握するに至らなかった。

参加者同士のつながりは調査方法が参加者にシートを書いていただく方式であったため、細かな情報を得ることができなかったことが原因である。従って参加者同士のつながりを把握するためには実際の活動に数人の調査者が活動に参加し、個人の動きを観察できるようなデータをとることが望まれる。また本調査においては約半年間の調査であったため、初めて参加する人が団体にどう溶け込んでいくのかといった時間を要する可能性がある内容について不十分であると考えられ、少なくとも一年以上の調査期間が必要であった。

[参考文献および引用文献]

- 1) <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/kami/thinking/scinario.html>
- 2) <http://www.ses.usp.ac.jp/nenpou/np8/np8konndou/np8kondou.html>
- 3) 丸山真人：エコロジー批判と反批判，「環境と生態系の社会学」所収，岩波書店，pp178-179(1996)
- 4) 中瀬勇：みどりのコミュニティデザイン,106-164,学芸出版社（2002）

## 謝辞

本稿は、滋賀県立大学環境科学部環境計画学科環境社会計画専攻における研究成果を学位論文としてまとめたものである。

本研究を進めるにあたり、悩みながら遠回りする中で、あたたかく見守ってくださった数多くの先生方、諸先輩方、諸学友にご指導、ご協力、助言などを頂き、厚く御礼申し上げます。

はじめに、研究の初めから終わりまで、的確で厚みのあるご指導を頂きました滋賀県立大学環境科学部環境計画学科環境社会計画専攻の近藤隆二郎准教授に心より感謝いたします。研究を進める中であらゆる場への興味や関心のきっかけをつくっていただいたことも、同じく感謝いたします。今後も研究で学び知ったことを忘れません。本当にありがとうございます。

同じく本論文の査読をしていただきました鶴飼修准教授には、本研究の完成度を高めるために有意義な助言・アドバイスをしていただき、誠にありがとうございました。

また、研究対象とさせて頂きました団体様には、活動参加やアンケート配布、資料提供などのご協力を頂き大変お世話になりました。調査の中で、皆様と汗を流して活動をし、一緒にご飯を食べ、交流できたことが研究の糧となりました。誠にありがとうございました。

そして、共に同じ研究室で学び支えてくれた安食陽子さん、多賀瑛さん、玉井郁圭さんには、研究において行き詰ったときや分からない時にいつもやさしく応えて頂きました。皆さんの支えがあったからこそ、ここに研究を締めくくることができます。

同じように研究室の中で、様々なアドバイスや息抜きの時間に付き合ってくくださった院生の倉嶋祐介さん、斉藤毅さんにも深く感謝いたします。

最後に、私にこのような素晴らしい方々とともに研究ができる機会を与えてくださった両親に感謝いたします。

2010年2月20日

浅井 千穂

**Appendix**

遊林会

活動参加者各位

平成 21 年 8 月 8 日

## アンケートご協力をお願い

拝啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、突然で失礼とは存じますが、この度私は、卒業研究として『「遊林会」における場のマネジメントに関する研究～楽しくなければ続かない～』というテーマで研究を行おうと考えております。この研究の目的は、ボランティアの人々が継続的に里山保全活動に参加しようと思う「魅力」とは何かを考察することが目的であります。最終的には、里山保全団体の楽しい場作りの例として分析していく予定です。

そこで、遊林会活動の参加者を対象にアンケートをさせていただきたいと考えております。本アンケートは、みなさまが活動中にどのような情報交換を行っているかを知るために行うもので、そこから遊林会の活動の楽しさの秘訣を探っていくものです。

つきましては、大変不躰なお願いですが、活動後に「足跡シート」と「アンケート用紙」にご記入していただけないでしょうか。記入した用紙は封筒に入れて郵送していただくか、作業小屋に設置しておりますアンケート回収ボックスに入れていただければ結構です。

「足跡シート」におきましては、3 月から 7 月にかけて何回か行わせていただく予定です。なお、調査で知り得た個人の情報は本調査の目的以外に利用することは一切ありません。

誠に勝手なお願いで恐縮ですが、宜しく願い申し上げます。

敬具

ご不明な点は浅井までご連絡ください  
滋賀県立大学 環境科学部 近藤研究室  
浅井千穂  
090-9879-1794  
[zs13casai@ec.usp.ac.jp](mailto:zs13casai@ec.usp.ac.jp)

## アンケートのお願い(個人シート)

このアンケート用紙はどのような人が活動に参加しているかを知るための調査用紙です。調査用紙で得た個人の情報は本調査の目的以外に利用することは一切なく、調査担当者しか閲覧はしません。

Q1.お名前,又はペンネームをお書きください。

ここに書かれた名前と同じ名前を,別紙の足跡シートの名前記入欄にお書きください。

Q2.性別を教えてください。

男性 女性

Q3.ご年齢を教えてください。

9歳以下 10代 20代 30代 40代 50代  
60代 70代 80代 90歳以上

Q4.あなたの居住地を教えてください。

\_\_\_\_\_県/府\_\_\_\_\_市/町/村

Q5.ご職業を教えてください。

学生 会社員 公務員 自営業 専業主婦・主夫  
フリーター 無職 その他( )

Q6.いつから活動に参加されているか教えてください。

\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_月から

Q7.遊林会の活動への参加頻度(最近の経験を教えてください)

今回初めての参加 年に3,4回以下 年に5,6回位  
年に7~11回 毎月1回位 毎月2回位  
毎月3回位 毎月4回位 より多くの参加  
その他( )

裏面に続きます

Q8.役割(活動の中で、あなたの役割などについてあれば教えてください)

\_\_\_\_\_

Q9.参加の経緯を教えてください(あなたが活動に参加したきっかけを教えてください)

友達に誘われて      HPを見て      たまたま遊びに来た      その他

その他、詳しい経緯も出来ましたらお願いします。

Q10.あなたが活動に参加する理由を教えてください。(順位をつけて、1位～3位まで)

里山に興味があるから      自然が好きだから      楽しいから  
体を動かせるから      ストレス発散できるから      勉強になるから  
料理がおいしいから      いろんな人と出会えるから      なんとなく  
地域に貢献したいから      その他

1位 \_\_\_\_\_ 2位 \_\_\_\_\_ 3位 \_\_\_\_\_

その他、参加理由について詳しくお書きください。

Q11.あなたが思う遊林会の素晴らしさを語ってください。

\_\_\_\_\_

ありがとうございました！！

